

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	救急医療体制の維持・確保(地域医療課)						施策番号	
							-1-(1)-	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	20,950 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
		162,557 千円	815,863 千円		課長	0.3 人 職員 1.4 人	担当課	保健医療課
			係長		0.7 人	課長名	山本	

[Plan] 計画 **[Do] 実施** **[Check] 評価**

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市民が、夜間や休日においても、安心して安全な医療を受けられる体制を構築し維持することは非常に重要です。これまでも、周産期医療、小児医療等の充実を行うと共に、救急医療体制の維持のため、着実な取り組みを行なっております。今後とも、これらの体制を維持していくため、市民、消防、医療機関等との連携を強化していくと共に、適正受診等の広報等にも努めます。	成果実績	下記の代表的な指標のとおりです。
----	--	------	------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
		救急医療体制の維持 市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられるよう2つの急患センター及び2ヶ所の休日診療所の開設や深夜帯の初期救急体制、眼科・耳鼻咽喉科の初期救急医療体制、二次応需体制など初期から三次までの救急医療体制を医師会や市内病院の協力のもと実施し、今後も維持・確保していきます。 (最終目標と目標年度)		市民が夜間や休日においても、安心して必要な医療を受けられる体制の維持・確保	
	(最終目標と目標年度)				大変順調

活動計画	全国的な医師不足が続いており、本市においても救急医療の維持確保は困難な状況にありますが、今後とも救急医療体制の維持確保に努めます。また、新型インフルエンザ等が発生した場合の医療体制について、医師会等の協力を得ながら、構築に努めます。さらに、救急医療体制、適正受診、かかりつけ医等についての啓発に努め、救急医療体制等に関する市民の理解向上等を図ります。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
------	---	------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
		救急医療体制の確保 全国的な医師不足が続いており、本市についても救急医療に携わる医師等の確保は厳しい状況にあります。このため、急患センター出務医師や二次救急医療協力病院などを確保していくことは困難であり、医師会をはじめとする関係機関との連携を図り、救急医療体制の確保に努めます。 適正受診等の啓発 救急医療体制の維持・確保のため、市政だよりや民間が発行する情報誌等により、適正受診(昼間に受診する時間がないなどの個人的な事由によらず、真に救急医療が必要な方のみが受診)等の促進を図るよう啓発に努めます。		医師会をはじめとする関係機関との連携を図り、救急医療体制を確保 救急医療体制の維持・確保のため、適正受診等の促進を図る啓発を実施	
					大変順調

[Check] 評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	救急医療においては医師の高齢化や診療科ごとの偏りなど様々な問題があり、その維持確保は困難な状況にありますが、医師会や関係機関の協力を得て救急医療体制の維持に努めています。また、救急医療体制、適正受診、かかりつけ医などについての啓発に努め、救急医療体制等に関する市民の理解の向上等を図りました。成果の状況は大変順調と考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	救急医療は、病院のスタッフや経営に大きな負担を強いるものであり、特に初期救急医療における経営への負担は非常に大きなものです。市民が安心して医療を受けられるよう深夜帯等の初期救急医療体制を維持するため、救急告示病院の協力により輪番により実施するなど現在の体制は、市独自で医師等を雇用するより非常に効率的であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

[Action] 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	市内の医療機関の設置状況や救急医療への協力体制などを考慮しながら、現行の小倉北区馬借にある夜間・休日急患センター及び平成25年度に八幡西区黒崎に移転予定の第2夜間・休日急患センターによる東西2ヶ所体制での初期救急医療体制等の維持確保に努めています。また、眼科の初期救急医療を維持していくための体制の見直しを行っています。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	眼科の救急医療体制について、輪番協力病院等による診療体制を維持してきましたが、市内に勤務する眼科医の減少等により、診療体制の維持が困難となりました。このため、開業医と勤務医を含めた、新たな診療体制を構築していきます。平成24年度にコムシティへ移転する第2夜間・休日急患センター整備に要した予算を除き、昨年度と同規模の予算を計上しています。	市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられるよう初期から三次までの救急医療体制を維持していきます。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	救急医療体制の維持・確保 (夜間・休日急患センター)						施策番号
							-1-(1)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 489,198 千円	平成24年度当初予算額 523,847 千円	人件費の目安	金額 145,500 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
					課長 2人 職員 7人	担当課	夜間・休日急患センター
					係長 7人	課長名	福江

[Plan] 計画	[Do] 実施	[Check] 評価
-----------	---------	------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市民が、夜間や休日においても、安心して安全な医療を受けられる体制を構築し維持することは非常に重要です。これまでも、周産期医療、小児医療等の充実を行うと共に、救急医療体制の維持のため、着実な取り組みを行なっております。今後とも、これらの体制を維持していくため、市民、消防、医療機関等との連携を強化していくと共に、適正受診等の広報等にも努めます。			成果実績	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	[成果の状況]
	救急医療体制の確保		救急医療体制の確保		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられる体制(夜間・休日急患センター、休日急患診療所における1次救急医療体制や、テレフォンセンターにおける病院紹介、医療相談業務)を維持していきます。 (最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	(最終目標と目標年度)				

活動計画	上記の目的を達成するため、夜間・休日急患センターにおいては内科、小児科、外科、整形外科を中心に、門司・若松休日急患診療所においても内科、小児科の診療を行います。またテレフォンセンターにおいて、テレフォン相談員による医療相談、市内の病院紹介を行います。			活動実績	平成23年度については、夜間・休日急患センターにおける受診者数は22,413名、休日急患診療所(門司・若松)における受診者数は3,600名でした。また、テレフォンセンターにおける医療相談、病院紹介等処理件数は77,911件ありました。
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	[活動の状況]
	一次救急医療体制の確保		一次救急医療体制の確保		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	夜間・休日急患センターにおいては内科、小児科、外科、整形外科を中心に、門司・若松休日急患診療所においても内科、小児科の診療を行います。またテレフォンセンターにおいて、テレフォン相談員による医療相談、市内の病院紹介を行います。				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	適正受診等の啓発		適正受診等の啓発		
	救急医療体制の維持・確保のため、適正受診(昼間に受診する時間がないなどの個人的な事由によらず、真に救急医療が必要な方のみが受診)等についての啓発に努めます。				

[Check] 評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	病院等の診療時間外の比較的軽度な症状に対応する初期救急医療は、夜間・休日急患センター等における23時までの診療や、救急告示病院(輪番)での翌朝9時までの診療体制により維持され、これにより、市民に対して安全安心な医療を提供できたと考えます。成果の状況は大変順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	救急医療は、病院スタッフやその経営に大きな負担を強いるものであり、特に初期救急医療における経営上の負担は非常に大きいものです。このため、救急告示病院の協力による輪番体制にて、24時間365日体制で初期救急医療体制を提供する現在の体制が効率的です。これを維持確保するためには、引き続き市が関与していく必要があると考えます。

以下、予算案作成時に記入

[Action] 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 医科に比較して、休日にも診療が多く行われている歯科診療については、一日平均患者数が約8名にもかかわらず、歯科医師2名、歯科衛生士2名が出務している現状では、GW・お盆・年末年始を除き、診療体制を見直す必要があると思われます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	引き続き、市内の医療機関の設置状況や救急医療体制などを考慮しながら、前年度より医師(歯科を除く)確保のための事業費を拡充して、夜間・休日急患センターにおける初期救急医療体制の維持確保に努めていきます。	歯科医師会及び関係機関との協議が整えば、診療の縮減により歯科医師、歯科衛生士の出務回数を減らし、歳出予算の削減を目指します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	日中一時支援事業					施策番号				
						-1-(1)-				
コスト	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,845 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局	保健福祉局		
	259,819 千円	262,154 千円		課長	0.03 人		職員	0.2 人	担当課	障害福祉課
					係長		0.1 人			課長名

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	当該事業は、市内に居住する障害児等を障害サービス指定事業所等において、一時的に預かり、日常生活訓練等を行うことで、障害児等本人の能力及び適性に応じた日常生活または社会生活を営むことができるようにするとともに、障害児等を日常的に介護している家族の負担を軽減することができます。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	--------------------	---	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	障害児等本人の能力及び適性に応じた日常生活または社会生活の実現	障害サービス指定事業所等において、障害児等を一時的に預かり、日常生活訓練等を行うことで、障害児等本人の能力及び適性に応じた日常生活または社会生活を実現する。 (最終目標と目標年度)		障害児等本人の能力及び適性に応じた日常生活または社会生活の実現 (目標自体が数値化できない)	
障害児等を日常的に介護している家族の負担の軽減	障害サービス指定事業所等において、障害児等を一時的に預かり、日常生活訓練等を行うことで、日常的に介護している家族の負担を軽減する。 (最終目標と目標年度)		障害児等を日常的に介護している家族の負担の軽減 (目標自体が数値化できない)	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	日帰りショート・放課後対策は障害福祉サービス事業者へ委託して実施していますが、事業者の新規参入を促し、受入定員の増加に努めるとともに、当該事業について保護者・関係団体と意見交換を行い、事業の充実を図るための検討を行います。	活動実績	放課後対策については、平成24年4月からほぼ同様な事業内容の公的サービス「放課後等デイサービス」が創設されます。放課後対策事業よりも「放課後等デイサービス」の方が報酬単価も高く、事業所の経営も安定することから、公的サービスへ移行する傾向があります。
-------------	---	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	日中一時支援事業(日帰りショート)の利用者数	当該事業における利用者数の増加は、障害者(児)の日中における活動の場の確保及び介護負担の軽減につながります。	172 人/月	173 人/月	176 人/月 101.7 %
日中一時支援事業(放課後対策)の受入定員数	当該事業における受入定員数の増加により、利用待機者の減少につながると共に、利用者の増加につながります。	296 人/月	330 人/日	300 人/日 90.9 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	日帰りショートの利用者数、放課後対策の受入定員数ともに前年度実績より増加し、順調に事業実施ができています。また、経営の安定から放課後対策事業所が公的サービスの放課後等デイサービス事業所へ移行する傾向がありますが、これは、放課後対策事業で課題であった「特別支援学級等の児童・生徒への対象者拡大」が図れることから、障害福祉課としても積極的に移行を勧めています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	当該事業に関する業務を障害者(児)の介護及び療育にノウハウをもつ民間の事業者へ委託しており、経済性・効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

課題	1. 日中一時支援事業(放課後対策)の問題点 特別支援学校以外の児童・生徒への対象者拡大 重度障害児が利用しやすい報酬体系へ改正 2. 同様な事業内容の公的サービス「放課後等デイサービス」の特徴 対象は学校教育法上の学校に就学している障害児 重度障害児が利用しやすい報酬体系	今後の課題 日中一時支援事業(放課後対策)と公的サービス「放課後等デイサービス」との整合性を図る必要があります。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
日中一時支援事業(日帰りショート)については、委託事業者数の増加に努めますが、日中一時支援事業(放課後対策)については、放課後対策事業所に対して放課後等デイサービス事業所への移行働きかけに力を注ぎに全体的にはサービス利用状況に対応できる事業を行います。	放課後対策については公的サービス「放課後等デイサービス」との連携を図り、日帰りショートについては利用者数の増加に努めることにより、障害者等の日中の活動の場確保と家族の介護負担軽減を図ります。	

P D C Aチェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	ボランティア活動促進事業						施策番号	
							-3-(2)-	
コスト	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,325 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
	37,294 千円	38,687 千円		課長	0.05 人 職員 0.1 人		担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課
				係長	0.1 人		課長名	清田

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 市ボランティア・市民活動センターでは、ボランティア団体とのネットワークの構築、ボランティアに関する普及・啓発活動の実施、ボランティアの養成などを総合的に支援し、市内のボランティア活動の活性化に努めています。各区のセンターにおいては、情報収集や実態把握、需給調整を行ったり、ボランティアコーディネーターが、地域活動者と協働し、より地域住民の生活に密着した活動を行うことにより、地域福祉の推進と住みやすいまちづくりのための支援を行っています。	成果実績	指標としているボランティア登録団体数・登録人数とも増加しており、ボランティアの情報収集や実態把握、需給調整も適切に行われています。
-----------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	市内のボランティア活動の活性化	-	市内のボランティア活動の活性化	-	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	市内のボランティア活動の活性化について、ボランティア団体とのネットワークの構築やボランティアの養成などに取り組みます。 (最終目標と目標年度)			%	
		%			
	%				

活動計画	ボランティア活動についての相談や援助 ボランティアグループの育成と活動助成 ボランティアの養成と研修 ボランティア活動の登録と需給調整	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	ボランティア登録団体数	745 団体	ボランティア団体の登録	769 団体	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	ボランティアの活性化のため、指標として掲げています。活動者の支援をしています。			%	
	ボランティア登録人数	22,096 人	ボランティアの登録	23,045 人	
ボランティアの活性化のため、指標として掲げています。活動者の支援をしています。	%				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	ボランティア活動の普及・啓発、ボランティア・NPO団体支援、虚弱高齢者迎送サービス、腕自慢おまかせサービス事業など、当初の計画に沿った事業が実施されています。また、ボランティア需給調整や活動の相談も受けており、ボランティアの活性化等に向けて取り組みを進めています。ボランティア活動者数の増加に向けて広報啓発活動を積極的に行ったり、地域に直接出向きその地域ごとの実態に合わせて活動支援(相談対応やイベントの開催、研修の実施など)を行っています。ボランティアの需給調整等の窓口として、ボランティア・市民活動センターは重要な役割を果たしています。各区ごとの特徴と実態に合ったボランティアの支援を行うことができ、より地域に根ざしやすい活動支援ができていることから、効果が出ていると考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ボランティア活動そのものについては、NPO団体等が多数存在し、それぞれ活動していることから、これらが実施している事業との調整が図れば、より効率性が図られるものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成23年度末時点で、769団体、約2万3千人がボランティアとして登録され福祉をはじめとして幅広い分野で活動しており、活動成果は上がっていると考えます。社会情勢の変化等に伴い多様化する地域ニーズに対応するため、今後は、団体間の調整や地域の実態にあったボランティア活動の調整等、より効率的な活動支援が課題です。	次年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	ボランティア・市民活動センターの活動に対し、引き続き補助金を交付することにより、NPO団体等との調整、各区ごとの実態にあったボランティアの支援や需給調整等、より効率的な活動支援を行います。	ボランティアの情報収集や実態把握、需給調整等を行い、ボランティア団体とのネットワークの構築等、ボランティア活動の活性化を目指します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	社会福祉ボランティア大学校運営委託						施策番号
							-3-(2)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 35,809 千円	平成24年度当初予算額 32,908 千円	人件費 の目安	金額 2,325 千円 課長 0.05 人 職員 0.1 人 係長 0.1 人	(備考)	担当局 保健福祉局
							担当課 いのちをつなぐネットワーク推進課

[Plan] 計画	[Do] 実施 [Check] 評価
-----------	--------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 地域住民の福祉に対する知識の向上や、住民参加で福祉サービスの利用者を支える仕組みづくりのため、地域福祉を担う人材の育成・強化を図るための各種研修事業を実施しています。事業の実施にあたっては、北九州市が北九州市社会福祉協議会へ委託し、ボランティア大学校において、ボランティア・市民活動センターとの連携を図りながら実施しています。	成果実績	ボランティア大学校の研修の受講者数は前年度実績を上回り、また、受講者が研修後、地域で活動できるよう市及び区のボランティア・市民活動センターとの連携もとれています。
-----------	--	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】	
	地域福祉を担う人材の育成・強化		地域福祉を担う人材の育成・強化	- 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域福祉を担う人材の育成・強化を目指し、新たな活動の担い手や、ボランティア・市民活動者の育成に取り組めます。 (最終目標と目標年度)	-		%		
				%		
					順調	

活動計画	研修事業ごとの開催回数及び日数については研修事業計画のとおり行っています。その他、研修の実施内容については、その都度市と受託者が協議して実施しています。	活動実績	活動実績は下記活動指標のとおりです。
-------------	--	-------------	--------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	ボランティア大学校の研修の受講者数(単年度)		2,400人	2,402 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内のボランティアの育成に関して、一定程度の研修機会を提供できたかを計るため、受講者数を指標とします。	2,179 人		100.0 %		
	関係団体との連携		関係団体との連携	-		
研修については、地域や団体に広くPRするとともに、受講者がその後地域で活動できるよう、市及び区のボランティア・市民活動センターと連携していますが、連携強化を数値で表すことは困難だと考えます。	-			%	順調	

[Check] 評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	地域等での福祉活動を担う人材育成のため、市民講演会、市民講座、スキルアップ研修、地域活動者研修、地域活動者支援研修、福祉有償運送運転協力者研修、その他研修を実施しています。また広報誌や事業報告書の作成等を行っています。研修後のアンケートでは、同じボランティアを行う者の体験談を聞いたり、意見交換を行うことで、今後のボランティア活動の参考になったという声や、他のボランティア団体とのつながりができた等の声が聞かれています。また、福祉有償運送運転協力者研修受講者が、有償運送実施団体に登録しボランティア活動をしているなど、その研修成果が地域での福祉活動につながる例もあります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ボランティアに関する研修は、市の他の部署でも行われている例があり、同様の趣旨の研修を統合することなどにより、より効率性が図られるものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

[Action] 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 地域福祉活動を担う人材の育成のため、前年度と同様に各種研修を実施し、活動成果は上がっていると考えます。社会情勢の変化等に伴い多様化するニーズに対応するため、同様の趣旨の研修を統合することなど内容を検討し、より効果的な研修の実施が課題です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	活動指標としている受講者数の目標を前年と同数の2400人とし、ボランティア、地域福祉を担う人材の育成を行います。研修の見直し等を行うことにより、多様化するニーズに対応します。	新たな地域福祉活動の担い手や、ボランティア・市民活動者の育成に取り組めます。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	権利擁護・市民後見促進事業						施策番号	
							-3-(2)-	
コスト	事業費	平成23年度執行額 5,946 千円	平成24年度当初予算額 12,607 千円	人件費 の目安	金額	3,075 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
					課長	0.05 人 職員 0.2 人	担当課	高齢者支援課
					係長	0.1 人	課長名	野瀬

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【成果の状況】	
	法人後見受任件数(年度末現在)	31 件	増加	42 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが困難なため、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)						
						順調	
(最終目標と目標年度)							

活動計画	第4期の市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【活動の状況】	
	市民後見人養成数(累計)	59 人	増加	69 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行っていくことで、成年後見制度の担い手や理解者を増やしているため。						
						順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	予定どおり、第4期市民後見人養成研修を実施しました。修了者10名のうち、3名が北九州市社会福祉協議会権利擁護・市民後見センターでの活動を希望し、成年後見制度の担い手として活躍することになりました。また、市民後見人個人での受任については家庭裁判所と協議を行いました。進捗がなく、今後も協議を続けていきます。成果実績や活動状況については、養成数及び法人後見受任件数は前年度よりも増加していることから順調と判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	平成23年度に老人福祉法が改正され、市民後見人の養成は市町村の責務となりました。そのため、市の施策として実施する必要があり、さらに養成研修終了後、活動する場である北九州市社会福祉協議会(権利擁護・市民後見センター)に研修業務を委託することは効率的であると考えています。また、現時点では、市民後見人の受け皿は同センターしかなく、補助金の交付先としては適当であるとともに、後見報酬としての収入分は削除するなど効率的な補助金の運用を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題 家庭裁判所においては、現在のところ市が養成した市民後見人を個人で後見人に選任するという判断に至っていません。弁護士会等の専門団体と協力しながら対応を検討する必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	補助交付団体の決算額の精査等により事業費は縮小するものの、今までの取り組みに加え、市が養成した市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの構築に向けた検討会を開催するなど、積極的な事業運営を行っていきます。なお、平成25年度予算からは事業費を障害福祉課と分担します。
	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの方向性を形付けます。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	年長者研修大学校の充実							施策番号			
								-3-(2)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,700 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		158,865 千円	158,865 千円		課長	0.05 人		職員	0.15 人	担当課	高齢者支援課
					係長	0.2 人				課長名	野瀬

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	高齢者の教養、健康、趣味、レクリエーション等の生きがいづくりや健康づくりを促進するとともに、地域活動を担う高齢者の人材育成を図ります。	成果実績	講座を通じて、高齢者の生きがいづくりや、地域活動を進めました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】	
	高齢者の生きがいづくり、社会参加の促進		高齢者の生きがいづくりや仲間づくり、及びボランティア活動等の促進			
	教養、健康等の講座を通じた高齢者の生きがいづくりや仲間づくりを進めるとともに、地域活動の講座を通じたボランティア活動等の促進を目指します。 (最終目標と目標年度)					
				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

活動計画	高齢者の生きがいづくり、健康づくり、地域活動を担う人材育成のためには、当事業は重要であると考えています。今後とも、講座内容等を適宜見直ししていくなど、事業の目的に沿った運営を図っていきます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	延べ利用者数		増加	73,211 人		
	研修コース、利用者数だけでなく、ボランティア、同好会活動等の利用者も加えることにより、高齢者の生きがいづくりや健康づくり、人材育成の総合的な目安としています。	77,289 人				
	ボランティア活動による延べ利用者数		増加	9,236 人	順調	
	地域活動を担う高齢者の育成に関する指標として、利用状況の中でもボランティア活動による利用者数を目安としています。	10,430 人				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	カリキュラムの見直しや募集PRに努めた結果、前年度に比べて入学者数が増加しました(H22年度933人、H23年度981人)。また、冬季に暖房設備が故障したため、延べ利用者数への影響はあったものの、受講生が地域活動やボランティア活動に参加するなど、地域活動を担う高齢者の人材育成を進めることができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	周望学舎、穴生学舎だけでなく、北九州穴生ドーム等との一体的・効率的な運営により、平成20年度比で経費削減を実現しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	高齢者の生きがいづくりや仲間づくり及びボランティア活動等の促進に向けて、引き続き講座内容の充実を図り、多くの高齢者に学習の場を提供していく必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	新規獲得や人材育成の充実を図るカリキュラムの見直しや、募集PRを行います。予算額は、「現状維持」です。	引き続き講座を通じ、高齢者の生きがいづくりや仲間づくり、ボランティア活動の促進を目指します。

P D C Aチェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	いのちをつなぐネットワーク事業						施策番号	
							-1-(1)-	
コスト	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	172,200 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
	8,070 千円	14,250 千円		課長	0.3 人 職員 0.5 人		担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課
				係長	16.5 人		課長名	清田

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	住民と行政の力を結集し、地域における既存のネットワークや見守りの仕組みを結び付け、セーフティネットの網の目を細かくすることによって、高齢者のみならず、支援を必要としている人が社会的に孤立することがないよう地域全体で見守り、必要なサービス等につなげていく仕組みです。			成果実績	地域福祉の中心的役割を担う民生委員に対する積極的支援を推進してきた結果、活動しやすくなったと評価する声があがっています。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【成果の状況】	
	地域福祉ネットワークの充実強化	-	地域福祉ネットワークの充実強化	-		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	地域福祉活動を積極的に支援するとともに、活動を広めたり、活動者間の連携を促進するなど、活動しやすい環境づくりに取り組みます。これにより、支援を必要とする人が地域の中で孤立しない、地域の見守り体制づくりを目指します。 (最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

活動計画	出前講演による啓発や地域団体・民間企業等が参加するいのちをつなぐネットワーク推進会議を開催し、全市的な取組を推進します。 また、地域の会合に積極的に参加し、福祉活動を行う市民と意見交換や情報提供を行います。そして、支援が必要な人に関する地域からの個別相談に対しては、区役所内部の連携及び関係機関との協力により、行政サービスにつなぐたり、地域による見守り活動を支援します。	活動実績					
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標				
	地域会合への参加(回数)	1,483 回	地域会合への参加等				
	事業啓発のため出前講演を行ったり、地域の会合に参加し意見交換や情報提供を行うなど地域福祉活動を支援しています。			実績 (達成率)			
				1,473 回		【活動の状況】	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
						順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	順調に推移していると思いますが、さらに地域福祉ネットワークの網の目を細かくしていくため、地域団体間の連携促進や、民間企業・団体とのネットワークづくりを推進する必要があります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	単身高齢者が増加傾向にあるなど、地域における福祉ニーズが多様化・複雑化する傾向にあるなかで、対応困難な事例が増えています。当該事業は、地域福祉活動への支援強化を目的として始まった取組であり、その地域(民間)から行政に対してより積極的かつ丁寧な対応が求められており、現時点ではコストカットや事務効率化の対象には馴染まないと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	平成24年度も積極的に地域会合へ参加し、地域福祉活動への支援は順調であると考えますが、社会的孤立への対応という対象が捉えにくい問題への取り組みであることから、幅広い団体・企業にも協力を呼びかけています。この中で、各々の団体に依頼する内容が異なるため、個別具体的な協力関係づくりが課題となっています。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き、地域会合への参加や迅速な個別相談対応を通じて、民生委員等の地域福祉活動を支援します。また、民間企業・団体との協力関係づくりを推進するため、企業訪問等による個別協議を進めます。 なお、事業推進に影響しない範囲で事務費の節減に努め、予算を縮小します。
	地域福祉活動の活性化を図るとともに、支援が必要な市民に「気づく」役割を担ってもらえるよう民間企業・団体との協力関係を拡げていくことを目指します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	保健・医療・福祉・地域連携システム推進事業							施策番号			
								-1-(1)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	24,425 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		11,404 千円	10,610 千円		課長	0.45 人		職員	1.5 人	担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課
					係長	0.8 人				課長名	清田

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 地域住民、地域団体、保健・医療・福祉関係者、行政機関等で構成される区保健・医療・福祉・地域連携推進協議会(以下、推進協)は、子どもから高齢者までの誰もが住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めることを目的とし、地域が連携しお互いに支えあうネットワークづくりに取り組んでいます。その活動に対し補助金を交付することにより、地域連携の推進を目指します。	成果実績	推進協では、専門部会の開催や研究会等を開催し、地域連携の活動を行っています。
-----------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】	
	推進協を中心とした保健・医療・福祉・地域団体との連携強化 支援が必要な人を地域でお互いに支え合うネットワークづくりを推進するため、各方面の地域関係者が集まり、地域の多様なニーズや課題について情報共有や意見交換を行います。また、事業を通じ、地域住民への啓発を行います。 (最終目標と目標年度)	-	地域・関係団体との連携強化	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)				順調	

活動計画	推進協において、関係者・地域による専門部会を開催するほか、地域ケア研究会、各種ネットワーク会議を開催して、地域ニーズの把握を行います。健康まつり、ウォーキング等のイベントを通じた啓発活動や広報誌、ホームページなどによる広報活動を行い、関連情報の発信に努めます。以上の推進協の活動に対し、補助金の交付による支援を行います。	活動実績	推進協では、専門部会の開催のほか、各区の特性を生かした広報・啓発活動を行いました。
-------------	--	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	推進協における高齢者・子育て支援などの専門部会や研究会の開催 地域の多様なニーズを把握し、地域の課題に対し、きめ細かく対応するために、高齢者支援・子育て支援・健康生きがいづくり等の各専門分野にわかれ、情報共有や課題解決のための会議・研究会を、各区で行っています。	-	地域・関係団体との会議開催	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	推進協における地域福祉に関する広報・啓発活動の展開 地域福祉に関する活動を地域に知ってもらい、地域福祉のネットワークづくりを推進するための一環として、健康まつりやウォーキング等の広報・啓発活動を各区で行っています。	-	地域福祉に関する広報・啓発活動の展開	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	地域福祉のネットワークづくりや地域連携の推進のため、推進協では、高齢者支援、子育て支援、健康づくり、安全安心等の専門部会にわかれ、地域の課題やニーズ等の会議・研究会を行い、民生委員等の地域関係者や、ケアマネジャー等の専門職員との意見交換がされています。また、他専門部会や総会で報告され、情報共有もされています。 健康まつりやウォーキングのイベントでは、子どもから高齢者まで幅広い年代の方が参加され、広報・啓発活動においても、一定の効果を挙げているものと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	平成23年度から区の事務局を保健福祉課へ変更したことにより、福祉分野等の専門性のあるニーズに対応できるようになったと考えています。しかし、区によって活動に差が見られるため、新しいニーズなどに対応できるよう、事例検討等の実態に合わせた取り組みを強化することで、より効率的で高い効果が得られるのではないかと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	平成24年度も補助事業として、推進協において高齢者・子育てなどの会議や研究会を開催し、地域福祉ネットワークづくりに取り組んでいます。推進協がより積極的な活動を行っていくために、行政側として事務局機能や支援の強化が課題です。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き、推進協の活動に対し補助金を交付することにより、保健・医療・福祉の地域ネットワークの活動支援を図ります。	地域でお互いに支え合うネットワークづくりを推進するため、推進協を中心とした保健・医療・福祉・地域団体との連携強化を目指します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	生活保護の実施						施策番号			
							-1-(1)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	0 千円	(備考)	担当局	保健福祉局	
		44,583,891 千円	48,124,000 千円		課長	0 人		職員	0 人	担当課
			係長		0 人			課長名	中野	

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	日本国憲法第25条に規定する理念に基づき、国が生活に困窮するすべての国民に対して、生活保護法により必要な保護を行い、その最低限の生活を保障するとともに、その自立のための支援を行います。			成果実績	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【成果の状況】
	保護が必要な方が保護の適用から漏れることのないよう、また、必要でない方が漫然と保護を受けることのないよう、生活保護の適正実施に努めます。 (最終目標と目標年度)		生活に困窮する方の最低限の生活の保障			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	生活保護の適正実施に努める。				活動実績	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【活動の状況】
	生活保護の適正実施。		生活保護の適正実施			活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	保護が必要な方が保護の適用から漏れることのないよう、また、必要でない方が漫然と保護を受けることのないよう漏救・濫救の防止に取り組んでおり、適正な生活保護行政を実現できていると考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	限られた職員数のなかで、適正かつ効率的に業務を行うため、就労支援、年金資格調査、また被保護者の心理ケアなど、専門的知識を要する業務については、専門の嘱託員を配置したり、ノウハウのある民間企業に業務を委託しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	さらに、保護が必要な方が保護の適用から漏れることのないよう、必要でない方が漫然と保護を受けることのないよう、生活保護の適正実施が必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	生活保護の適正実施。	保護が必要な方への保護の適正実施。 漏救・濫救の防止。 限られた職員数のなかで、適正かつ効率的な業務の実施。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	自立支援事業の拡充						施策番号		
							-1-(1)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	10,750 千円 (備考)	担当局	保健福祉局	
		121,221 千円	151,101 千円		課長	0.5 人	職員	0 人	担当課
			係長		0.5 人			課長名	齋村

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 多様で複雑な問題を抱えている生活保護受給者が、少しでも早く生活保護から自立できるよう、自立支援体制の拡充を図り、効果的な自立支援を行います。	成果実績	成果状況は下記の通りです。
-----------	---	-------------	---------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	就職者数	生活保護受給者の経済的な自立に向けて、一人でも多くの就職者を出すことが重要です。 (最終目標と目標年度) 100% (毎年度)	817 人	就職者数増加	1,375 人 %
効果額 (保護費削減額)	効果額は、就職による保護費削減効果です。就労収入による削減効果と廃止 (生活保護からの自立) による削減効果の二つがあります。 (最終目標と目標年度) 100% (毎年度)	283,334 千円	保護費削減	470,414 千円 %	

活動計画	経済雇用状況がまだまだ厳しい中、生活保護受給者がその能力を十分に活用し、自立を図るために、求人開拓の専門員を配置し、福祉事務所で直接職業を紹介できる仕組みづくりが必要です。就職に必要な書類の書き方や、面談技法等を学ぶセミナーを開催します。また、対象者に適合した求人の提供を確実に実行する十分なキャリアカウンセラー数の確保など、自立支援のための体制構築を行った後に自立支援を推進します。	活動実績	活動結果は下記の通りです。
-------------	--	-------------	---------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	自立支援プログラム活用数	生活保護受給者が経済的に自立するためには、まず、自立支援プログラムの活用を積極的に行う必要があります。	4159 件	4,500 件	4,296 95.5 %
就労支援専門員等の配置数	就労支援と年金調査に関する豊富な経験と知識を持った専門員を配置し、福祉事務所における自立支援体制を拡充する必要があります。	15 人	29 人	29 100.0 %	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	23年度は、自立支援体制を拡充する取り組みとして、民間キャリアカウンセラーを10名及び求人開拓員を4名増員し、合計で25名に拡充しました。また、就労支援専門員4名を引き続き配置し、29名体制で就労支援を行いました。その結果、就職者数や効果額において前年度比で約1.7倍の成果を得ることができました。また、自立支援プログラム活用数もほぼ目標を達成できたので、活動状況を「順調」としました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	この自立支援事業は、全額を国の補助金及び県の基金を活用して実施しています。また、民間キャリアカウンセラーの配置については、民間企業が持つノウハウを活用するという観点から、民間に委託して実施するなど、より経済的な運営を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成23年度はキャリアカウンセラーの増員等、支援体制を拡充したことにより、前年比1.7倍の就職者や1.5倍の就労による廃止を出すことができました。平成24年度も順調に就職や保護廃止に結びついている状況です。一方で、直ちには就労に結びつかない就労意欲の低い対象者への対応が今後の課題です。
	次年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	支援対象者の増加に伴い、事業費を増額しキャリアカウンセラーを1名増員するなど、体制を拡充した上で、就労支援プログラムの対象者の選定を組織で確実に実行し、対象者に応じたきめ細かな支援を行います。その取り組みの中で、意欲の低い被保護者を対象とした就労意欲喚起(就労体験等)の取り組みを全区に展開します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	北九州市保健福祉オンブズパーソン事業							施策番号		
								-1-(1)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	11,150 千円	(備考)	担当局	保健福祉局	
		356 千円	1,878 千円		課長	0.1 人		職員	0 人	担当課
			係長		1 人			課長名	青柳	

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市が実施し又は所管する保健福祉サービスに関する利用者及び利用希望者からの苦情を、中立的かつ公正な第三者である保健福祉オンブズパーソン(弁護士、大学教授、社会福祉士)を通じて簡易かつ迅速に処理することにより、利用者等の権利及び利益を保護し、保健福祉サービスの質の確保を図るとともに、公正で信頼される保健福祉行政を推進します。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	
	公正で信頼される保健福祉行政を推進する		公正で信頼される保健福祉行政の推進	%	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	保健福祉サービスの質の確保を図るとともに、公正で信頼される保健福祉行政を推進します。 (最終目標と目標年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

活動計画	公正で信頼される保健福祉行政を推進するため、保健福祉サービスに関する苦情の解決を図ります。また、各区での巡回相談会やホームページ、ポスター、パンフレット等によるPRも実施します。 実施方法は、中立・公正な立場で委嘱されたオンブズパーソンによる苦情解決や事業のPRを、市が直接実施します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)		
	相談受付件数		簡易かつ迅速な処理	168 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	保健福祉サービスに関する苦情や相談を解決し、公正で信頼される保健福祉行政の推進を図ります。	163 件		%		
	巡回相談会の実施		12 回	12 回	100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	公正で信頼される保健福祉行政の推進度を数値で表すこと(客観的な指標化)は困難です。平成23年度に受付けた苦情相談を解決するため、利用者等の権利及び利益を保護し保健福祉サービスの質の確保に努めたことから、公正で信頼される保健福祉行政の推進が進んでいると判断しており、成果の状況は順調と考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで、 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	平成23年度から正規職員を1名削減し、またPRにあたっては市政だよりや市(広報室)が契約しているポスター掲示場を活用する等コスト削減に努めています。保健福祉サービスに関する相談者のニーズに対応するためには、現状における経済性・効率性は妥当であると考えます。 また、保健福祉サービスには直接市が行なうものと福祉サービス事業者が行なうものがあり、利用者等の権利、利益を保護するためには、市が実施主体となるのが適切で、民間活力の導入は馴染まないと思われます。 なお、本事業における苦情の相談・解決にあたっては、弁護士、大学教授、社会福祉士等中立・公正な第三者(オンブズパーソン)を既に活用しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	本事業において、苦情申立てには実名申請の必要がありますが、匿名希望の苦情相談も多く見受けられます。今後、一層の苦情解決が図れるよう引き続き丁寧な事業説明を行ない、公正で信頼される保健福祉行政推進に努めていきたいと考えています。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	公正で信頼される保健福祉行政を推進するため、保健福祉サービスに関する苦情の解決を図ります。また、各区での巡回相談会やホームページ、ポスター、パンフレット等によるPRも実施します。 事務の見直しにより、平成25年度の事業費については27%程度の削減に努めています。	市が実施し又は所管する保健福祉サービスに関する利用者及び利用希望者の権利及び利益を保護し、保健福祉サービスの質の確保を図るとともに、公正で信頼できる保健福祉行政を推進します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	リハビリテーション連携推進事業(地域医療課)						施策番号	
							-1-(2)-	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	13,400 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
		406 千円	639 千円		課長	0.1 人 職員 0.7 人	担当課	保健医療課
					係長	0.7 人	課長名	山本

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	高齢者や障害のある人が、住みなれた地域で、安全にいきいきとした生活を送ることができるよう、医療機関相互の連携を強化し、保健・医療・福祉が密接に連携した地域リハビリテーション支援体制を確立します。			成果実績	脳卒中地域連携バスが市内で統一して使用されており、急性期病院と回復期病院の医療機関相互の連携は進んでいます。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【成果の状況】	
	医療機関相互の連携による適切なリハビリテーションサービスの提供		医療機関相互の連携を強化し、切れ目のない適切なリハビリテーションサービスが提供される状況の維持	%		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	医療機関相互の連携を強化し、切れ目のない適切なリハビリテーションサービスが提供される状況を維持していきます。 (最終目標と目標年度)				大変順調 順調	大変順調	
	(最終目標と目標年度)			%	やや遅れ 遅れ		

活動計画	医療機関相互が連携し、適切かつ効果的なリハビリテーションサービスが提供されるよう、本市のリハビリテーション支援体制の現状と課題を把握するための実態調査の実施や情報提供・啓発活動を行います。			活動実績	下記の活動のほかに、出前講演を5ヶ所で開催し、市民や福祉関係者へリハビリテーションの啓発を行いました。		
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	地域連携バス及び急性期リハビリテーションに関する調査報告書の作成・配布		450 部	480 部		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	「地域連携バス及び急性期リハビリテーションに関する調査」によって把握できた現状や課題等について整理し、報告書を関係機関へ配布することで連携強化を図ります。				106.7 %	大変順調 やや遅れ 遅れ	
	新人リハビリテーション専門職に関する調査の実施		300 人	382 人			
新人リハビリテーション専門職の連携状況や研修についての実態を把握し、地域リハビリテーションに関する研修を体系化するための基礎資料とします。				127.3 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市内の急性期病院における脳卒中中の医療提供体制は整っており、「脳卒中地域連携バス北九州標準モデル」は市内で統一して使用されていることが分かったため、急性期と回復期の医療機関相互の連携は着実に進んでいると判断できることなどから、成果の状況は大変順調と考えています。また、リハビリテーション専門職の配置は増えているものの、若手が多く経験年数が浅い職員が多く人材育成に課題があることが分かったため、新人リハビリテーション専門職に関する調査を実施しました。今後は維持期での地域連携バスの普及を進めていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	報告書の配布については、関係機関への郵送だけでなく、地域リハビリテーションケース会議や産業医科大学主催の地域連携バス協議会の参加者に配布してもらったことで、より多くのリハビリテーション関係者に効率よく周知することができました。今後も様々な関係機関と連携し、啓発活動に取り組む予定です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入		
見直し状況等	課題	
	これまでの様々な取り組みや関係機関の協力により、急性期と回復期の医療機関相互の連携は着実に進んでいますが、維持期におけるリハビリテーションの連携体制や医療と介護の連携には課題があると考えます。今後も関係機関と連携してリハビリテーション関係者の人材育成やネットワークづくりを進める事業を継続して実施します。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	リハビリテーション専門職と他職種が交流する研修会を企画するなど、より効率的、効果的に人材育成や顔のみえるネットワークづくりを進めますが、事務の見直しを行い事業費を縮小します。	急性期、回復期、維持期に至るまでの医療機関相互の連携を強化し、切れ目のない適切なリハビリテーションサービスが提供される状況を維持していきます。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	救急医療体制の維持・確保 (地域医療課)							施策番号		
								-1-(2)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	20,950 千円	(備考)	担当局	保健福祉局	
		162,557 千円	815,863 千円		課長	0.3 人		職員	1.4 人	担当課
			係長		0.7 人			課長名	山本	

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市民が、夜間や休日においても、安心して安全な医療を受けられる体制を構築し維持することは非常に重要です。これまでも、周産期医療、小児医療等の充実を行うと共に、救急医療体制の維持のため、着実な取り組みを行なっております。今後とも、これらの体制を維持していくため、市民、消防、医療機関等との連携を強化していくと共に、適正受診等の広報等にも努めます。	成果実績	下記の代表的な指標のとおりです。
-----------	--	-------------	------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	救急医療体制の維持	市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられるよう2つの急患センター及び2ヶ所の休日診療所の開設や深夜帯の初期救急体制、眼科・耳鼻咽喉科の初期救急医療体制、二次応需体制など初期から三次までの救急医療体制を医師会や市内病院の協力のもと実施し、今後も維持・確保していきます。 (最終目標と目標年度)		市民が夜間や休日においても、安心して必要な医療を受けられる体制の維持・確保	%
(最終目標と目標年度)				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

活動計画	全国的な医師不足が続いており、本市においても救急医療の維持確保は困難な状況にあります。本市における救急医療体制の維持確保に努めるとともに、今後、新型インフルエンザ等が発生した場合には、医師会等の協力を得て、これらに対する体制の構築に努めます。また、救急医療体制、適正受診、かかりつけ医などについての啓発に努め、救急医療体制等に関する市民の理解の向上等を図ります。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	救急医療体制の確保	全国的な医師不足が続いており、本市についても救急医療に携わる医師等の確保は厳しい状況にあります。このため、急患センター出務医師や二次救急医療協力病院などを確保していくことは困難であり、医師会をはじめとする関係機関との連携を図り、救急医療体制の確保に努めます。		医師会をはじめとする関係機関との連携を図り、救急医療体制を確保	%
適正受診等の啓発	救急医療体制の維持・確保のため、市政だよりや民間が発行する情報誌等により、適正受診(昼間に受診する時間がないなどの個人的な事由によらず、真に救急医療が必要な方のみが受診)等の促進を図るよう啓発に努めます。		救急医療体制の維持・確保のため、適正受診等の促進を図る啓発を実施	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	救急医療においては医師の高齢化や診療科ごとの偏在など様々な問題があり、その維持確保は困難な状況にありますが、医師会や関係機関の協力を得て救急医療体制の維持に努めています。また、救急医療体制、適正受診、かかりつけ医などについての啓発に努め、救急医療体制等に関する市民の理解の向上等を図りました。成果の状況は大変順調と考えています。
「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	救急医療は、病院のスタッフや経営に大きな負担を強いるものであり、特に初期救急医療における経営への負担は非常に大きなものです。市民が安心して医療を受けられるよう深夜帯等の初期救急医療体制を維持するため、救急告示病院の協力により輪番により実施するなど現在の体制は、市独自で医師等を雇用するより非常に効率的であると考えます。	

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">課題</td> <td>市内の医療機関の設置状況や救急医療への協力体制などを考慮しながら、現行の小倉北区馬借にある夜間・休日急患センター及び平成25年度に八幡西区黒崎に移転予定の第2夜間・休日急患センターによる東西2ヶ所体制での初期救急医療体制等の維持確保に努めていきます。また、眼科の初期救急医療を維持していくための体制の見直しを行っていきます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>眼科の救急医療体制について、輪番協力病院等による診療体制を維持してきましたが、市内に勤務する眼科医の減少等により、診療体制の維持が困難となりました。このため、開業医と勤務医を含めた、新たな診療体制を構築していきます。平成24年度にコムシティへ移転する第2夜間・休日急患センター整備に要した予算を除き、昨年度と同規模の予算を計上しています。</td> <td>市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられるよう初期から三次までの救急医療体制を維持していきます。</td> </tr> </table>	課題	市内の医療機関の設置状況や救急医療への協力体制などを考慮しながら、現行の小倉北区馬借にある夜間・休日急患センター及び平成25年度に八幡西区黒崎に移転予定の第2夜間・休日急患センターによる東西2ヶ所体制での初期救急医療体制等の維持確保に努めていきます。また、眼科の初期救急医療を維持していくための体制の見直しを行っていきます。	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	眼科の救急医療体制について、輪番協力病院等による診療体制を維持してきましたが、市内に勤務する眼科医の減少等により、診療体制の維持が困難となりました。このため、開業医と勤務医を含めた、新たな診療体制を構築していきます。平成24年度にコムシティへ移転する第2夜間・休日急患センター整備に要した予算を除き、昨年度と同規模の予算を計上しています。	市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられるよう初期から三次までの救急医療体制を維持していきます。
課題	市内の医療機関の設置状況や救急医療への協力体制などを考慮しながら、現行の小倉北区馬借にある夜間・休日急患センター及び平成25年度に八幡西区黒崎に移転予定の第2夜間・休日急患センターによる東西2ヶ所体制での初期救急医療体制等の維持確保に努めていきます。また、眼科の初期救急医療を維持していくための体制の見直しを行っていきます。						
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)						
眼科の救急医療体制について、輪番協力病院等による診療体制を維持してきましたが、市内に勤務する眼科医の減少等により、診療体制の維持が困難となりました。このため、開業医と勤務医を含めた、新たな診療体制を構築していきます。平成24年度にコムシティへ移転する第2夜間・休日急患センター整備に要した予算を除き、昨年度と同規模の予算を計上しています。	市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられるよう初期から三次までの救急医療体制を維持していきます。						

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	産婦人科・小児科臨床研修医等支援事業						施策番号		
							-1-(2)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	2,900 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
		8,989 千円	15,785 千円		課長	0.1 人 職員 0.1 人		担当課	保健医療課
			係長		0.1 人	課長名		山本	

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	全国的な医師不足が続いており、その中で特に不足している産婦人科、小児科医師などの確保を支援していく必要があります。このため、北九州市医師会及び病院局が行う医師確保に関する事業等へ補助を行い、周産期医療及び小児科救急医療の安定的な提供や充実に寄与していきます。			成果実績	下記の代表的な指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】			
	産婦人科、小児科医師の確保		産婦人科、小児科医師などの確保にかかる事業を支援	%	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	周産期医療及び小児科救急医療を安定的に提供していくため、産婦人科、小児科医師などの確保にかかる事業を支援していきます。 (最終目標と目標年度)			%				
				%	大変順調			
	(最終目標と目標年度)			%	やや遅れ遅れ			

活動計画	全国的に産科医師が減少し、分娩できる医療機関も減少しています。このため、本市における周産期に関わる連携体制の維持確保に努めます。また、これらの体制を維持するために、引き続き医師会等が実施する後期臨床医への研修等に補助を行うとともに、これらの医師確保事業のPRにも努めます。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】				
	後期臨床研修医への支援		後期臨床研修への補助を行い、安定的な医師確保に努める	%	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
	北九州市医師会が、産婦人科及び小児科の医師を対象に、市内の複数の医療機関で実施する後期臨床研修や、病院局が実施する後期臨床研修への補助を行い、これらの医師の定着を図り、安定的な医師確保に努めます。なお、医師会実施分の3名は、現在、市内の医療機関に勤務しており、定着化に効果を示しています。			%					
	医療講習会等の開催		講習会や協議会等への補助を行い、周産期医療等の充実に努める	%	大変順調				
	北九州市医師会が医療関係者の知識の向上を図るために開催する周産期医療や小児科救急医療に関する講習会や、周産期医療体制について検討する協議会等への補助を行い、周産期医療等の充実に努めます。			%	やや遅れ遅れ				

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	全国的に産科医師が減少し、分娩できる医療機関も減少しています。このため、本市においては市内の周産期にかかわる病院等を、健診のみを行う診療所等から難産等に対処する基幹病院などに役割を分担した連携体制を構築しています。また、医師会等が実施する後期臨床医への研修に補助を行うとともに、周産期医療に関する研修会への補助を実施し、医師確保を支援していく必要があります。これまでに、医師会実施分は3名、病院局実施分では毎年度10人以上が参加しています。なお、医師会実施分の3名は、市内の医療機関に勤務しています。これらのことから、成果の状況は大変順調と考えています。
	<p>「経済性」 「効率性」 の分析</p> <p>「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	北九州市医師会が行う後期臨床研修は、周産期においては市内の4基幹病院で研修を実施するものであり、小児科についても、その領域すべてにおいてトップレベルの専門研修が実施されており、研修を受けた3名の医師は、市内の医療機関に勤務しています。また、研修期間中の医療事故などに対応する賠償責任保険には市医師会を通じての加入が可能となっています。これらの魅力ある研修病院を活用し、北九州市に勤める研修医を確保するため、市医師会が実施する本研修に補助を行うことは、本市の周産期医療及び小児科救急医療の確保に効率的であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
見直し状況等	課題				
	全国的な医師不足が続いており、その中で特に不足している産婦人科、小児科医師などの確保を支援していく必要がありますが、現在の事業の利用者が年々減少していることから、より利用しやすいもの、魅力あるものに変更していく必要があります。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>現在行っている病院局に対する補助事業を廃止し、予算を削減します。また、より良い内容とするため医師会等と協議を行っていきます。</td> <td>周産期医療及び小児科救急医療の安定的な提供や充実に目指し、北九州市内の医師確保等に効果のあるものとします。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	現在行っている病院局に対する補助事業を廃止し、予算を削減します。また、より良い内容とするため医師会等と協議を行っていきます。	周産期医療及び小児科救急医療の安定的な提供や充実に目指し、北九州市内の医師確保等に効果のあるものとします。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
現在行っている病院局に対する補助事業を廃止し、予算を削減します。また、より良い内容とするため医師会等と協議を行っていきます。	周産期医療及び小児科救急医療の安定的な提供や充実に目指し、北九州市内の医師確保等に効果のあるものとします。				

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	小児医療先進都市づくり事業							施策番号		
								-1-(2)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,900 千円	(備考)	担当局	保健福祉局	
		2,324 千円	3,030 千円		課長	0.1 人		職員	0.1 人	担当課
			係長		0.1 人			課長名	山本	

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 小児医療については、市立八幡病院内での小児救急センターの開設や、小児救急ネットワークの構築など小児救急医療体制の充実に取り組んでおります。今後とも、小児救急医療に関する研修を実施するなど小児医療体制をさらに充実し、小児医療に関する先進都市を目指します。	成果実績	下記の代表的な指標のとおりです。
-----------	---	-------------	------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	小児救急医療の先進都市づくり		小児救急をはじめ、虐待、臓器移植など小児医療に関する先進的な取り組みの検討実施を目指す	%	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	本市はこれまで、小児救急医療体制の充実に取り組んでおり、今後も小児医療関係者と協議を行い、小児救急をはじめ、虐待、臓器移植など小児医療に関する先進都市を目指します。 (最終目標と目標年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調

活動計画	小児救急医療における様々な課題について検討を行うため、小児救急ネットワーク部会を開催するとともに、医師・看護師の資質の向上のためのワークショップを開催しています。また、引き続き本市の取り組みについてPRを行ってまいります。また、新型インフルエンザが発生した場合には、これまでの取り組みを活かし、早急かつ効果的な対応ができる小児救急医療体制の整備に努めます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	小児先進都市づくり会議等の開催		小児医療の先進都市を目指すため、先進都市づくり会議等を開催	%	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	小児救急センターや小児救急ネットワーク体制の維持確保や更なる充実を図るとともに、小児科医の確保やかかりつけ医の定着促進などについて協議を行い、小児医療の先進都市を目指します。このため、先進都市づくり会議や、この部会である小児救急ネットワーク部会を開催します。			%	
	小児救急ワークショップの開催等		医療関係者の技術の向上を図り、本市の取り組みをアピールするためワークショップを開催	%	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	小児救急医療関連の議題(ネットワーク事業など)をテーマにネットワーク部会を開催し、先進都市づくり会議では、これらに関する取り組み結果や成果について報告するとともに、虐待対応など小児救急に関する議題について協議を行い、関係機関との連携を図っています。この中で、児童虐待については、こども総合センター等と協力して、マニュアルを作成・配布すると今後の課題等も協議しています。これらのことから、成果の状況は大変順調と考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、「民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。」	先進都市づくり会議やネットワーク部会などを適時必要に応じて開催しています。平成24年度に実施するワークショップについては、これまでの実施状況・研修内容等について検討を行い、経済性や効率性を高めていきたいと考えます。児童虐待の対応など、個人情報の問題や心情的な配慮などが必要であり、関係機関との連携が難しい面や情報共有のあり方が課題となっています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	本市が、小児医療の先進都市を目指していくためには、今後も、小児医療に関する関係者と連携し、小児医療における様々な課題の検討を行うことが必要であり、また、これらの取り組み状況を市内外の医療関係者等にアピールしていく必要があります。また、小児医療関係者の資質の向上を目指す必要があるため、ワークショップの研修内容などについて見直しを行っていく必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き、小児救急医療における様々な課題について検討を行うため、昨年と同規模の予算で小児救急ネットワーク部会を開催するとともに、医師・看護師の資質の向上のためのワークショップの内容、開催時期などについて見直しを図ります。	小児救急医療に関する研修を見直し、さらに、関係者の資質の向上とより多くの人が参加しやすいものを目指します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	救急医療体制の維持・確保(夜間・休日急患センター)						施策番号			
							-1-(2)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	145,500 千円	(備考)	担当局	保健福祉局	
		489,198 千円	523,847 千円		課長	2 人		職員	7 人	担当課
			係長		7 人			課長名	福江	

[Plan] 計画	[Do] 実施	[Check] 評価
-----------	---------	------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市民が、夜間や休日においても、安心して安全な医療を受けられる体制を構築し維持することは非常に重要です。これまでも、周産期医療、小児医療等の充実を行うと共に、救急医療体制の維持のため、着実な取り組みを行なっております。今後とも、これらの体制を維持していくため、市民、消防、医療機関等との連携を強化していくと共に、適正受診等の広報等にも努めます。	成果実績			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	[成果の状況]
	救急医療体制の確保		救急医療体制の確保		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられる体制(夜間・休日急患センター、休日急患診療所における1次救急医療体制や、テレフォンセンターにおける病院紹介、医療相談業務)を維持していきます。 (最終目標と目標年度)			大変順調	大変順調
	(最終目標と目標年度)			順調 やや遅れ 遅れ	

活動計画	上記の目的を達成するため、夜間・休日急患センタにおいては内科、小児科、外科、整形外科を中心に、門司・若松休日急患診療所においても内科、小児科の診療を行います。またテレフォンセンターにおいて、テレフォン相談員による医療相談、市内の病院紹介を行います。	活動実績	平成23年度については、夜間・休日急患センターにおける受診者数は22,413名、休日急患診療所(門司・若松)における受診者数は3,600名でした。また、テレフォンセンターにおける医療相談、病院紹介等処理件数は77,911件ありました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	[活動の状況]
	一次救急医療体制の確保		一次救急医療体制の確保		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	夜間・休日急患センタにおいては内科、小児科、外科、整形外科を中心に、門司・若松休日急患診療所においても内科、小児科の診療を行います。またテレフォンセンターにおいて、テレフォン相談員による医療相談、市内の病院紹介を行います。			大変順調	大変順調
	適正受診等の啓発 救急医療体制の維持・確保のため、適正受診(昼間に受診する時間がないなどの個人的な事由によらず、真に救急医療が必要な方のみが受診)等についての啓発に努めます。		適正受診等の啓発	やや遅れ 遅れ	

[Check] 評価(分析)

分析及び課題の整理	[成果の状況] [活動の状況] を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 病院等の診療時間外の比較的軽度な症状に対応する初期救急医療は、夜間・休日急患センター等における23時までの診療や、救急告示病院(輪番)での翌朝9時までの診療体制により維持され、これにより、市民に対して安全安心な医療を提供できたと考えます。成果の状況は大変順調と判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 救急医療は、病院スタッフやその経営に大きな負担を強いるものであり、特に初期救急医療における経営上の負担は非常に大きいものです。このため、救急告示病院の協力による輪番体制にて、24時間365日体制で初期救急医療体制を提供する現在の体制が効率的で、これを維持確保するためには、引き続き市が関与していく必要があると考えます。

以下、予算案作成時に記入

[Action] 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 医科に比較して、休日にも診療が多く行われている歯科診療については、一日平均患者数が約8名にもかかわらず、歯科医師2名、歯科衛生士2名が出務している現状では、GW・お盆・年末年始を除き、診療体制を見直す必要があると思われます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き、市内の医療機関の設置状況や救急医療体制などを考慮しながら、前年度より医師(歯科を除く)確保のための事業費を拡充して、夜間・休日急患センターにおける初期救急医療体制の維持確保に努めていきます。	歯科医師会及び関係機関との協議が整えば、診療の縮減により歯科医師、歯科衛生士の出務回数を減らし、歳出予算の削減を目指します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	リハビリテーション連携推進事業 (障害福祉センター)						施策番号				
							-1-(2)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	7,575 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		677 千円	1,608 千円		課長	0.05 人		職員	0.6 人	担当課	障害福祉センター
					係長	0.25 人				課長名	土河

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	高齢者や障害のある人が、住み慣れた地域で、安全にいきいきとした生活を送ることができるよう、本市の優れたリハビリテーション資源を活かし、医療機関相互の連携を強化するとともに、人材育成を図るなど、地域リハビリテーション支援体制の確立に取り組みます。	成果実績	下記の代表的な成果指標とおります。
-----------	---------------------	--	-------------	-------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	機関に所属する専門職が、連携に係る知識・技術を有する状態にする		機関に所属する専門職が、連携に係る知識・技術を有する状態にする	%	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民の支援を行う様々な機関に所属する専門職が、そのリハビリテーション資源を活かした相互の連携に係る知識・技術の取得向上を促進します。			%	
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
				%	順調

活動計画	地域リハビリテーションケース会議等を4回開催し、年間参加者数600人を目標とします。研修会は、リハビリテーション資源を活かした、医療・福祉関係者等の連携をテーマとした内容を計画し、人材育成を目指し実施します。	活動実績		
-------------	--	-------------	--	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	地域リハビリテーションケース会議等の参加者数		600 人	481 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	研修会への参加人数を増加させ、医療・福祉関係者等の連携を図る意識の向上に努めます。	686 人		80.2 %	
	地域リハビリテーションケース会議等の開催回数		4 回	3 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
医療・福祉関係者等の人材育成を図るため、連携をテーマとした研修会を実施します。	3 回		75.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	今年度は年間4回の研修会を計画しておりましたが、外部講師の日程等で3回しか実施できませんでした。しかし、1回あたりの参加者は平均すると約160人であり、年間4回で600人を目標とした1回あたりの平均150人を上回っており、連携を目的とした知識・技術向上に関する人材育成に貢献できたと考えられますので、成果の状況は順調と判断しました。今後は、目標とした回数を確実に開催することが必要と考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	地域リハビリテーション支援体制の確立には、リハビリテーション資源に係る様々な機関の専門職を対象とするため、全市的な視点で、かつ中立公正的な立場である市が直接実施することが適当と考えられます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	平成23年度は、年間4回の研修会で合計600人の参加者数を目標としていましたが、1回目の開催が11月となり、時期的な問題で全部で3回しか研修会を開催できませんでした。今年度は9月に1回目、1月に2回目を開催し、合計参加者数が313人と順調に事業が進んでいます(3回目を2月、4回目を3月に開催する予定)。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	各機関に所属する専門職の連携強化と人材育成には、継続した取組が必要です。したがって、次年度も地域リハビリテーションケース会議等を4回開催し、年間参加者数600人を目標とします。平成24年度予算に対する平成25年度予算額は、事務の見直しなどの努力をおこない若干縮小しています。	引き続き、機関に所属する専門職が、連携に係る知識・技術を有する状態にするために、地域リハビリテーションケース会議等の研修会を開催し、人材育成を図ります。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	感染症対策事業						施策番号				
							- 1-(2)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額 3,583 千円	平成24年度当初予算額 4,865 千円	人件費 の目安	金額	4,400 千円	(備考)担当課のみ、ただし、担当課以外にも保健所、各区保健福祉課など多くの関係部署が関わっています。	担当局	保健福祉局		
					課長	0.1 人		職員	0.3 人	担当課	保健医療課
						係長		0.1 人		課長名	古賀

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市内における感染症の発生予防、早期発見及び拡大防止を図るため、北九州感染症対策支援ネットワークの拡充、院内感染防止対策研修会や感染症対策連絡協議会の開催、関係機関との連携、予防普及啓発などを実施します。また、これらの研修会を通じて人材育成を図るとともに、健康危機管理の整備・強化に努めます。				成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 <small>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績(達成率)		【成果の状況】		
	健康危機管理の整備・強化		健康危機管理の整備・強化	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	健康危機管理の整備・強化について、成果を数値で表すことは困難です。 (最終目標と目標年度)					大変順調		
(最終目標と目標年度)								

活動計画	感染症対策指導者養成研修会 院内感染対策研修会 感染性胃腸炎の感染防止対策研修会(保育所・高齢者施設等)				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</small>	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	感染症予防研修会参加施設数		240	498	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	各研修会における参加施設数	211		207.5 %		大変順調	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」 「効率性」 の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 ・NPO法人KRICT(北九州地域感染制御チーム)に委託し、市内の高齢者施設を対象に感染症対策指導者養成研修を実施するとともに、感染性胃腸炎の流行時期に合わせて、高齢者施設・保育所等の管理者に対する感染予防対策の研修や、医療機関等を対象とした院内感染研修会を実施しました。 ・感染性胃腸炎の集団発生は、昨年度(12件)より8件と減少しており、今後も引き続き研修の実施が必要で す。 ・感染症対策指導者養成研修はNPO法人KRICTに委託して実施しています。また、医療機関や高齢者施設・保育所等に対する研修については、公共施設の使用や会議の場を借りて実施することに加え、可能な限り市職員(医師等)が講師となるなど、コスト削減に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入									
見直し状況等	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成24年は高齢者施設長会議での感染症予防研修がないため、研修参加団体数が減少しました。今後は、医療機関への院内感染対策研修会、高齢者施設・保育所等に対して感染症予防研修を実施し、感染予防の啓発に努めると同時に研修内容の向上や研修範囲の拡充に尽力します。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>予算は事務の見直しなどにより縮小しますが、感染症予防研修参加施設の増加を図るとともに研修内容の向上や研修範囲の拡充に努めます。</td> <td>感染予防研修参加団体は400団体を目指します。また、感染症の集団発生が前年より減少することを目指します。</td> </tr> </table>	課題		平成24年は高齢者施設長会議での感染症予防研修がないため、研修参加団体数が減少しました。今後は、医療機関への院内感染対策研修会、高齢者施設・保育所等に対して感染症予防研修を実施し、感染予防の啓発に努めると同時に研修内容の向上や研修範囲の拡充に尽力します。		次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	予算は事務の見直しなどにより縮小しますが、感染症予防研修参加施設の増加を図るとともに研修内容の向上や研修範囲の拡充に努めます。	感染予防研修参加団体は400団体を目指します。また、感染症の集団発生が前年より減少することを目指します。
課題									
平成24年は高齢者施設長会議での感染症予防研修がないため、研修参加団体数が減少しました。今後は、医療機関への院内感染対策研修会、高齢者施設・保育所等に対して感染症予防研修を実施し、感染予防の啓発に努めると同時に研修内容の向上や研修範囲の拡充に尽力します。									
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)								
予算は事務の見直しなどにより縮小しますが、感染症予防研修参加施設の増加を図るとともに研修内容の向上や研修範囲の拡充に努めます。	感染予防研修参加団体は400団体を目指します。また、感染症の集団発生が前年より減少することを目指します。								

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	新型インフルエンザ対策事業						施策番号				
							-1-(2)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	8,700 千円	(備考)担当課のみ、ただし、担当課以外にも保健所、各区保健福祉課、環境科学研究所など多くの関係部署が関わっています。	担当局	保健福祉局		
		47,509 千円	10,000 千円		課長	0.3 人		職員	0.3 人	担当課	保健医療課
					係長	0.3 人				課長名	古賀

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	新型インフルエンザによる市民の感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、医療体制や相談体制の整備、市民への啓発や情報提供などを行います。				成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】			
	新型インフルエンザによる市民の感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、特に重症化しやすいといわれる小児・妊婦・透析患者に対する医療体制や24時間体制のコールセンター等の相談体制の整備、市民への啓発や情報提供などに取り組みますが、成果を数値で表すことは困難です。		新型インフルエンザによる市民の感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、医療体制や相談体制の整備、市民への啓発や情報提供などを行う		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			
活動計画	国の新型インフルエンザ行動計画の改定版を踏まえ、北九州市新型インフルエンザ対策マニュアル(総括編、医療対応編、社会対応編、市役所業務対応編)の改定の検討を行います。また、市民への啓発や情報提供を継続して実施します。				活動実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】			
	「北九州市新型インフルエンザ対策マニュアル」(総括編、医療対応編、社会対応編、市役所業務対応編)の改定の検討	平成21年4月に発生した新型インフルエンザ対策における市の対応を踏まえ、改定完了	単年度の目標設定はありません。		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			
	国の新型インフルエンザ行動計画の改定版を踏まえ、今後の対応策を検討し、「北九州市新型インフルエンザ対策マニュアル」の見直しを検討します。							
	市民への啓発や情報提供の継続実施							
新型インフルエンザを始めとした様々な感染症から、市民への感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、市政だより、新聞、テレビ等の様々な媒体を通じて、市民に対する啓発や情報提供を行います。	43 回	年間20 回	41 回 205.0 %					

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	国の新型インフルエンザ行動計画の改定を踏まえ、「北九州市新型インフルエンザ対策マニュアル」(総括編、医療対応編、社会対応編、市役所業務対応編)の改定の検討を行いました。(総括編については、平成24年4月に改定済、他マニュアルは順次改定予定) また、新型インフルエンザ発生時において、関係機関間で迅速に情報を共有する仕組み(北九州市感染症情報ネットワーク)の検証を行うとともに、ホームページや市政だより等による市民への情報提供及び感染予防啓発を行いました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	危機管理において必要となる市民や関係機関への情報提供について、情報伝達方法の確認や医療機関での情報の共有化等を行うなど、より効率的・効果的な実施体制を検討する必要があると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
見直し状況等	課題				
	現在まで、新型インフルエンザの市民への感染は最小限に抑えられており、社会的な混乱の発生もありません。今後も、医療体制や相談体制の整備を引き続き行います。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>新型インフルエンザ等対策特別措置法公布に伴い、国・県の行動計画改定を踏まえた北九州市新型インフルエンザ対策マニュアルの改定を引き続き行います。また、情報伝達方法の確認や医療機関での情報の共有化等、効率的・効果的な実施体制を検討することにより予算の削減をしたうえで、医療体制及び相談体制の維持及び充実を図ります。</td> <td>新型インフルエンザによる市民の感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、医療体制や相談体制の整備を引き続き行います。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	新型インフルエンザ等対策特別措置法公布に伴い、国・県の行動計画改定を踏まえた北九州市新型インフルエンザ対策マニュアルの改定を引き続き行います。また、情報伝達方法の確認や医療機関での情報の共有化等、効率的・効果的な実施体制を検討することにより予算の削減をしたうえで、医療体制及び相談体制の維持及び充実を図ります。	新型インフルエンザによる市民の感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、医療体制や相談体制の整備を引き続き行います。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
新型インフルエンザ等対策特別措置法公布に伴い、国・県の行動計画改定を踏まえた北九州市新型インフルエンザ対策マニュアルの改定を引き続き行います。また、情報伝達方法の確認や医療機関での情報の共有化等、効率的・効果的な実施体制を検討することにより予算の削減をしたうえで、医療体制及び相談体制の維持及び充実を図ります。	新型インフルエンザによる市民の感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、医療体制や相談体制の整備を引き続き行います。				

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	食の安全安心確保推進事業						施策番号		
							-1-(2)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	6,825 千円	(備考) 左記は担当課のみ、その他に保健所等の多くの職員が事業に携っています。	担当局	保健福祉局
		1,206 千円	1,447 千円		課長	0.05 人 職員 0.7 人		担当課	生活衛生課
					係長	0.1 人		課長名	永富

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市民の意見を踏まえた食品安全確保の施策を展開するため、食品の安全に関するリスクコミュニケーション(関係者相互の情報、意見の交換)等を実施します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	消費者への食品安全に関する正しい知識・情報の提供	食品安全に関する正しい知識・情報の提供を通じて、消費者の衛生意識の向上を図り、食の安全・安心を確保します。 (最終目標と目標年度)		消費者へ食品安全に関する正しい知識・情報を提供する	衛生講習会やリ・フレットの配布等を行いました
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	本事業は施策に対し有効性が高いと同時に必要不可欠であり、市民の食の安全と安心の確保及び知識の普及に重要な事業であると考えます。食品衛生監視指導計画の策定に際し、市民の意見を取り入れ、より一層市民の求めるリスクコミュニケーションを行っていくことで、施策の実現に努めたいと考えています。なお、本事業は市が直接実施しております。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	消費者対象講習会等への参加者数	食中毒予防や残留農薬等食品の安全性についての講習や意見交換を目的として消費者を対象とした衛生講習会を開催し、その参加者を増やすことで施策の実現につなげます。	2561 人	1,350 人	1,825 人 135.2 %	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
北九州市食品衛生監視指導計画の策定及び実施	北九州市食品衛生監視指導計画を市民意見を取り入れ毎年度策定し、実施結果を公表し、市の食品の安全安心に関する取組み(監視指導、検査及びリスクコミュニケーション等)を周知することで食品の衛生の関心を高め、衛生講習会等への参加者の増加に努めます。	策定及び実施	策定及び実施	策定及び実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	新たな講習会の開催や配布物の作成・配布及び市ホームページ等での情報発信により、講習会やリスクコミュニケーションへの参加者が増加したことで、消費者の衛生意識の向上がより一層図られ、食の安全・安心の確保に繋がりましたので、成果の状況は大変順調と考えています。
「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	消費者が参加しやすいよう衛生講習会を各地で開催するため開催回数は多くなりますが、会場費等の経費がかからない場所を選定しています。	

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	H23年度は大変順調に事業が進捗しました。 H24年度も現在のところ順調に進捗しており、最終目標の1400名(平成25年度)に向けて事業を進めていきます。	
	次年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
	今年度実施した内容について、食品衛生監視指導計画の公表を行った上で、広く市民等の意見を募集します。そしてH25年度の食品衛生監視指導計画の策定に際し、市民等の意見を取り入れながら見直しを行います。なお、事務の見直しなどを行い、H24年度に対してH25年度予算は縮小としています。	H25年度の食品衛生監視指導計画の策定に際し、市民等の意見を取り入れることで、より一層、消費者へ食品安全に関する正しい知識・情報を提供します。 H25年度は最終目標である消費者対象衛生講習会等への参加者数1400名を目指します。

P D C Aチェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	食中毒予防総合対策事業						施策番号
							-1-(2)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 2,656 千円	平成24年度当初予算額 2,808 千円	人件費 の目安	金額 7,650 千円 課長 0.1 人 職員 0.6 人 係長 0.2 人	(備考) 左記は担当課のみ。その他に保健所等の多くの職員が事業に携っています。	担当局 保健福祉局
							担当課 生活衛生課
							課長名 永富

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 食中毒発生時の迅速な原因究明による健康被害の拡大防止や流通食品の汚染実態調査等により、食中毒の総合的な予防対策を実施します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	食品等事業者の衛生意識の向上		食品等事業者の衛生意識の向上を図る	衛生講習会や監視指導等を行いました	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	保健所の食品等事業者に対する指導、衛生講習会等の実施を通じて、食品を加工・調理・提供する側の衛生意識の向上を図り、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、市民の健康の保護に繋がります。 (最終目標と目標年度)				
	食品等事業者対象講習会への参加者数	5920 人	5830 人	5862 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
食中毒の発生を防ぐため、食品等事業者における自主的な衛生管理向上を図る講習会を実施します。 (最終目標と目標年度)	100.5 %				

活動計画	食品等事業者に対する衛生講習会について、講習会後にアンケート等をとるなどし、食品等事業者が何に関心があり、どのような知識を得たいのかを考慮して講習会の内容をより改良していきます。なお、本事業は市が直接実施しております。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	食品等事業者対象講習会への参加者数	5920 人	5830 人	5862 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	食中毒の発生を防ぐため、食品等事業者における自主的な衛生管理向上を図る講習会を実施します。			100.5 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	食品等事業者の関心が高い内容についての衛生講習会及び重点的な衛生指導を行なったことで、食品等事業者の衛生意識の向上が図られ、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、市民の健康の保護に繋がりましたので、成果の状況は順調と考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	効果的な啓発を行うため、それぞれの対象者に合わせた啓発内容による配布物の作製・配布及び衛生講習会を実施しました。今後は更に経済性・効率性の高い啓発方法を検討します。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 H23年度は順調に事業が進捗しました。 H24年度も現在のところ順調に進捗しており、最終目標の6100名(平成25年度)に向けて事業を進めていきます。		その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容) 今年度実施した内容について、食品衛生監視指導計画の公表を行った上で、広く市民等の意見を募集します。そしてH25年度の食品衛生監視指導計画の策定に際し、市民等の意見を取り入れながら見直しを行います。なお、H24年度予算に対してH25年度予算額は「縮小」です。		H25年度の食品衛生監視指導計画の策定に際し、市民等の意見を取り入れることで、より一層、食品等事業者の衛生意識の向上を図ります。 H25年度は最終目標である食品等事業者対象講習会への参加者数6100名を目指します。

PDCAチェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	災害・事故時のこころのケア対策						施策番号	
							-1-(4)-	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	2,575 千円 (備考)	担当局	
		205 千円	558 千円		課長	0.05 人 職員 0.2 人	担当課	精神保健福祉センター
					係長	0.05 人	課長名	三井

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	災害や事件・事故時に生じるこころの問題について、地域において必要とされるこころのケア対策を適切に提供できる体制を目指します。	成果実績	下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】	
	災害や事件・事故時に地域において必要とされるこころのケア対策を適切に提供できる体制を目指します。		災害や事件・事故時に地域において必要とされるこころのケア対策を適切に提供できる体制を目指します		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	災害や事件・事故時に生じるこころの問題について、地域において必要とされるこころのケア対策を適切に提供できる体制を目指します。 (最終目標と目標年度)					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
(最終目標と目標年度)						

活動計画	マニュアルの完成に向けた検討、作業を継続します。人材育成のための関係職員研修を開催します。			活動実績	職員向けパンフレットを作成 職員向け研修を実施	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	関係職員研修参加者数			145 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	災害や事件・事故時に必要とされるこころのケアについて、その相談体制の整備やシステム構築を行うために、そのための人材育成を目的として、広く関係者に災害や事件・事故時に必要とされるこころのケアについて理解を促すための研修及び相談業務に従事する専門職向けの知識と技術の習得を目指す研修を開催します。	82 人	140 人	103.6 %		
	マニュアルの作成				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
災害や事件・事故時に生じるこころの問題に対処するため、相談等の支援提供の手順や対応方法についてマニュアルを作成します。			マニュアルの作成			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	関係機関等の職員への研修は定例化しており、対応マニュアルについては、支援する職員向けのマニュアルを完成させたところです。 震災の影響で関心が高まっており、職員向けの研修アンケートにより相当な理解が得られていると考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	こころのケア対策に関するマニュアル作成や研修の実施については、専門的知識が必要であり、また行政機関を中心とした支援体制づくりのため、内部の専門機関である精神保健福祉センターが中心に取り組んでいます。現時点でもあまりコストをかけずに取り組んでおり、今後も行政が中心となって、各部署や外部機関とも連携しながら事業を進めたいと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 震災等による被災者のこころのケアは、長期的に継続する必要があります。そのため、今後発生する問題を調査研究するとともに、これらの問題に対応するための人材育成及び体制づくりを検討する必要があると考えます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	次年度も関係機関向け職員研修を実施し、参加者は前年度と同程度(約140人)で予定しています。また、引き続き、災害時及び長期的な支援の体制づくりのため、関係機関との連携を強化したいと考えます。
	前年度に引き続き、人材育成及び関係機関との連携を推進します。事業費は事務の見直しなどにより前年度より縮小しますが、より効果的な事業運営ができるよう検討します。	

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	権利擁護・市民後見促進事業						施策番号
							-2-(1)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 5,946 千円	平成24年度当初予算額 12,607 千円	人件費の目安	金額 3,075 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
					課長 0.05 人 職員 0.2 人	担当課	高齢者支援課
					係長 0.1 人	課長名	野瀬

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
-----------------	--------------------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	法人後見受任件数(年度末現在)	31 件	増加	42 件	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが困難なため、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)				
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	第4期の市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	市民後見人養成数(累計)	59 人	増加	69 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行うことで、成年後見制度の担い手や理解者を増やしているため。				
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	予定どおり、第4期市民後見人養成研修を実施しました。修了者10名のうち、3名が北九州市社会福祉協議会権利擁護・市民後見センターでの活動を希望し、成年後見制度の担い手として活躍することになりました。また、市民後見人個人での受任については家庭裁判所と協議を行いました。進捗がなく、今後も協議を続けていきます。成果実績や活動状況については、養成数及び法人後見受任件数は前年度よりも増加していることから順調と判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	平成23年度に老人福祉法が改正され、市民後見人の養成は市町村の責務となりました。そのため、市の施策として実施する必要があり、さらに養成研修終了後、活動する場である北九州市社会福祉協議会(権利擁護・市民後見センター)に研修業務を委託することは効率的であると考えています。また、現時点では、市民後見人の受け皿としては同センターが適当であり、補助金の交付先としては適当であるとともに、後見報酬としての収入分は削除するなど経済的な補助金の運用を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	家庭裁判所においては、現在のところ市が養成した市民後見人を個人で後見人に選任するという判断に至っていません。弁護士会等の専門団体と協力しながら対応を検討する必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	補助交付団体の決算額の精査等により事業費は縮小するものの、今までの取り組みに加え、市が養成した市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの構築に向けた検討会を開催するなど、積極的な事業運営を行っていきます。なお、平成25年度予算からは事業費を障害福祉課と按分します。	市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの方向性を形付けます。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	生涯現役夢追塾の充実							施策番号			
								-2-(1)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額 19,351 千円	平成24年度当初予算額 19,703 千円	人件費 の目安	金額	3,325 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
					課長	0.05 人		職員	0.1 人	担当課	高齢者支援課
					係長	0.2 人				課長名	野瀬

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
-----------------	--------------------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	これから高齢期を迎える団塊の世代を中心に、今まで培ってきた能力を眠らせることなく、退職後もその技術や経験、能力や人脈を活かし、産業活動や社会貢献活動の担い手として生涯現役で活躍していく人材の発掘と育成を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】	
	卒業生の夢の実現状況	62 %	60 %	66 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	卒業後に夢を実現した人または実現に向け準備をしている人の割合を成果指標としました。 (最終目標と目標年度) 平成26年度 60%			110.2 %		
						順調
(最終目標と目標年度)						

活動計画	塾生確保に向けて、ラジオ番組や新聞広告、市政だよりを活用して広報を行います。また、夢の実現率向上のために、講座内容の見直しを検討します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	夢追塾の延べ利用者数	1,383 人	増加	1,512 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	講座内容の見直しや幅広い広報活動を通じて、夢追塾の受講者数の増加を図ります。					
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 卒塾生の現況は、起業独立、NPO法人設立、ボランティア活動への参加など、それぞれの夢を追って積極的に活動を続けています。また、幅広い広報活動に努めた結果、入塾者は対前年度比で増加しました。	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 年長者研修大学校及び穴生ドームの運営と一体化した指定管理制度を導入することにより、業務委託時よりもコストの削減を実現しました。
------------------	---	---	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成24年度の入塾生は40人で23年度の46人を下回りました。卒塾生の活動は引き続き活発に行われていますが、入塾生の確保に課題があります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	卒塾生の夢の実現割合60%を目指します。
	引き続き夢追塾のPRを行い入塾生の確保に努めます。予算額は「現状維持」です。	

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	年長者研修大学校の充実							施策番号	
								-2-(1)-	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,700 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
		158,867 千円	158,866 千円		課長	0.05 人 職員 0.15 人		担当課	高齢者支援課
					係長	0.2 人		課長名	野瀬

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
----------	------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	高齢者の教養、健康、趣味、レクリエーション等の生きがいづくりや健康づくりを促進するとともに、地域活動を担う高齢者の人材育成を図ります。	成果実績	講座を通じて、高齢者の生きがいづくりや、地域活動を進めました。
-----------	--------------------	---	-------------	---------------------------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	高年齢者の生きがいづくり、社会参加の促進	高年齢者の生きがいづくり、社会参加の促進		高年齢者の生きがいづくりや仲間づくり、及びボランティア活動等の促進	
(最終目標と目標年度)	教養、健康等の講座を通じた高年齢者の生きがいづくりや仲間づくりを進めるとともに、地域活動の講座を通じたボランティア活動等の促進を目指します。				順調
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	

活動計画	高年齢者の生きがいづくり、健康づくり、地域活動を担う人材育成のためには、当事業は重要であると考えています。今後とも、講座内容等を適宜見直ししていくなど、事業の目的に沿った運営を図っていきます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	延べ利用者数	延べ利用者数			
研修コース、利用者数だけでなく、ボランティア、同好会活動等の利用者も加えることにより、高年齢者の生きがいづくりや健康づくり、人材育成の総合的な目安としています。	77,289 人	増加		73,211 人	
ボランティア活動による延べ利用者数	ボランティア活動による延べ利用者数				順調
地域活動を担う高年齢者の育成に関する指標として、利用状況の中でもボランティア活動による利用者数を目安としています。	10,430 人	増加		9,236 人	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	カリキュラムの見直しや募集PRに努めた結果、前年度に比べて入学者数が増加しました(H22年度933人 H23年度981人)。また、冬季に暖房設備が故障したため、延べ利用者数への影響はあったものの、受講生が地域活動やボランティア活動に参加するなど、地域活動を担う高齢者の人材育成を進めることができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	周望学舎、穴生学舎だけでなく、北九州穴生ドーム等との一体的・効率的な運営により、平成20年度比で経費削減を実現しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	高年齢者の生きがいづくりや仲間づくり及びボランティア活動等の促進に向けて、引き続き講座内容の充実を図り、多くの高齢者に学習の場を提供していく必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	新規獲得や人材育成の充実を図るカリキュラムの見直しや、募集PRを行います。予算額は、「現状維持」です。	引き続き講座を通じ、高齢者の生きがいづくりや仲間づくり、ボランティア活動の促進を目指します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	認知症啓発・対策推進事業						施策番号
							-2-(1)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 15,340 千円	平成24年度当初予算額 24,987 千円	人件費 の目安	金額 2,575 千円 課長 0.05 人 職員 0.2 人 係長 0.05 人	(備考)	担当局 保健福祉局
							担当課 高齢者支援課

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」の実現のため、広く市民を対象として、認知症に関する正しい理解と啓発のための該当啓発の実施や講演会を実施します。また、徘徊高齢者等SOSネットワークシステムに関する広報を積極的に行い、登録者の増加に努め、徘徊行動により所在不明となった高齢者を協力機関と連携し、早期の発見・保護に努めます。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---------------------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】	
		認知症の人の地域生活の推進 保健、医療、福祉、地域社会が連携・協働しながら、「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現します。 (最終目標と目標年度)		「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現します。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	認知症予防の話と脳の健康度テストについては、引き続き市民の参加機会の確保に努めます。また、認知症啓発月間街頭啓発活動については、認知症についての啓発をすすめるために、今まで参加していなかった団体に参加していただけるよう、参加を働きかけます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
		認知症予防の話と脳の健康度テスト参加者数 できるだけたくさんの人に参加してもらえよう、市民広報・参加機会の確保を図ります。	162 人	増加	209 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	街頭啓発活動参加団体数 地域社会での取組みを推進するため、街頭啓発活動に今まで参加していなかった団体に参加を働きかけます。	11 団体	増加	11 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	認知症予防の話と脳の健康度テストは順調に実施できています。また、引き続き街頭啓発活動を実施し、参加団体数の増加を図っていきます。このような取組みの結果から、成果の状況は「順調」としています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	認知症予防の話と脳の健康度テストについては、受講者からの評判が良く、受講希望者も多い事業です。引き続き限られた予算内で実施していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 認知症予防の話と脳の健康度テスト参加者数と、街頭啓発活動参加団体数(平成24年度12団体参加)は順調ですが、引き続き利用者(団体)の増加に向けて取組むことが必要です。 次年度の活動計画(見直し内容) 平成25年度事業費は、認知症の実態調査の経費がないこと等から予算は減額となっていますが、認知症予防の話と脳の健康度テストについて、実施方法を工夫して利用者の増加を図るなどにより、より多くの方に事業に参加していただけるよう検討していきます。
	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 認知症の正しい理解の普及と、認知症の早期発見を図ります。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	認知症対策連携強化事業						施策番号				
							-2-(1)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,075 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		4,628 千円	5,512 千円		課長	0.05 人		職員	0.2 人	担当課	高齢者支援課
					係長	0.1 人				課長名	野 瀬

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を図るため設置した「認知症疾患医療センター」を有効に活用し、保健・医療・介護機関等との連携を図りながら、認知症疾患に関する鑑別診断、周辺症状と身体合併症に対する急性期治療、専門医療相談等を実施します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】	
	認知症疾患医療センター専門医療相談件数	665 件	増加	594 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	電話による相談及び面接による相談実績は市民サービスの取り組み成果を計る指標として重要です。 (最終目標と目標年度) 平成26年度 750件					
	(最終目標と目標年度)			順調		

活動計画	地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を図るため、認知症疾患医療センターを中心に、地域包括支援センター等の関係機関との連携を図りながら事業を進めていきます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。認知症疾患医療センター研修会参加者数は158人、認知症疾患医療連携協議会参加者数は32名です。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	かかりつけ医等に対する研修会参加者数	125 人	増加	158 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	かかりつけ医等を対象とした研修会を実施し、認知症に関する知識の向上と啓発活動を行うことで専門医療相談へのつなぎを推進します。					
	(最終目標と目標年度)			順調		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	認知症疾患医療センター相談件数は前年度より減少しているが、外来延べ件数は増加しています。関係者向けの研修会や連携協議会に加え、講演等による広報活動も行っており、実際に講演を聞いて受診相談されるケースもあることから、活動は有効であったと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	認知症医療に対し、より専門的で高度な医療を提供する専門医療機関として機能しており、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上が図られています。認知症疾患医療センターは国の基準に基づき、常勤専従職員(精神保健福祉士1名)と専任職員(医師、臨床心理士、社会福祉士)を配置し、専門性の高いサービスの提供を実施しており、これ以上コストを削減することは困難です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 認知症疾患医療センターと、地域包括支援センターや、介護事業者等関係機関との連携が課題です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	内部経費を見直しコスト削減につとめていることから事業費は減額となっていますが、引き続き、様々な手法で関係機関との連携強化を図っていきます。	今後も「認知症疾患医療センター」を中心に関係機関との連携強化を図り、地域の保健医療水準の向上を図ります。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	権利擁護・市民後見促進事業							施策番号			
								-2-(1)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	3,075 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		5,948 千円	12,608 千円		課長	0.05 人		職員	0.2 人	担当課	高齢者支援課
					係長	0.1 人				課長名	野瀬

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
----------	------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	法人後見受任件数(年度末現在)	市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが困難なため、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)	31 件	増加	42 件
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	第4期の市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	市民後見人養成数(累計)	社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行うことで、成年後見制度の担い手や理解者を増やしているため。	59 人	増加	69 人
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」 「効率性」 の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 予定どおり、第4期市民後見人養成研修を実施しました。修了者10名のうち、3名が北九州市社会福祉協議会権利擁護・市民後見センターでの活動を希望し、成年後見制度の担い手として活躍することになりました。また、市民後見人個人での受任については家庭裁判所と協議を行いました。進捗がなく、今後も協議を続けていきます。成果実績や活動状況については、養成数及び法人後見受任件数は前年度よりも増加していることから順調と判断しました。 平成23年度に老人福祉法が改正され、市民後見人の養成は市町村の責務となりました。そのため、市の施策として実施する必要があり、さらに養成研修終了後、活動する場である北九州市社会福祉協議会(権利擁護・市民後見センター)に研修業務を委託することは効率的であると考えています。また、現時点では、市民後見人の受け皿は同センターしかなく、補助金の交付先としては適当であるとともに、後見報酬としての収入分は削除するなど効率的な補助金の運用を行っています。
------------------	--	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 家庭裁判所においては、現在のところ市が養成した市民後見人を個人で後見人に選任するという判断に至っていません。弁護士会等の専門団体と協力しながら対応を検討する必要があります。 次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの方向性を形付けます。
	補助交付団体の決算額の精査等により事業費は縮小するものの、今までの取り組みに加え、市が養成した市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの構築に向けた検討会を開催するなど、積極的な事業運営を行ってまいります。なお、平成25年度予算からは事業費を障害福祉課と分担します。	

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	認知症高齢者地域ケア推進事業						施策番号			
							-2-(1)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	4,325 千円	(備考)	担当局	保健福祉局	
		10,247 千円	12,014 千円		課長	0.05 人		職員	0.3 人	担当課
			係長		0.15 人			課長名	野 瀬	

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
----------	------------------

目的	北九州市を「認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」にするために、認知症を理解して、認知症の方を地域で温かく見守り、支える「認知症サポーター」の養成に取り組みとともに、介護にあたっている家族の精神的・身体的な負担の軽減を図るためささえあい相談会の実施、認知症の本人や家族が抱える不安や悩みなどを気軽に相談できる認知症コールセンターを設置します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	認知症コールセンター相談件数	認知症に関する正しい理解と啓発を図り、認知症に関する相談をしやすい環境を整備します。 (最終目標と目標年度) 平成26年度 420件	419 件	維持	482 件
	(最終目標と目標年度)			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	認知症サポーター養成講座では、大人だけでなく、中学生や高校生などの若い世代への普及・促進に力を入れて取り組むこととしています。さらに、ささえあい相談会や認知症コールセンターなどの業務を通じ、実際に認知症になった人や認知症患者と暮らす家族が安心して暮らしていけるまちの実現に努めていきます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	北九州市を「認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」にするためには、市民に対する認知症の正しい知識・理解の普及が必要です。	26,522 人	増加	31189 人
認知症コールセンター相談員研修実施回数	認知症コールセンターの相談員として必要な知識の習得のために研修を実施し、相談員としての資質の向上につなげます。	2 回	維持	2 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 認知症サポーター養成講座は委託して実施しており、委託内容は継続して見直しています。認知症コールセンターは、事業内容が特殊ですが、予算の範囲内で効率的な運営ができています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 認知症についての更なる啓発のため、認知症サポーター養成講座受講者(累計)の更なる増加が必要です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	認知症サポーターの養成者数が増加することによって、地域の認知症理解者が増加します。認知症コールセンターは、継続的な情報提供の強化によりフォローアップの充実を図ります。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	地域福祉権利擁護事業						施策番号
							-2-(1)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 51,220 千円	平成24年度当初予算額 53,660 千円	人件費の目安	金額 990 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
					課長 0.01 人 職員 0.05 人	担当課	高齢者支援課
					係長 0.05 人	課長名	野 瀬

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	判断能力が不十分な認知症高齢者や精神障害者・知的障害者に対して、市社会福祉協議会の支援員が日常的な金銭管理や財産管理、介護保険をはじめとする福祉サービスの情報提供や利用説明などを行うことにより、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援を行います。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】		
	地域福祉権利擁護事業契約者数(年度末現在)	286 人 増加	292 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			
	判断能力が衰えてきた高齢者等に対し、福祉サービスの手続きや日常生活に必要な金銭管理サービスなどを提供することで住み慣れた地域で安心して暮らせるようにします。第三次高齢者支援計画上、平成26年度までに下記契約者数を達成することを目標としています。						
	(最終目標と目標年度) 平成26年度 415人						
(最終目標と目標年度)							

活動計画	北九州市社会福祉協議会が実施する地域福祉権利擁護事業に対して補助金を交付することで地域福祉権利擁護事業の運営をサポートするとともに、同事業の周知を図ることで契約者数の増加に努めます。			活動実績	活動実績等は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	地域福祉権利擁護事業支援員活動者数(年度末現在)	23 人 増加	27 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			
	地域福祉権利擁護活動に従事する支援員を確保することで、高齢者・障害者の権利擁護を促進します。						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	新規契約件数と死亡等を理由とする解約契約件数がほぼ同数であることから年度末の契約件数は微増です。判断能力が衰えてきた高齢者等が住み慣れた地域で生活していくにあたり、本事業は必要であるため、引き続き実施していきますが、新規契約件数の増加に向けて広報・周知活動を行っていきます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	社会貢献意欲の高い市民後見人をサービス提供時の支援員として派遣するなど、経済的な運営を行っています。また、効率的な訪問計画を定め、支援活動の実施と経費の削減を図っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	本事業は判断能力が衰えた方の支援として非常に重要ですが、新規利用契約件数と死亡等による契約解除件数がほぼ同数であることから、契約件数が微増にとどまっています。いかに契約者数を増やすのが課題です。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	この事業は継続していく必要がある事業ですので、実施主体である北九州市社会福祉協議会と協議を重ねながら適切な事業運営に取り組みます。また、事業費は現状維持です。	契約者の増加を目指します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	地域包括支援センター運営事業						施策番号	
							-2-(1)-	
コスト	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	27,075 千円	(備考) 担当課のみ、ただし、事業費に地域包括支援センターの人件費を含みます。	担当局	保健福祉局
	779,216 千円	836,393 千円		課長	0.1 人 職員 2.4 人		担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課
				係長	0.75 人		課長名	清田

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	高齢者が地域で安心して生活できるよう、地域包括支援センターが 高齢者権利擁護・虐待防止、認知症対策や介護予防などの課題に迅速で適切に対応するため、支援体制の整備や相談機能の強化を推進します。				成果実績	26年度以降、在宅高齢者が地域包括支援センターの利用時の職員対応に満足する状態を目指します。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【成果の状況】		
	地域包括支援センターの利用時の職員対応に満足している在宅高齢者の割合	74.6 %	増加	H25調査予定 (3年毎の実態調査による)	%	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	高齢者が地域で安心して生活できているかを「北九州市高齢者等実態調査」の「地域包括支援センターの利用時の職員対応に満足している在宅高齢者の割合」を指標として設定します。 (最終目標と目標年度) 80% (26年度)							
					%	順調		
(最終目標と目標年度)				%				

活動計画	高齢者が地域で安心して生活できるよう、地域包括支援センターの支援体制の整備や相談機能の強化を推進し、高齢者権利擁護・虐待防止、認知症対策や介護予防などの課題に迅速・適切に対応します。	活動実績	24の地域包括支援センターは市民の来所相談窓口にて特化し、電話相談や事業者の手続き、相談は統括支援センターのある区役所に対応することにしました。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【活動の状況】	
	地域包括支援センター体制変更		24ヶ所	24ヶ所	%	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	地域包括支援センター相談件数を分析することで、業務内容や対応状況を把握し、統括・地域包括支援センター間の連携を強化し、相談体制を充実できるように地域包括支援センターの業務や人員配置の変更を行います。			100.0 %			
					%	順調	
				%			

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p> <p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>迅速で適切な対応を数値で表すことは、困難ですが、毎年提出される統括及び地域包括支援センター自己点検の結果から、支援関係者との連携強化や高齢者権利擁護・虐待への対応に効果を挙げており、地域包括支援センターの相談対応機能は進んでいると考えられます。また、地域包括支援センターにおける相談件数は年間20万件を超え、総合相談窓口として認知されています。</p> <p>厚生労働省が定める配置基準により、三職種の専門職員(準じる職員も含む)を配置し運営を行っています。今後の課題として、業務を効率的におこなうために、より効果的な職員配置等を検討していくことが必要と考えます。</p>

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	平成24年度も高齢者の総合相談窓口として、市内24箇所地域包括支援センター、各区で統括支援センターを運営しています。高齢者が増加する状況においても、地域包括支援センターが様々な相談に迅速で適切に対応するため、体制づくりや機能確保のための適宜見直しが必要と考えます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	高齢者人口や地域包括支援センターの対応状況を踏まえ、専門職員を増員するなど支援体制・相談機能の強化を図ります。併せて事務費の削減に努め、予算は現状維持します。
	「地域包括支援センターの利用時の職員対応に満足している在宅高齢者の割合」の向上を目指します。なお、割合は、平成26年度実施予定の「北九州市高齢者等実態調査」で測定します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	認知症の早期発見・早期対応促進事業						施策番号
							-2-(1)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 2,611 千円	平成24年度当初予算額 3,232 千円	人件費 の目安	金額 4,650 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
					課長 0.1 人 職員 0.2 人	担当課	精神保健福祉センター
					係長 0.2 人	課長名	三井

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	認知症の方本人及びご家族等がより身近な地域でかかりつけ医や専門機関などへ気軽に受診・相談できる状態を目指します。			成果実績	「ものわすれ外来」の設置 「ものわすれ外来」協力医療機関医師及びかかりつけ医への研修の実施 認知症サポート医養成研修への派遣		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】			
	「ものわすれ外来」協力医療機関数	44 機関	43 機関	43 機関 100.0 %				
	地域において気軽に受診・相談できるようにするため、各区の状況を考慮の上、市内全域に一定数の「ものわすれ外来」協力医療機関を確保・維持するとともに、その質の維持・向上に努めます。 (最終目標と目標年度) 43～45医療機関を維持					代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	認知症サポート医養成数	19 人	32 人	23 人 71.9 %				
「ものわすれ外来」の質の維持・向上を図るため、地域における連携の推進役としての役割を強化することを目的に、「ものわすれ外来」協力医療機関の医師を中心に、厚生労働省が規定する認知症サポート医を養成します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度までに32人					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			

活動計画	地域において認知症の方本人及び家族が気軽に相談できるようにするため、本市における認知症対策の一環として、「ものわすれ外来」を設置しております。その質を維持するため、「ものわすれ外来」協力医療機関数を43～45機関に維持し利用状況の調査分析を行うとともに、かかりつけ医認知症対応力向上研修の実施及び地域における連携推進役となる認知症サポート医養成に努めます。	活動実績	「ものわすれ外来」協力医療機関担当医研修実施 認知症対応力向上研修実施 認知症サポート医養成研修への派遣					
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】			
	「ものわすれ外来」協力医療機関数	44 機関	43 機関	43 機関 100.0 %				
	地域において気軽に受診・相談できるようにするため、各区の状況を考慮の上、市内全域に一定数の「ものわすれ外来」協力医療機関を確保・維持するとともに、その質の維持・向上に努めます。					活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	認知症サポート医養成数(単年度)	3 人	4 人	4 人 100.0 %				
「ものわすれ外来」の質の維持・向上を図るため、地域における連携の推進役としての役割を強化することを目的に「ものわすれ外来」協力医療機関の医師を中心に、厚生労働省が規定する認知症サポート医を養成します。					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「ものわすれ外来」の新規受診者は、この数年間2,000人を超えており、市民に認知され、認知症の早期発見・早期対応の一翼を担うようになったと考えております。 「ものわすれ外来」の質を維持するためには、現在の医療機関数が適当と考えており、今後も担当医研修等を行うことでレベルを維持したいと考えております。 また、引き続き予定どおり認知症サポート医を養成してまいります。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	この事業は地域連携に関する分野であり、市医師会及び認知症疾患医療センターとの役割分担上、行政が連携事務局として関与を期待されているところは大きいため、今後も現行の方式で運営することが必要と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	「ものわすれ外来」の質を維持するため、現在の協力医療機関数を維持し、引き続き協力医療機関担当医研修を行います。また、地域における認知症サポート体制を強化するため、認知症サポート医の養成強化を行う必要があると考えます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	前年度に引き続き、現在の医療機関数を維持し、協力医療機関担当医研修、認知症サポート医の養成に努めます。 次年度は認知症サポート医養成者を6人にするため、事業費を拡充します。
	「ものわすれ外来」協力医療機関数を44医療機関程度に維持します。また、認知症サポート医を6人養成します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	権利擁護・市民後見促進事業						施策番号		
							-2-(1)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,075 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
		5,948 千円	12,608 千円		課長	0.05 人 職員 0.2 人		担当課	高齢者支援課
					係長	0.1 人		課長名	野 瀬

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---------------------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
		法人後見受任件数(年度末現在) 市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが困難なため、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)	31 件	増加	42 件
					順調

活動計画	第4期の市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
		市民後見人養成数(累計) 社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行っていくことで、成年後見制度の担い手や理解者を増やしてあげるため。	59 人	増加	69 人
					順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	予定どおり、第4期市民後見人養成研修を実施しました。修了者10名のうち、3名が北九州市社会福祉協議会権利擁護・市民後見センターでの活動を希望し、成年後見制度の担い手として活躍することになりました。また、市民後見人個人での受任については家庭裁判所と協議を行いました。進捗がなく、今後も協議を続けていきます。成果実績や活動状況については、養成数及び法人後見受任件数は前年度よりも増加していることから順調と判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	平成23年度に老人福祉法が改正され、市民後見人の養成は市町村の責務となりました。そのため、市の施策として実施する必要があり、さらに養成研修終了後、活動する場である北九州市社会福祉協議会(権利擁護・市民後見センター)に研修業務を委託することは効率的であると考えています。また、現時点では、市民後見人の受け皿としては同センターが適当であり、補助金の交付先としては適当であるとともに、後見報酬としての収入分は削除するなど経済的な補助金の運用を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 家庭裁判所においては、現在のところ市が養成した市民後見人を個人で後見人に選任するという判断に至っていません。弁護士会等の専門団体と協力しながら対応を検討する必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	補助交付団体の決算額の精査等により事業費は縮小するものの、今までの取り組みに加え、市が養成した市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの構築に向けた検討会を開催するなど、積極的な事業運営を行っていきます。なお、平成25年度予算からは事業費を障害福祉課と按分します。 市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの方向性を形付けます。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	認知症啓発・対策推進事業							施策番号		
								-2-(1)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,575 千円	(備考)	担当局	保健福祉局	
		15,340 千円	24,987 千円		課長	0.05 人		職員	0.2 人	担当課
			係長		0.05 人			課長名	野 瀬	

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」の実現のため、広く市民を対象として、認知症に関する正しい理解と啓発のための街頭啓発の実施や講演会を実施します。また、徘徊高齢者等SOSネットワークシステムに関する広報を積極的に行い、登録者の増加に努め、徘徊行動により所在不明となった高齢者を協力機関と連携し、早期の発見・保護に努めます。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	認知症の人の地域生活の推進	保健、医療、福祉、地域社会が連携・協働しながら、「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現します。 (最終目標と目標年度)		「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現します。	
	(最終目標と目標年度)			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	

活動計画	認知症予防の話と脳の健康度テストについては、引き続き市民の参加機会の確保に努めます。また、認知症啓発月間街頭啓発活動については、認知症についての啓発をすすめるために、今まで参加していなかった団体に参加していただけるよう、参加を働きかけます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	認知症予防の話と脳の健康度テスト参加者数	できるだけたくさんの人に参加してもらえよう、市民広報・参加機会の確保を図ります。	162 人	増加	209 人
街頭啓発活動参加団体数	地域社会での取組みを推進するため、街頭啓発活動に今まで参加していなかった団体に参加を働きかけます。	11 団体	増加	11 団体	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	認知症予防の話と脳の健康度テストは順調に実施できています。また、引き続き街頭啓発活動を実施し、参加団体数の増加を図っていきます。このような取組みの結果から、成果の状況は「順調」としています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	認知症予防の話と脳の健康度テストについては、受講者からの評判が良く、受講希望者も多い事業です。引き続き限られた予算内で実施していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	認知症予防の話と脳の健康度テスト参加者数と、街頭啓発活動参加団体数は順調ですが、引き続き利用者(団体)の増加に向けて取り組む必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成25年度事業費は、認知症の実態調査の経費がないこと等から予算は減額となっていますが、認知症予防の話と脳の健康度テストについて、実施方法を工夫して利用者の増加を図るなどにより、より多くの方に事業に参加していただけるよう検討していきます。	認知症の正しい理解の普及と、認知症の早期発見を図ります。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	認知症高齢者地域ケア推進事業						施策番号		
							-2-(1)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	4,325 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
		10,247 千円	12,014 千円		課長	0.05 人 職員 0.3 人		担当課	高齢者支援課
			係長		0.15 人	課長名		野 瀬	

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
----------	------------------

目的	北九州市を「認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」にするために、認知症を理解して、認知症の方を地域で温かく見守り、支える「認知症サポーター」の養成に取り組むとともに、介護にあたっている家族の精神的・身体的な負担の軽減を図るためささえあい相談会の実施、認知症の本人や家族が抱える不安や悩みなどを気軽に相談できる認知症コールセンターを設置します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	認知症コールセンター相談件数	419 件	維持	482 件	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	認知症に関する正しい理解と啓発を図り、認知症に関する相談をしやすい環境を整備します。 (最終目標と目標年度) 平成26年度 420件				
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

活動計画	大人だけでなく、中学生や高校生などの若い世代への普及・促進に力を入れて取り組むこととしています。さらに、ささえあい相談会や認知症コールセンターなどの業務を通じ、実際に認知症になった人や認知症患者と暮らす家族が安心して暮らしていけるまちの実現に努めていきます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	26,522 人	増加	31,189 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	北九州市を「認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」にするためには、市民に対する認知症の正しい知識・理解の普及が必要である。				
	認知症コールセンター相談員研修実施回数 認知症コールセンターの相談員として必要な知識の習得のために研修を実施し、相談員としての質の向上につなげます。	2 回	維持	2 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	認知症サポーター養成講座受講者数は、受講団体等の新規開拓や小・中学校での講座開催などにより、数多くの方に受講していただきました。また、認知症コールセンターの相談件数も増加しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	認知症サポーター養成講座は委託して実施しており、委託内容は継続して見直しています。認知症コールセンターは、事業内容が特殊ですが、予算の範囲内で効率的な運営ができています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	認知症についての更なる啓発のため、認知症サポーター養成講座受講者(累計)の更なる増加が必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事業の効率化等により事業費は減額となっていますが、様々な機会、認知症サポーター養成講座の開催を図り、受講者数の増加に取り組みます。認知症コールセンターについては、相談者への継続的な情報提供に取り組みます。	認知症サポーターの養成者数が増加することによって、地域の認知症理解者が増加します。認知症コールセンターは、継続的な情報提供の強化によりフォローアップの充実を図ります。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	訪問給食サービス事業							施策番号		
								-2-(1)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,740 千円	(備考)	担当局	保健福祉局	
		53,130 千円	52,843 千円		課長	0.01 人		職員	0.15 人	担当課
			係長		0.05 人			課長名	野 瀬	

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	栄養改善のため居宅への配食サービスが必要と判断されるひとり暮らしの高齢者に、バランスの取れた食事を届けるとともに、利用者の安否を確認し、健康状態に異常があった場合、関係機関へ連絡し、利用者が地域で安心して生活できるまちづくりの促進に寄与します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---------------------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	ひとり暮らし高齢者の食生活の改善	自身で食事の用意が困難な高齢者等に対して、栄養バランスのとれた食事を配食することで、利用者が在宅で生活するために必要な食事環境を確保します。 (最終目標と目標年度)		栄養バランスのとれた食事を配食し、在宅で生活するにあたり必要な食事環境を確保します。	
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	利用者がより多くの業者からサービスを選択できるよう配食業者の確保に努めるとともに、ケアマネージャーや介護保険に該当しなかった方にも情報を提供していくなど、サービスが必要な方に情報が届くよう普及に努めます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	利用者数	栄養管理・改善が必要な一人暮らしの高齢者に、栄養のバランスのとれた食事を届け、在宅生活を支援するとともに、利用者の安否を確認し、健康状況に異常があった場合には関係機関への連絡などを行います。	1,195 人	増加	1,219 人
				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度3月末時点での利用者数は1,219人で、昨年度より増加している。また、配食数に置き換えると昨年度実績より1万食以上増加しており、事業の周知が進んでいると思われます。配食業者にはバランスの取れた食事を提供すること、安否確認を徹底することを指導しており、サービスを希望する方に適切なサービスを提供しているものと考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	配食業者の担当する履行面積に応じて1食あたりの配食料を設定していることから、効率的な事業運営が出来ていると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	区によっては配食サービス業者の数が少ない状況にあり、今後配食サービスを行う民間事業者の動向を見ながらこの事業を展開していくことが必要と考えています。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	引き続きサービスを実施するとともに、独居高齢者の見守りの視点から充実を図りたいと考えています。事業費は現状維持です。	利用者数の増加を図ることで、高齢者の食生活の改善を図るとともに独居高齢者の見守り体制の強化につなげたいと考えています。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	介護保険給付の適正な実施(在宅サービス)						施策番号				
							-2-(1)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	0 千円	(備考) 直接関わる職員以外に、多くの事業者が関わっています。	担当局	保健福祉局		
		33,225,164 千円	35,012,804 千円		課長	0 人		職員	0 人	担当課	介護保険課
					係長	0 人				課長名	横山

【Plan】計画

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	今後も高齢化の進展が予想されるなか、高齢者が介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるよう介護保険サービスを提供していきます。			成果実績	在宅サービスの利用人数は、第二次北九州市高齢者支援計画に基づくサービス見込み量を上回る実績です。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】			
	在宅サービスの利用人数			29,070 人	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	介護が必要な人にホームヘルプサービスやデイサービスなどの在宅サービスが安定的に供給されるよう、引き続き取組んでいきます。 (最終目標と目標年度)平成26年度:31,018人(年平均)	27,725 人	27,892 人	104.2 %				
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			
(最終目標と目標年度)				順調				

活動計画	介護を必要とする人に適切なサービスが提供されるよう取組みます。				活動実績	区役所等における相談対応とともに、介護サービスへの繋ぎなどの支援を実施しました。			
-------------	---------------------------------	--	--	--	-------------	--	--	--	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】			
					活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			
					順調			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	昨年度に引き続き、ほぼ計画通りに進捗していることから、介護が必要になってもホームヘルプサービスなどの介護保険サービスを利用することで住み慣れた地域での生活を支援することができたと考えます。また、サービスの提供は民間事業者等により提供されており、事業者の協力のもと、ほぼ見込どりに実施されています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。」	介護保険サービスは国で決められた公的サービスのため、市独自で料金を決定することは難しいと考えます。同じコストでより高い成果を得るため、今後も適正なサービス提供及びサービスの質の確保の観点から事業所への支援を行っていく必要があります。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題			
		今後も高齢化の進展が予想され、介護が必要になっても在宅での生活を可能とするために多様化するニーズに対応する必要があります。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護等の在宅サービスの充実をも含め、今後も在宅サービスが安定的に供給されるよう引き続き取り組んでいきます。 事業費: 拡充	介護が必要になっても介護保険サービスを利用することで、住み慣れた地域での生活が送れるよう支援します。		

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	特別養護老人ホーム等の整備						施策番号				
							-2-(1)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	55,750 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		403,258 千円	1,295,250 千円		課長	0.5 人		職員	4.8 人	担当課	介護保険課
					係長	1.4 人				課長名	横山

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	要介護高齢者が在宅生活が困難になった場合などにおいても、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう、第二次北九州市高齢者支援計画に基づき特別養護老人ホームや認知症グループホーム等の整備を行います。	成果実績	第二次北九州市高齢者支援計画に基づく特別養護老人ホームや認知症グループホーム等の整備は目標を100%達成できました。
-----------	---------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	特別養護老人ホーム等の整備数	-	特別養護老人ホームと認知症グループホームの定員数をH23年度末までに、H20年度末比で1,054床増やします。	-	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	特別養護老人ホームや認知症グループホームをH23年度末までの計画に基づき整備します。 ・特別養護老人ホーム定員数 H20年度:3,455人 H23年度:4,159人(704床増) ・認知症グループホーム定員数 H20年度:1,469人 H23年度:1,819人(350床増)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	(最終目標と目標年度)特別養護老人ホーム5,033人、認知症グループホーム2,197人、介護老人保健施設2,970人:平成26年度末			%	

活動計画	特別養護老人ホームや認知症グループホーム等の整備は、北九州市高齢者支援計画で数値目標を設定し、計画的に行います。整備にあたっては、事業主体となる民間事業者を選定するため公募を実施します。	活動実績	計画に基づく整備については、全て公募を実施し、事業者を選定しました。
-------------	---	-------------	------------------------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	公募の実施	-	適正な公募の実施	-	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	適正な施設運営ができる事業者を選定するため公募を実施します。			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	特別養護老人ホームや認知症グループホーム等の整備は計画どおりに進捗し、整備目標を100%達成できました。 公募の実施にあたっては、市政だよりの掲載や事業者へのダイレクトメール、公募説明会とフォーラムを同時に開催するなど周知を図る取り組みを積極的に行いました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで、同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	施設整備は市が公募し、民間事業者を選定します。選定された事業者が事業主体となって整備を実施しています。 補助金の支出については、県や国が設定している上限額まで利用しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	これまでの活動で100%の成果がでており、今後も公募の周知は積極的に実施します。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	特別養護老人ホームや認知症グループホーム、介護老人保健施設等の整備は、第三次北九州市高齢者支援計画(平成24~26年度)において、前期(平成21~23年度)を上回る数値目標を設定し、計画的に行います。整備にあたっては、引き続き、事業主体となる民間事業者を選定するため公募を実施します。	特別養護老人ホームや認知症グループホーム、介護老人保健施設の定員数をH26年度末までに、平成23年度末比で1,334床増やします。 ・特別養護老人ホーム定員数 H23年度:4,159人 H26年度:5,033人(874床増) ・認知症グループホーム定員数 H23年度:1,837人 H26年度:2,197人(360床増) ・介護老人保健施設定員数 H23年度:2,870人 H26年度:2,970人(100床増)

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	介護サービス相談員派遣事業							施策番号	
								-2-(1)-	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	2,230 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
		13,261 千円	16,559 千円		課長	0 人 職員 0.2 人		担当課	介護保険課
					係長	0.1 人		課長名	横山

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	介護サービス相談員を介護保険事業所へ派遣することで、サービス利用者や家族のための相談の機会を設け、介護サービスの苦情に至る事態を未然に防ぎ、利用者を尊重しながら介護サービスの質の向上を図ります。	成果実績	成果の状況は、下記のとおりです。
-----------	---------------------	---	-------------	------------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	介護サービスの質の向上	介護保険事業所へ第三者である相談員を派遣することにより、当該事業所が「介護の質の向上」や「サービスの適正化」に積極的に取り組んでいくことを目指します。今後は、国の調査等を参考にしながら、市独自のアンケートなどにより成果指標を検討します。 (最終目標と目標年度)		介護サービスの質の向上	%
参考 (平成23年度介護相談員活動調査報告書より)3年に1回実施 相談員受入れにより、よりよいケアができるようになったと答えた割合 ・大いにそう思う・ややそう思う 全国 71.3% 本市 75.7% (最終目標と目標年度)				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

活動計画	新規派遣事業者の募集を年1回行い当該事業の効果などをPRする事業者説明会を実施するとともに、事業者の相談員派遣受入れの意欲を促すため、追加募集を行っています。	活動実績	23年度は、継続派遣の118箇所、8月に14箇所、2月に12箇所を新規派遣事業所として加えた計144事業所へ介護サービス相談員を派遣しました。追加募集も行うことで目標を概ね達成することができ、介護サービスの質の向上を図ることができたと考えています。
-------------	---	-------------	--

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	派遣施設・事業者数	介護サービス相談員を市内の施設や事業所へ派遣することで利用者の疑問、不満、不安解消を図り、改善に結びつける機会を設けるため、市内150事業所を目標に相談員の派遣を行いました。	144 箇所	150	140 箇所 93.3 %
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<p>平成23年度の派遣事業所数はほぼ目標を達成できました。このような中、当該事業は、多数の事業所への相談員派遣を促進するため、派遣期間を施設系サービス5年、通所系サービス3年と定めており、派遣期間満了後の再派遣は行ってきませんでした。しかし、派遣期間の延長を要望する事業者も多いため、新規事業者の派遣数を確保しつつ、再派遣についても取り組んでいきます。</p>
	<p>「経済性」 「効率性」 の分析</p> <p>「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>委託先の社会福祉協議会は、介護支援専門員などの資格を持った職員を有するとともに、見守りサポーターなどの人材を活用できるなど、効率的な運営が行えていると考えています。</p>

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	<p>課題</p> <p>派遣事業者数はほぼ目標を達成していますが、派遣期間満了後の期間延長を要望する事業者も多く、新規事業者の派遣数を確保しつつ、再派遣についても取り組んでいきます。</p> <p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>新規事業者の派遣数を確保しつつ、再派遣についても取り組み、より多くの事業者への相談員派遣を行います。 事業費:現状維持</p>	<p>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p> <p>より多くの事業者へ相談員を派遣することにより、介護の質の向上を図ることができます。</p>
---------------	--	---

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	認知症の早期発見・早期対応促進事業						施策番号				
							-2-(1)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	4,650 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		2,611 千円	3,232 千円		課長	0.1 人		職員	0.2 人	担当課	精神保健福祉センター
					係長	0.2 人				課長名	三井

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
----------	------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	認知症の方本人及びご家族等がより身近な地域でかかりつけ医や専門機関などへ気軽に受診・相談できる状態を目指します。		成果実績	「ものわすれ外来」の設置 「ものわすれ外来」協力医療機関医師及びかかりつけ医への研修の実施 認知症サポート医養成研修への派遣
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	「ものわすれ外来」協力医療機関数	44 機関	43 機関	43 機関 100.0 %	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域において気軽に受診・相談できるようにするため、各区の状況を考慮の上、市内全域に一定数の「ものわすれ外来」協力医療機関を確保・維持するとともに、その質の維持・向上に努めます。 (最終目標と目標年度) 43～45医療機関を維持				
	認知症サポート医養成数(累計)	19 人	24 人	23 人 95.8 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
「ものわすれ外来」の質の維持・向上を図るため、地域における連携の推進役としての役割を強化することを目的に、「ものわすれ外来」協力医療機関の医師を中心に、厚生労働省が規定する認知症サポート医を養成します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度までに32人					

活動計画	地域において認知症の方本人及び家族が気軽に相談できるようにするため、本市における認知症対策の一環として、「ものわすれ外来」を設置しております。その質を維持するため、「ものわすれ外来」協力医療機関数を43～45機関に維持し利用状況の調査分析を行うとともに、かかりつけ医認知症対応力向上研修の実施及び地域における連携推進役となる認知症サポート医養成に努めます。		活動実績	「ものわすれ外来」協力医療機関担当医研修実施 認知症対応力向上研修実施 認知症サポート医養成研修への派遣	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	「ものわすれ外来」協力医療機関数	44 機関	43 機関	43 機関 100.0 %	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	地域において気軽に受診・相談できるようにするため、各区の状況を考慮の上、市内全域に一定数の「ものわすれ外来」協力医療機関を確保・維持するとともに、その質の維持・向上に努めます。				
	認知症サポート医養成数(単年度)	3 人	4 人	4 人 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
「ものわすれ外来」の質の維持・向上を図るため、地域における連携の推進役としての役割を強化することを目的に、「ものわすれ外来」協力医療機関の医師を中心に、厚生労働省が規定する認知症サポート医を養成します。					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「ものわすれ外来」の新規受診者は、この数年間2,000人を超えており、市民に認知され、認知症の早期発見・早期対応の一翼を担うようになったと考えております。 「ものわすれ外来」の質を維持するためには、現在の医療機関数が適当と考えており、今後も担当医研修等を行うことでレベルを維持したいと考えております。 また、引き続き予定どおり認知症サポート医を養成していきます。
「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	この事業は地域連携に関する分野であり、市医師会及び認知症疾患医療センターとの役割分担上、行政が連携事務局として関与を期待されているところは大きいため、今後も現行の方式で運営することが必要と考えます。	

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題				
	「ものわすれ外来」の質を維持するため、現在の協力医療機関数を維持し、引き続き協力医療機関担当医研修を行います。また、地域における認知症サポート体制を強化するため、認知症サポート医の養成強化を行う必要があると考えます。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>前年度に引き続き、現在の医療機関数を維持し、協力医療機関担当医研修、認知症サポート医の養成に努めます。 次年度は認知症サポート医養成者を6人にするため、事業費を拡充します。</td> <td>「ものわすれ外来」協力医療機関数を44医療機関程度に維持します。また、認知症サポート医を6人養成します。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	前年度に引き続き、現在の医療機関数を維持し、協力医療機関担当医研修、認知症サポート医の養成に努めます。 次年度は認知症サポート医養成者を6人にするため、事業費を拡充します。	「ものわすれ外来」協力医療機関数を44医療機関程度に維持します。また、認知症サポート医を6人養成します。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
前年度に引き続き、現在の医療機関数を維持し、協力医療機関担当医研修、認知症サポート医の養成に努めます。 次年度は認知症サポート医養成者を6人にするため、事業費を拡充します。	「ものわすれ外来」協力医療機関数を44医療機関程度に維持します。また、認知症サポート医を6人養成します。				

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	高齢者住宅等あんしん確保事業							施策番号	
								-2-(1)-	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,740 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
		19,481 千円	23,780 千円		課長	0.01 人 職員 0.15 人		担当課	高齢者支援課
					係長	0.05 人		課長名	野 瀬

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	ふれあいむら市営住宅や高齢者向け優良賃貸住宅(30戸以上)に入居する高齢者に対し、その住宅に併設、または隣接・近接する通所介護事業者等を運営する社会福祉法人等から生活援助員を派遣し、各種サービスを提供するとともに、緊急通報システムによる安否確認を行うなど、入居者の安全かつ快適な在宅生活の支援を行います。				成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 <small>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】				
	入居者の快適な生活の確保		生活援助員を派遣することで入居者の快適な生活を確保します。		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調			
	住宅計画課が高齢者優良賃貸住宅として決定した対象戸に援助員を派遣し、見守りなどのサービスを提供することで、入居者の安全かつ快適な在宅生活を確保しています。 (最終目標と目標年度)								
(最終目標と目標年度)									

活動計画	ふれあいむら市営住宅160戸、高齢者向け優良賃貸住宅102戸で高齢者住宅の安心確保事業を行います。また、今年度供用開始予定の高齢者向け有料賃貸住宅60戸でも安心確保事業を実施します。					活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】					
	対象戸数		262 戸 増加	262 戸	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調				
	ふれあいむら市営住宅及び高齢者向け優良賃貸住宅に、高齢者の安否確認や生活相談などを行う、生活援助員を派遣し、高齢者の安心を確保します。									

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	各戸に対する支援活動として生活相談・安否確認・一時的な家事援助・緊急時の対応、要介護時の連絡調整を行うことで、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活ができていることから事業は順調に進んでいると考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	生活援助員派遣の経費は国が示した基準に準じています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	平成5年より派遣を開始し、現在9団地にまで増加しました。新たな市営住宅への派遣については関係者との協議が必要です。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	現在派遣中の住宅に引き続き派遣します。事業費は現状維持です。	高齢者の安否確認と生活相談を実施し、安心して在宅生活が送れる環境づくりを行います。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	すこやか住宅改造助成							施策番号			
								-2-(1)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,200 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		86,390 千円	78,345 千円		課長	0.05 人		職員	0.15 人	担当課	高齢者支援課
					係長	0.05 人				課長名	野 瀬

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	介護保険で、要介護または要支援と認定された人や重度障害者の居住する住宅を、廊下や階段への手すりの設置や段差解消など、当該要介護者の心身の機能に配慮した住宅(すこやか仕様)に改造する場合に、費用の全部又は一部を助成し、高齢者等の在宅生活を支援するとともに、「すこやか仕様」の普及を図ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	住み慣れた住宅での生活の援助	高齢者等それぞれに適応した住宅に改造するために、すこやか住宅改造助成により住み慣れた住宅で生活を続けられるように援助します。 (最終目標と目標年度)		住み慣れた住宅で生活できるように援助する	
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	区役所高齢者・障害者相談コーナーや地域包括支援センターへのチラシの配布など事業周知に努め、必要な支援を実施します。また、建築士・理学療法士等からなる専門チームによる住宅相談を通じて事業の普及を図ります。	活動実績			
-------------	---	-------------	--	--	--

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	助成件数	介護を必要とする高齢者などが居住している住宅を、身体状況に配慮した仕様(段差解消など)に改造する場合に、その費用の全部または一部を助成します。	240 件	増加	307 件
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	前年度に比べ、大幅に件数が増加しており、制度の周知・普及が進んでいるものと考えています。高齢者の在宅生活を支えるものとして有効であり、リフォーム制度への関心も高く、拡充も図られました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	実務をNPO法人に委託しており、行政のコストを下げています。また、助成するにあたり、専門家による訪問診断や見積審査を実施し、より効率的・効果的な改造を目指しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題			
	これまで助成の申込件数が見込みを上回る状況となっても対応してきましたが、一方で予算の制約もあり、今後いかにしてニーズに対応していくかが課題となっています。			
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	増加するニーズへの対応のため事業運営の見直しを検討します。事業費は現状維持です。	より多くの住宅が「すこやか仕様」になることを目指します。		

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	高齢者障害者あんしん法律相談						施策番号
							-2-(1)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 720 千円	平成24年度当初予算額 1,260 千円	人件費の目安	金額 990 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
					課長 0.01 人 職員 0.05 人	担当課	高齢者支援課
					係長 0.05 人	課長名	野 瀬

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	概ね65歳以上の要援護高齢者及びその家族が抱える「借地・借家」、「相続」、「借金」、「金銭管理」、「近隣とのトラブル」など民事・刑事上の法律に関わる問題について、福岡県弁護士会北九州部会所属の弁護士が悩みの解決に向け、アドバイスをします。広報活動につとめ、多くの対象者に利用してもらい、「すべての高齢者の権利が尊重されるまち」を目指します。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】		
	高齢者あんしん法律相談件数	111 件	増加	107 件			
	本事業は概ね65歳以上の要援護高齢者及びその家族が抱える民事・刑事上の法律に関わる問題について、福岡県弁護士会北九州部会所属の弁護士が悩みの解決に向け、アドバイスをします。広報活動につとめ、多くの対象者に利用してもらい、「すべての高齢者の権利が尊重されるまち」を目指します。 (最終目標と目標年度)平成26年度 120件				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調	

活動計画	適切な広報、また地域包括支援センターなどに寄せられた相談のうち弁護士によるアドバイスが必要なものを本事業につなげます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	市民への広報活動実施回数	84 回	維持	84 回			
	あんしん法律相談は、各区で実施している事業であることから、毎月各区版の市政だよりにて広報を行うことで、相談件数増加に繋がります。				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	この事業は市のみでの実施ではなく、福岡県弁護士会北九州部会の協力を得て実施しているものです。市民にとって、困っている事等について、弁護士に法律的にどのように解決する道筋があるのかを示してもらう場が自分の住んでいる区にあり、無料で相談できることは住み慣れた地域で生活していくにあたり非常に有益です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	この事業は福岡県弁護士会北九州部会の高齢者・障害者委員会に所属している弁護士が主に相談対応していることから、相談に訪れる方の対応やアドバイス等も専門的になっています。また市が支払う弁護士への報酬も一般的な報酬よりも低額です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題		
	相談件数が毎年100件を超える程度であり、伸び悩んでいます。また、区によっては、利用者がいない月もあります。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
	市政だよりでの広報を継続するとともに、市のPR媒体を活用し、より多くの方に周知を行います。事業費は、現状維持です。	高齢者の法的トラブルの防止・解決を図り、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりを目指します。	

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	高齢者・障害者相談コーナー充実事業						施策番号
							-2-(2)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 79 千円	平成24年度当初予算額 263 千円	人件費 の目安	金額 1,605 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局
					課長 0 人 職員 0.1 人		保健福祉局
					係長 0.1 人		担当課 障害福祉課
							課長名 早崎

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	高齢者・障害者相談コーナーは、障害者や高齢者の状況に応じた総合的なサービス提供が行われるように、健康づくりから介護サービスまであらゆる相談を受け付ける窓口です。これまでも相談体制の確立を図ってきましたが、今後、高齢者・障害者相談係長会議を定期的開催することや各区の保健福祉相談業務に従事する職員を研修に派遣する等により、さらなるレベルアップを図り、障害者や高齢者に対し総合的な相談支援を行うことできるような体制作りの強化を図ります。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	---------------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
代表的な成果指標	障害者等の状況に応じた総合的な相談・支援の推進		障害者等の状況に応じた総合的な相談・支援の推進		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	障害者のさまざまな課題に、迅速で適切に対応できるよう相談業務のレベルアップと体制の強化を図ります。 (最終目標と目標年度)			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	(最終目標と目標年度)				

活動計画	高齢者・障害者相談係長会議を2ヶ月に1回、年6回開催します。各区の保健福祉相談業務に従事する職員の研修派遣を1区1人 計7人派遣し、職員の資質の向上に努めます。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
活動指標	高齢者・障害者相談コーナー相談件数		増加	130,682 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	相談件数は、障害者又はその家族が各区高齢者・障害者相談コーナーに求めるニーズを把握する指標となるものです。今後とも、係長会議の定期的開催や職員の研修派遣等を通じ職員の資質の向上に努め、市民サービスの推進を図ります。	112,470 件			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 高齢者・障害者相談コーナー相談件数は前年度実績に比べて伸びており、これは職員の資質の向上が図られたことから、限られた人数と時間で、より多くの障害者等の状況に応じた相談に対応できたもので、【活動の状況】は「順調」と判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 障害者等の相談は、近年、高度化・複雑化しており、それに対応するためには窓口職員の資質の向上は不可欠です。本事業で継続的に窓口職員の資質向上を図ることにより、限られた人数と時間の中で、障害者等の状況に応じた総合的な相談・支援を可能としています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	近年の障害者等相談の高度化・複雑化に対応するため、継続的に窓口職員の資質向上を図る必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	高齢者・障害者相談係長会議の定期的開催や各区の保健福祉相談業務に従事する職員の研修派遣を継続実施し、窓口職員の一層の資質向上を図ります。	高齢者・障害者相談コーナー相談件数実績の増加を図り、障害者の状況に応じた総合的な相談支援の推進を行います。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	北九州市障害者地域生活支援センターの運営						施策番号			
							-2-(2)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	2,845 千円	担当局	保健福祉局		
		96,124 千円	116,120 千円		課長	0 人	職員	0.2 人	担当課	障害福祉課
							係長	0.1 人	課長名	坂元
							(備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています			

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 障害者相談支援事業を実施する「北九州市障害者地域生活支援センター」(ウェルとばたに設置)の運営を公益社団法人北九州市障害者相談支援事業協会に委託して、障害者及びその家族など障害者等からの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のための必要な援助を行うことにより、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになります。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	---	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
(最終目標と目標年度)	障害者等の状況に応じた総合的な相談・支援の推進		障害者等に対する迅速かつ適切な相談対応		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	障害者のさまざまな課題に、迅速かつ適切に対応できるよう相談業務のレベルアップと体制の強化を図ります。				
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	下記の活動指標のとおりです。	活動実績	
-------------	----------------	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
(最終目標と目標年度)	障害者地域生活支援センターの設置数		維持	1 箇所	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにするため、障害者地域生活支援センターが各区役所窓口との連携を強化し、身体・知的・精神の各障害に対応した適切な相談体制を整備する必要があります。	1 箇所			
(最終目標と目標年度)	障害者地域生活支援センターの相談件数		増加	15,294 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 広報活動の促進や、各種研修会を開催することで障害者地域生活支援センターの知名度を上げることができ、相談件数は前年度より大きく増加しました。これにより多くの障害者及び家族等の悩みなどに対応することができたと推測されますので、成果の状況は順調と判断しました。 本事業は、障害者が日常生活を安心して送り、地域で暮らしていくために必要不可欠の事業です。しかし、相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 業務の簡素化、効率化を図るため、専門家のいる障害者相談支援事業協会に委託し、迅速な問題解決を図っています。 これにより、職員の異動に左右されず長期的な相談人材の育成が可能になります。また、相談員等21人による体制で約96,000千円の事業費となっており、直営に比べて人件費や事務費の削減が図られていると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 障害者地域生活支援センターの相談件数は大幅に増加しており、多くの障害のある人や家族等の悩みなどに対応していると考えます。また、平成24年度から始まった障害者支援計画に基づき、障害者地域生活支援センターの機能を強化し、10月に基幹相談支援センターとして再整備しました。このセンターは、「よるず相談窓口」必要に応じた訪問相談、「各地区の担当員によるパーソナルサポート」を特徴としており、区役所や各種専門相談機関と緊密に連携することにより、相談窓口機能の充実を目指します。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	相談員のレベルアップを図り、専門相談機関や地域団体などとの連携をより一層深めることにより、相談対応能力を高めるとともに、家庭訪問をより積極的にを行うよう努めます。	障害者等に対する迅速かつ適切な相談対応に加え、積極的な訪問による丁寧な相談対応を実施します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	重度障害者医療費支給制度						施策番号
							-2-(2)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 3,819,948 千円	平成24年度当初予算額 3,875,661 千円	人件費 の目安	金額 15,275 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局 保健福祉局
					課長 0.1 人	職員 1.4 人	担当課 障害福祉課
					係長 0.4 人		課長名 早崎

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	重度障害者の健康の保持及び福祉の増進を図るため、保険診療による医療費の自己負担額を助成します。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	---------------------	---	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	充実した福祉サービスの提供	障害のある人が、住みなれた地域で安心して暮らしていくため、保健・医療・福祉サービスの適切な提供を行います。 (最終目標と目標年度)		障害者のニーズにあわせたサービス提供の実現	
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	現行制度を継続して実施します。	活動実績	活動実績は下記のとおりです。
-------------	-----------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	重度障害者医療の受給者数	重度障害者医療の受給者数が増えることにより、経済面における悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、指標として設定しました。	23,054 人	23,152 人	23,191 人 100.2 %
				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」 「効率性」 の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 受給者数はほぼ目標通りであり、健康の不安や悩みを感じる人の割合の減少につながったと考えられるため、施策に対する効果は高いと考えます。よって、成果の状況は順調と判断しました。 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 保険診療による自己負担額を助成するものであるため、代替手段によるコスト削減または市以外の団体による関与は考えられません。
------------------	--	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	受給者数は目標通りであり、重度障害者医療費を助成することで、充実した福祉サービスの提供につながったと考えます。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	現行制度を継続して実施し、事業費についても、現状通りとします。	医療費の自己負担額を助成することにより、引き続き、充実した保健・医療福祉サービスを提供します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	ホームヘルプサービス事業							施策番号			
								-2-(2)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	2,107 千円	(備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています	担当局	保健福祉局		
		1,278,613 千円	1,347,604 千円		課長	0 人		職員	0.2 人	担当課	障害福祉課
					係長	0 人				課長名	山田

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	障害者自立支援法第5条に基づき、障害者(児)に必要な介護や支援を行います。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---------------------	---------------------------------------	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	生涯を通じた支援体制の構築	障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。 (最終目標と目標年度)		障害者のニーズにあわせたサービス提供の実現	
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	障害者自立支援法に基づく「障害福祉サービス」の一つで、ホームヘルパーの派遣を希望する在宅の障害者(児)に対し、支給時間数(利用できる時間数)を決定し、これに基づき、障害者(児)は事業者から身体介護や家事援助等のサービス提供を受けます。そのサービスに要した費用を市が負担します。法定給付のため、法制度の仕組み等により給付等業務を行います。	活動実績	全体的に利用者数、利用者時間も増加しており、平成23年10月から新しく同行援護が始まったことでさらに増加している。
-------------	--	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	訪問系サービスの月利用時間数	訪問系サービス(居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護)の月延利用時間数の実績です。障害者自立支援法に基づき策定した「北九州市障害福祉計画」における本事業(サービス提供)の見込み量を目標値としています。居宅介護事業等は、障害者が地域等で安定的な生活を営むために必要なサービスであることから、利用状況を把握していくことが重要と考えています。	30,185 時間	50,116 時間	35,337 時間 70.5 %
				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	障害者(児)への必要なサービス提供は概ね順調に提供されているため、成果状況は順調と判断しました。今後もサービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等に努めるとともに、利用者への適切なサービス利用の決定を行っていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への適切なサービス利用決定(支給決定)の実施が求められます。 ・サービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等が必要です。 	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・法定給付のため、法制度の仕組み等により給付(支給決定)等業務を行います。 ・法令等に基づくサービス提供事業者への指導、助言等を行います。 ・本市の障害福祉計画(法定)に基づき事業費を拡充します。 	障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	生活介護事業						施策番号				
							-2-(2)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	211 千円	(備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています	担当局	保健福祉局		
		4,251,024 千円	5,813,616 千円		課長	0 人		職員	0 人	担当課	障害福祉課
					係長	0 人				課長名	山田

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者自立支援法第5条に基づき、障害者に必要な介護や支援等を行います。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	--------------------	-------------------------------------	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	生涯を通じた支援体制の構築	障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。 (最終目標と目標年度)		障害者のニーズにあわせたサービス提供の実現	
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	障害者自立支援法に基づく「障害福祉サービス」の一つで、生活介護事業のサービスの利用を希望する障害者に対し、サービスの利用を決定し、これに基づき、利用者は生活介護事業所から創作的活動の機会、機能訓練、入浴・給食・送迎等のサービスの提供やその他日常生活上必要な援助等を受けます。そのサービスに要した費用を市が負担します。法定給付のため、法制度の仕組み等により給付等業務を行います。また、障害のある人へ、生活介護事業所の新設等に係る情報提供にも努めます。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	生活介護事業の利用者数	通所系サービス(比較的障害の重い方が対象)の利用人数(件数)の実績です。障害者自立支援法に基づき策定した「北九州市障害福祉計画」における本事業(サービス提供)の見込み量を目標値としています。生活介護事業は、障害者が地域等で安定的な生活を営むために必要なサービスであることから、利用状況を把握していくことが重要と考えています。	1,441 人	1,890 人	2,234 人 118.2 %
				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「北九州市障害福祉計画」で本事業(サービス提供)の見込み量を定めています。この見込み量を上回る利用者数となっており、成果の状況は大変順調と判断しました。今後も、障害者が必要なサービスを受けることができるよう、適切なサービス利用の決定を行っていきます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への適切なサービス利用決定(支給決定)の実施が求められます。 ・サービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等が必要です。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	<ul style="list-style-type: none"> ・法定給付のため、法制度の仕組み等により給付(支給決定)等業務を行います。 ・法令等に基づくサービス提供事業者への指導、助言等を行います。 ・本市の障害福祉計画(法定)に基づき事業費を拡充します。 	障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	障害福祉サービス事業(施設型)						施策番号				
							-2-(2)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	1,896 千円	(備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています	担当局	保健福祉局		
		7,952,049 千円	11,090,101 千円		課長	0 人		職員	0.2 人	担当課	障害福祉課
					係長	0 人				課長名	山田

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 障害者自立支援法第5条に基づき、障害者(児)に必要な介護や支援等を行います。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	生涯を通じた支援体制の構築	障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。 (最終目標と目標年度)		障害者のニーズにあわせたサービス提供の実現	
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	障害者自立支援法に基づく「障害福祉サービス」のうち、就労継続支援事業や入所支援等のサービスの利用を希望する障害者(児)に対し、サービスの利用を決定し、これに基づき、利用者は就労継続支援事業所等から生産活動の機会、機能訓練、入浴・給食・送迎等のサービスの提供やその他日常生活に必要な援助等を受けます。そのサービスに要した費用を市が負担します。法定給付のため、法制度の仕組み等により給付等業務を行います。また、障害のある人へ、障害福祉サービス事業等に係る情報提供にも努めます。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	障害福祉サービス事業の利用者数	通所系サービス(就労系事業等)及び入所施設等の利用人数(件数)の実績です。障害者自立支援法に基づき策定した「北九州市障害福祉計画」における本事業(サービス提供)の見込み量を目標値としています。障害福祉サービス事業は、障害者が地域等で安定的な生活を営むために必要なサービスであることから、利用状況を把握していくことが重要と考えています。	3,784 人	5,854	5,636 人 96.3 %
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 「北九州市障害福祉計画」で本事業(サービス提供)の見込み量を定めています。この見込みのとおりとはなりませんでしたが、利用者数は増えてきており、成果状況は順調と判断しました。今後も、障害者が必要なサービスを受けることができるよう、適切なサービス利用の決定を行っていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで、 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 ・利用者への適切なサービス利用決定(支給決定)の実施が求められます。 ・サービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等が必要です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容) ・法定給付のため、法制度の仕組み等により給付(支給決定)等業務を行います。 ・法令等に基づくサービス提供事業者への指導、助言等を行います。 ・本市の障害福祉計画(法定)に基づき事業費を拡充します。	障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	日常生活上必要な訓練や知識習得等を支援する事業							施策番号			
								-2-(2)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	483 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局	保健福祉局		
		2,240 千円	2,191 千円		課長	0 人		職員	0 人	担当課	障害福祉課
					係長	0 人				課長名	早崎

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者のニーズにあった、各種講座や教室等を開催することにより、生活スキル等の向上を図り、もって社会参加の促進を進めます。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 <small>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】	
	障害のある人の地域における自立と社会参加の促進		障害のある人の地域における自立と社会参加の促進		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	多様なニーズへの対応に配慮しながら、障害のある方の地域における自立と社会参加を進めます。 (最終目標と目標年度)					順調
	(最終目標と目標年度)					
(最終目標と目標年度)						

活動計画	障害のある人の地域における自立と社会参加を推進するため、多様なニーズへの対応に配慮しながら、発声やオストメイトなどの訓練講座、及び自立生活に役立つ教室などを、障害者福祉会館の指定管理業務の一環として、あるいは障害者団体への委託事業として実施します。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。			
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	講座・教室の回数及び参加者数		増加	2,680 名	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発声やオストメイトなどの訓練講座や自立生活に役立つ教室等を実施し、障害のある方の地域における自立と社会参加を促進します。	2,750 名				順調
	(最終目標と目標年度)					
(最終目標と目標年度)						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 前年度と概ね同様の実績を上げており、多様なニーズに沿った講座・教室を運営することができ、参加者の生活スキルの向上等に有効であったと考えています。成果の状況は順調と判断しました。	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 訓練や教室の運営は、事業者だけでなくボランティアの協力を受けながら、経済的かつ効率的な運営に努めています。
------------------	---	---	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題			
	昨年同様、順調に講座、教室等を実施しています。今後は、事業の効率を高めるため、よりの確なニーズの把握に努める必要があります。			
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	現状事業費規模を維持し、より当事者のニーズに合った内容の講座を開催していきます。	障害のある方の地域における自立と社会参加の促進を目指します。		

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	障害福祉サービス等利用者負担軽減(国軽減分)						施策番号				
							-2-(2)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	211 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		1,391,312 千円	0 千円		課長	0 人		職員	0 人	担当課	障害福祉課
					係長	0 人				課長名	山田

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者自立支援法第29条等に基づき、障害福祉サービス利用者及び児童福祉法の障害児施設利用者の負担上限額を引き下げ等により、利用者の負担軽減を図ります。			成果実績	下記の成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【成果の状況】		
	障害福祉サービス利用者の負担軽減		障害福祉サービス等を安心して利用できるよう、利用者の負担能力に応じた負担の仕組みの実現			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	障害者の生活を支援するため、障害福祉サービス等の利用者の負担軽減を図ります。 (最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調		

活動計画	平成21年9月、連立政権合意において障害者自立支援法は廃止し、利用者の応能負担を基本とする総合的な制度をつくることとされ、新たな制度ができるまでの措置として、平成22年4月から市町村民税非課税世帯の障害者等につき、障害福祉サービス等の利用者負担が無料化されました。今後も法制度に基づき、継続的に負担軽減策を実施していきます。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】		
	利用者負担の軽減額			1,391,312 千円		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	平成22年4月より、市町村民税非課税世帯の利用者負担額が無料化されました。今後も継続して負担軽減を図ります。	1,311,233 千円	利用者の負担を軽減する。		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	国の施策により、平成22年4月から市町村民税非課税世帯の利用者負担額が無料化されており、平成23年度についても継続して利用者負担の軽減が図られましたので、成果の状況は順調と判断しました。障害者自立支援法の改正(平成24年4月施行)により、利用者負担額については応能負担(定率負担)から応能負担に改められるため、利用者負担の軽減措置は23年度末で終了となります。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	国の施策として行うものであり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入		
見直し状況等	課題 国の施策により、平成22年4月から市町村民税非課税世帯の利用者負担額が無料化されており、平成23年度についても継続して利用者負担の軽減が図られましたので、成果の状況は順調と判断しました。障害者自立支援法の改正(平成24年4月施行)により、利用者負担額については応能負担(定率負担)から応能負担に改められるため、利用者負担の軽減措置は23年度末で終了となりました。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	本事業は、平成23年度末で制度が終了しました。	-

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	地域生活支援事業利用者負担軽減							施策番号	
								-2-(2)-	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,480 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
		6,336 千円	0 千円		課長	0 人 職員 0.1 人		担当課	障害福祉課
					係長	0.1 人		課長名	早崎

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域生活支援事業(市独自で事業展開する移動支援事業等)について、その利用者負担と国の法定給付である障害福祉サービスに係る利用者負担とを合算し、国基準の月額負担上限額を適用するなどにより、利用者の負担を軽減し、地域生活支援事業を誰もが安心して利用できる環境の構築を図ります。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	---------------------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	(最終目標と目標年度)	地域生活支援事業を誰もが安心して利用できる環境の構築 地域生活支援事業の負担を軽減することにより、誰もが安心して制度を利用できる環境づくりを進めます。		地域生活支援事業を誰もが安心して利用できる環境の構築	
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	地域生活支援事業(市独自で事業展開する移動支援事業等)について、その利用者負担と国の法定給付である障害福祉サービスに係る利用者負担とを合算し、国基準の月額負担上限額を適用することにより、利用者負担の軽減を実施します。 なお、22年度までは、上記軽減額に加え、市民税非課税世帯に対する障害福祉サービスに準じた利用者負担軽減額も加算していたが、地域生活支援事業も平成22年4月から市民税非課税世帯の利用者負担を無料としたため、考え方を整理し、23年度からは上記軽減額のみを計上する。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	(最終目標と目標年度)	地域生活支援事業利用者負担軽減額 障害福祉施策の推進を図るためには、地域生活支援事業(移動支援事業等)を誰もが安心して利用できる環境を構築する必要があります。そのため、この指標を設定し、地域生活支援事業の利用促進に努めます。	59,015 千円	利用者の負担を軽減する。	6,336 千円
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>「経済性」 「効率性」 の分析</p>	<p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p> <p>地域生活支援事業利用者負担軽減については円滑な実施が行われているので、成果の状況は順調と判断しました。</p> <p>地域生活支援事業を誰もが安心して利用できるためには、障害福祉サービス利用者負担額と地域生活支援事業利用者負担額を合算して、国基準の月額負担上限額を適用することで「応能負担」が実現できるものであり、経済性・効率性は高いと判断している。</p>
------------------	---	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	<p>課題</p> <p>今後とも「応能負担」を実現し、地域生活支援事業を利用しやすいものとする必要があります。</p> <p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>地域生活支援事業利用者負担額と障害福祉サービス利用者負担額を合算して、国基準の月額負担上限額を適用することにより、継続して地域生活支援事業利用者負担軽減を実施します。</p>	<p>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p> <p>現在の利用者負担軽減を継続実施し、地域生活支援事業を誰もが安心して利用できる環境を構築します。</p>
---------------	--	---

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	障害児施設利用負担軽減						施策番号
							-2-(2)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 3,310 千円	平成24年度当初予算額 4,023 千円	人件費 の目安	金額 362 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
					課長 0 人 職員 0 人	担当課	障害福祉課
					係長 0 人	課長名	山田

【Plan】計画

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 本市独自の利用者負担の軽減(食費の負担軽減、利用料の負担軽減)を行い、サービスを利用しやすい環境をつくることにより、障害がある子どもに対する療育の促進と子育て環境の向上を図ります。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	障害がある子どものサービスの利用しやすいの向上		障害のある子どもを養育する保護者のニーズにあわせたサービス提供の実現		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	障害がある子どもを養育する保護者がサービスを利用しやすいと感じることを目指します。 (最終目標と目標年度)				
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	利用者負担に対する国の施策の動向を注視しながら、障害がある子どもを養育する保護者の負担を軽減するために、本事業は現状のまま進めることが適当と考えます。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。		
-------------	---	-------------	----------------	--	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	食費の負担軽減者数(実人数)	338 人	利用者の負担を軽減する。	275 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	経済的な利用者の負担を軽くし、サービスを利用しやすい環境をつくり、障害児に対する療育の促進と子育て支援を図ります。				
利用料定率負担の軽減者数(実人数)	11 人	利用者の負担を軽減する。	10 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 国の施策として、負担軽減が図られてきましたが、通園施設を利用する市町村民税所得割28万円以上の世帯に対する利用者負担は据え置かれたため、本市独自の負担軽減は現状のまま必要と考えます。
------------------	---	--

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成24年度も300人を越える利用者に対して負担軽減を行っており、順調に事業が行われています。引き続き、利用者に対して負担軽減を行うことで、障害のある子どもの療育促進と子育て環境の向上を図ります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	利用者負担に対する国の施策の動向を注視しながら、障害がある子どもを養育する保護者の負担を軽減するために、本事業は現状のまま進めることが適当と考えます。	障害のある子どもを養育する保護者の負担を軽減し、サービスを利用しやすい環境をつくります。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	小池学園成人部改築移転工事							施策番号			
								-2-(2)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	633 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局	保健福祉局		
		0 千円	0 千円		課長	0 人		職員	0.1 人	担当課	障害福祉課
					係長	0 人				課長名	柴田

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	老朽化した知的障害者入所更生施設小池学園成人部を改築移転し利用者の居住環境の改善と利便性を向上させます。同時に障害者自立支援法の理念である「日中活動の場」と「居住の場」を分離し「入所支援と生活介護」に移行します。また、利用者の地域移行を進めるため、施設入所支援の定員を105人から50人に減少させ、ケアホームを4ユニット(定員40人)創設します。建設・運営については、民間社会福祉法人が担い、市は法人に対して補助を行います。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
		小池学園成人部改築移転工事			100 %
	改築移転工事進捗率 (最終目標と目標年度)	35 %	100 %	100.0 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調

活動計画	今後も、社会福祉法人と協力しながら、事業を進めていきます。	活動実績	改築移転工事完了
-------------	-------------------------------	-------------	----------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
		小池学園成人部改築移転工事			100 %
	改築移転工事進捗率	35 %	100 %	100.0 %	
					大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年10月に完成しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで、 「同じコストでより高い成果を、得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	社会福祉法人が施設整備を行うことで、国や県の補助金を活用することができたため、市の負担を軽減しました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	本事業は、社会福祉法人が施設整備を行うことで、国や県の補助金を活用し、本市の負担を軽減した上で、平成23年10月に完成しました。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	本事業は、平成23年10月に完成したので、目標達成として事業を終了します。	-

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	精神障害者地域移行支援事業					施策番号				
						-2-(2)-				
コスト	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,008 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局	保健福祉局		
	9,950 千円	9,950 千円		課長	0.005 人		職員	0.1 人	担当課	障害福祉課
					係長		0.02 人			課長名

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 精神障害者が住み慣れた地域を拠点とし、本人の意向に即して、本人が充実した生活を送ることができるよう、関係機関の連携の下で、医療、福祉等の支援を行うという観点から、社会的入院患者の減少及び地域生活への移行に向けた支援を推進する。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	退院可能な精神障害者数の減少値	135 人	地域移行を目指す精神障害者の支援	162 人	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	前北九州市障害者支援計画では、精神障害の入院患者がどれだけ地域生活へ移行できているかを計る指標として、入院患者のうち退院可能な精神障害者数の減少を指標に選定しました。(平成23年度までに300人) (最終目標と目標年度)				
	(最終目標と目標年度)			大変順調 順調 やや遅れ	順調

活動計画	前北九州市障害者支援計画では、精神科病院に入院している精神障害者のうち、症状が安定しており、受入条件が整えば退院可能である方に対し、円滑な地域移行を図るため、精神科病院との関係作りや対象者の調査及び退院へ向けた支援と退院後の支援体制の調整を社会福祉法人に委託して実施することとしています。	活動実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	地域移行支援のための病院訪問	61 回	増加	112 回	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	精神科病院に入院している、退院可能な精神障害者の地域移行を目指し、病院訪問を行ないます。				
	(最終目標と目標年度)			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 国の補助要件を満たすように、国との調整を行うとともに、地域体制整備コーディネーターを配置しています。今後は、地域体制整備コーディネーターの配置による効果が予定通りに表れるよう、事業内容の変更も含めて考えていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 精神障害者への支援を主体とする社会福祉法人へ事業委託しているため、法人がこれまで築いてきた精神障害者への支援ネットワークを活用することができる上、平成22年度から国の補助を活用したため、経済性・効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成23年度は、より積極的に活動した結果、病院訪問件数は大幅に増加しました。一方、平成24年度の法改正により、精神障害のある人の退院相談、居住先探し・調整など、個人に対する地域移行支援が自立支援法に基づく個別給付になり、当該委託事業から除外されることになったため、事業内容を見直す必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成24年度から個人に対する地域移行支援が個別給付になり、25年度からは地域体制整備コーディネーターの配置が国の補助対象外となるため、事業内容や推進体制を見直し、委託料を一部削減しますが、地域移行支援サービスと連携しながら事業を進めていきます。	退院可能な精神障害者数の減少値:平成25年度 210人

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	地域生活移行促進事業							施策番号			
								-2-(2)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	1,054 千円	(備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています	担当局	保健福祉局		
		10,342 千円	13,928 千円		課長	0.009 人		職員	0.1 人	担当課	障害福祉課
					係長	0.02 人				課長名	山田

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者自立支援法の趣旨である「障害の有無にかかわらず安心して暮らすことのできる地域社会の実現」を目指して、施設入所者等のうち地域生活への移行を希望される方の移行を促進します。				成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】		
	生涯を通じた支援体制の構築			地域での生活を望む障害者に対して、希望どおり必要なサービス提供の実現				
	障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。 (最終目標と目標年度)					代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	入所施設からの地域生活への移行者数							
平成17年10月1日時点で障害者施設に入所していた人のうち、単身生活やグループホーム・ケアホーム等地域での生活に移行した人の数を増やすことで、地域移行を進めます。 (最終目標と目標年度) 平成26年度 330人		187 人	増加	234 人	大変順調 順調 やや遅れ			

活動計画	施設入所者等が地域生活へ移行するための基盤となる、障害福祉サービス(ケアホーム・グループホーム)の充実を図るため、グループホーム等助成事業を実施します。また、長期間施設で生活する障害者等に地域での生活を体験する機会を提供するため、地域生活移行体験事業(補助金)を実施します。本予算事業の他にも、関連事業としてケアホーム・グループホームの体験利用(法定給付)や、ケアホーム・グループホーム利用者(障害者)に対する家賃補助(法定給付、H23.10より)を実施するとともに、相談支援事業により、障害者の円滑な地域移行へのサポートや地域生活への定着を図ります。				活動実績	地域生活体験事業を実施する事業者に対する補助金の交付を行い、長期間施設で生活する障害者に地域での生活を体験する機会を作りました。また、グループホーム・ケアホームを新設する場合に施設設備に対して補助を行いました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	グループホーム等助成事業件数			地域生活基盤充実のための支援	14 件			
	グループホーム等助成事業の実績です。民間事業者(法人)による、ケアホーム・グループホームの整備(居住の場が増加)により、障害者の地域生活への移行の可能性が高まることとなりますので、事業者への支援が必要と考えます。		5 件			活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	本予算事業の実績としては、施設入所者等が地域生活へ移行するための基盤となる、ケアホームやグループホームを充実させるため、14箇所に対しグループホーム等助成事業を実施しました。また、長期間施設で生活する障害者に地域での生活を体験する機会を提供し、地域生活への移行の判断等に資するため、地域生活体験事業を実施しました。これらの取り組み等により、入所施設等からグループホームへの移行は進んでおり、一定の成果が出ていると判断します。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	グループホームの整備について、「グループホーム等助成事業」は、市の補助額上限は50万円であり、定員規模等により差異はありますが、民間事業者は建設(新設又は改築)にかなりの金額を負担しています。市ではなく民間により整備されていることを考えれば経済性等は非常に高いと考えています。また、「地域生活体験事業」について、障害者が地域移行を希望すれば、その実現に行政は努めるべきであり、今後も継続すべきと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題 ・長年入所施設で生活を送られている障害のある方の地域社会への移行は、環境変化に伴うパニックの発生や夜間介助等体制への不安(定員の関係上相対的に職員の多い入所施設とグループホーム等との対応能力の差)などが想定されます。 ・地域移行を促進するには、障害のある方の生活の基盤となるグループホームやケアホームの充実が必要と考えます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	障害のある方の地域移行に向けた環境変化へのスムーズな適応(パニック軽減)や不安の解消等を図るため、地域生活体験事業の継続実施、事業費の維持が必要です。 ・また、地域生活での受け皿となるグループホームやケアホームの充実も必要ですの で、適切な事業者の指定等にも努めます。
	障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	地域活動支援センター(型)の助成強化							施策番号	
								-2-(2)-	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,054 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
		31,125 千円	81,460 千円		課長	0.009 人 職員 0.1 人		担当課	障害福祉課
					係長	0.02 人		課長名	山田

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
----------	------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 障害者自立支援法第5条及び第7条に基づき、障害者に創作的活動などの機会の提供、社会との交流の促進を実施する地域活動支援センターに助成を行います。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです
-----------	--	-------------	-------------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	地域で自立して生活できる社会基盤の整備	障害のある人が地域社会で自立した生活ができるよう、個々の障害に配慮した社会参加の機会等の確保や、地域での生活を支える仕組みづくりを推進します。 (最終目標と目標年度)		障害のある人が、生きがいややりがいを感じて日々の活動等に取り組める環境の実現	
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	地域活動支援センターを運営する事業者に対して助成を行うことにより、障害のある人への創作的活動又は生産活動の機会の提供、及び社会との交流の促進などを図ります。法定事業(市町村必須事業)であり、今後も事業継続が必要です。	活動実績	下記の活動実績のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	補助金の交付を行った施設数	地域活動支援センターは、障害者が社会との交流を確保するために必要なサービスであることから、施設数を把握していくことが重要と考えています。	7 施設	日中活動や社会交流の場確保のための支援	4 施設
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	地域活動支援センターは、障害のある人の状況(薬物依存や引きこもりの方などの社会との交流の場等)に応じて必要な施設であり、障害福祉サービス事業所(法定給付)を補完するものと考えています。施設利用者(障害者)は、施設に通うことだけで精一杯の方もおり、そうした方々に施設に通うための気持ちをいかに高めさせるか等に取り組んでいる現状もあります。各センターでは、障害のある方の特性や状況に応じた支援や個々ができる活動の提供等を行っており、一定の成果を出していると判断します。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	補助金は交付要綱により算定され、適切に交付されています。事業者へはヒアリングを行い、利用者の参加意欲が高まるような活動が行われるよう、アドバイス等を行っています。補助金額については、人員配置基準2名以上としており、さらにその他経費等もあることから妥当と考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 ・地域活動支援センターは、障害のある人の状況(薬物依存や引きこもりの方などの社会との交流の場等)に応じた支援等が求められるため、施設に通うための気持ちをいかに高めさせるか等の取り組みが必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	・本市の補助金交付要綱に基づき適切に補助金交付を行います。また、事業者へのヒアリング等を通して、利用者の参加意欲が高まるような活動が行われるよう、助言等に努めます。 ・本市の障害福祉計画(法定)に基づき事業費を拡充します。	障害のある人が地域社会で自立した生活ができるよう、個々の障害に配慮した社会参加の機会等の確保や、地域での生活を支える仕組みづくりを推進します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	障害者に対する就業支援事業							施策番号			
								-2-(2)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	2,845 千円	(備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています	担当局	保健福祉局		
		23,030 千円	31,032 千円		課長	0.03 人		職員	0.2 人	担当課	障害福祉課
					係長	0.1 人				課長名	早崎

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者しごとサポートセンターを拠点に、障害者本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓や企業の意識啓発および就労移行支援事業所等が実施する就労支援に対する効果的な支援への取組みを通じて、障害者の雇用促進を目指します。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	障害者しごとサポートセンター利用者の就職件数				79 件
支援対象障害者が、職業準備訓練や職場実習あっせん、職場定着支援などの障害者しごとサポートセンター提供のサービス利用を通じて、実際に企業に就職した件数。 (最終目標と目標年度)平成29年度 90人	81 件	増加			
福祉施設から一般就労への移行件数				34 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
障害者の就労を目指す就労移行支援事業所等の利用者が、実際に企業へ就職した件数。 (最終目標と目標年度)平成26年度 48人	33 件	増加			

活動計画	障害者が地域でいきいきと自立した生活を送れるよう、「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に運営委託している障害者しごとサポートセンターを拠点として、就職を希望する障害者に対し、指導や助言、職業訓練や職場実習の調整・あっせん、能力や適性に応じた職業紹介の調整などの支援を行うとともに、就職後の職場定着支援や新たな職場の開拓を行うほか、企業の障害者雇用に対する理解の進展を図ります。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	新規登録者数				89 人
「企業で就職したい」「働いているが悩みがある」などの障害者(障害者手帳を持っていない方も含む)でしごとサポートセンターのサービス利用を希望し、その年度、新たに利用登録する方的人数。	108 人	増加			
職業準備訓練および職場実習のあっせん件数				42 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
継続および新規でしごとサポートセンターに登録している障害者に、職業準備訓練や職場実習をあっせんした件数。	45 件	増加			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	相談件数のうち、特に発達障害者の総相談件数は562件と、昨年度の171件を大きく上回り、特性に応じたきめ細やかな対応ができました。また、平成23年3月11日の東日本大震災以降、求人関係の動きが鈍い時期があったが、職場開拓・職場定着に重点を置いた結果、昨年度とほぼ同じ79件の就労を実現しました。成果の状況は順調と考えています。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	センターの運営は、同様の機関である「北九州障害者就業・生活支援センター」を国・県から受託している「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に委託しており、2つのセンターが合同で活動することで高い効率性を得ています。また、関係機関(労働局・ハローワーク)と密に連携を図り、効果的・経済的な取組みに努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	今年度も順調に成果をあげています。今後もより多くの障害者が自らの能力を活かし、社会の一員として活躍できるよう、障害者しごとサポートセンターを拠点とした、就業支援事業を継続していきます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	現状規模の事業費の中で、これまでの取り組みをさらに発展させるため、事業所の新規訪問、定着支援や、関係機関との連携を強化していきます。	関係機関との連携によって、より効果的な就労支援を図り、さらなる障害者雇用の促進を目指します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	グループホーム・ケアホーム							施策番号			
								-2-(2)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	1,054 千円	(備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています	担当局	保健福祉局		
		849,197 千円	1,062,967 千円		課長	0.009 人		職員	0.1 人	担当課	障害福祉課
					係長	0.02 人				課長名	山田

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	障害者自立支援法第5条に基づき、共同生活を行う住居において障害者に必要な介護や支援等を行います。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】	
	生涯を通じた支援体制の構築		地域での生活を望む障害者に対して、希望どおり必要な障害福祉サービスの提供の実現		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。 (最終目標と目標年度)					順調
(最終目標と目標年度)						

活動計画	障害者自立支援法に基づく「障害福祉サービス」の一つで、共同生活を営む住居において、主に夜間や休日等に世話人や生活支援員が、障害者に対し必要な介護(援助)や相談支援その他日常生活上必要な支援(サービス)などを行います。そのサービスに要した費用を市が負担します。法定給付のため、法制度の仕組み等により給付等業務を行います。法定給付であるため、引き続き事業を実施します。なお、障害者の地域生活移行を促進にも有効性がある事業です。	活動実績	当事業は障害者の地域生活移行を進めることに対し有効性は高く、昨年度比でも7%超、利用者が増えています。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	グループホーム・ケアホームの利用者数			602 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	グループホーム・ケアホームの利用人数(件数)の実績です。障害者自立支援法に基づき策定した「北九州市障害福祉計画」における本事業(サービス提供)の見込み量を目標値としています。障害者が地域で安定的な生活を営むために必要なサービスであることから、利用状況を把握していくことが重要と考えています。	561 人	600 人	100.3 %		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「北九州市障害福祉計画」で本事業(サービス提供)の見込み量を定めています。この見込み量を上回る利用者数となっており、成果の状況は順調と判断しました。今後も、障害者が必要なサービスを受けることができるよう、適切なサービス利用の決定を行っていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。なお、ケアホーム・グループホームと施設入所について、費用負担(障害福祉サービスの報酬総額)で比較するとグループホーム等に係る負担の方が低いという事実がありますので、地域移行となる場合は、行政負担は結果として減少すると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 ・利用者への適切なサービス利用決定(支給決定)の実施が求められます。 ・サービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等が必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	・法定給付のため、法制度の仕組み等により給付(支給決定)等業務を行います。 ・法令等に基づくサービス提供事業者への指導、助言等を行います。 ・本市の障害福祉計画(法定)に基づき事業費を拡充します。	障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	薬物等依存症回復支援事業						施策番号		
							-2-(2)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	10,525 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
		3,579 千円	1,180 千円		課長	0.1 人 職員 0.85 人		担当課	精神保健福祉センター
					係長	0.3 人		課長名	三井

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にした たいのか	薬物依存になっても、安心して相談でき、回復に向けて支援できる体制づくりを目指します。				成果実績	主な実績は、下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【成果の状況】		
	薬物依存になっても、安心して相談でき、回復に向けて支援できる体制づくりを進めます。 (最終目標と目標年度)		薬物依存になっても、安心して相談でき、回復に向けて支援できる体制づくり			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調		

活動計画	23年度は、国の地域依存症対策推進モデル事業(国庫補助)を活用し、従来薬物問題を巡って構築してきたネットワークを活かし、アルコールやギャンブルなども含めた依存問題全般へのアプローチを想定して課題を抽出し、達成可能な課題解決に向け、多機関協同による地域健康教育の推進を目指し、連携システムの強化を図ります。				活動実績	薬物対策連絡協議会(事業検討委員会)開催 薬物・ギャンブル相談窓口を設置 薬物の問題で悩む家族のための教室を実施 依存症回復プログラムの試験実施 各種啓発資料の作成	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【活動の状況】	
	「薬物の問題で悩む家族のための教室」の参加者数	68 人	60 人	63 人 105.0 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	薬物乱用及び依存の問題を抱える当事者、家族及び支援担当者に対し、今後の対応や方針決定についての助言、知識・情報提供を実施し、薬物依存者への早期対応及び再乱用防止の一助とします。	22 回	24 回	21 回 87.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	薬物依存症に対する社会の理解が進んでいないこともあり、この問題は潜在化しやすい特徴があります。このため、実態の把握が難しく、成果を数値化することは困難です。このため、継続的に家族教室や個別相談を実施していることにより事業が着実に進んでいると判断しました。一定の参加者があったことは、問題の潜在化と深刻化を防止する意義があったと考えます。薬物の検挙者は横ばいであるため、対象者も減っていないと推定されるため、継続的に相談できる場を維持することが重要と考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	相談や家族教室など事業の実施にあたっては、地域の回復支援施設や自助グループの関係者と協働することにより、プログラムの充実や行政職員のノウハウの蓄積を図っています。このことにより、効率的・安定的に事業を実施することが出来ています。今後も回復支援施設や自助グループだけでなく、司法機関や医療機関の取り組みなども参照し、事業の効率性と有効性を高めることを検討します。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	現状では、関係機関との連携のもと、再乱用防止の推進のため、当事者及び家族に対する支援の充実強化を図っていますが、より効果を高め、充実・推進するための方法を検討する必要があると考えます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	前年度に引き続き、相談窓口の設置、家族教室の実施等により、依存症回復への支援を行います。 また、事業費は事務の見直しなどにより前年度より縮小しますが、今後も地域の諸関係機関と連携を強化し、効率的かつ有効的な事業を運営できるよう検討します。
	原則毎月1回相談窓口を開き、家族教室を実施することで、引き続き依存症者の回復支援を行います。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	視聴覚障害者情報提供施設運営事業						施策番号
							-2-(2)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 33,858 千円	平成24年度当初予算額 33,858 千円	人件費 の目安	金額 285 千円 課長 0.003 人 職員 0.02 人 係長 0.01 人	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局 保健福祉局
							担当課 障害福祉課
							課長名 早崎

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	視聴覚障害者の生活文化の向上と社会参加の推進を図ります。			成果実績	下記の成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 <small>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】		
	視聴覚障害者の情報入手環境の向上		視聴覚障害者の情報入手環境の向上		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	視聴覚障害者の情報入手環境の向上に向けた支援を行い視覚障害者の生活文化の向上と社会参加の推進を図ります。 (最終目標と目標年度)						
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	
	(最終目標と目標年度)						

活動計画	視聴覚障害者の情報入手を支援するため、点字刊行物や字幕入りビデオテープ等の製作・貸出を行うとともに、これからの制作に携わるボランティアの育成や活動場所の提供などの支援を行うことにより、施設利用者のニーズに幅広く応えられるように努めます。			活動実績	下記の活動指標のとおりです。		
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	点字図書等貸出数		増加	76,823 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	点字刊行物や録音図書の製作及び貸出において、施設利用者のニーズに幅広く応えられるように努めます。	58,607 件					
	字幕入りビデオ等貸出数		増加	469 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	
字幕入りビデオテープ・手話入りビデオテープ、DVDの製作及び貸出において、施設利用者のニーズに幅広く応えられるように努めます。	574 件						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」 「効率性」 の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか」。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	活動状況は概ね予定通りであったため、成果状況は順調と判断しました。 常勤の職員だけで、通常業務とデジタル化事業やその他の事業(利用者の相談や講座の運営など)を実施するのは不可能であり、ボランティアの協力を受けながら、経済的かつ効率的な運営(指定管理)に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
見直し状況等	課題				
	点字図書等の貸出数は順調に推移しています。今後は、できるだけ利用者のニーズに合った図書等を製作するよう努めます。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>利用者のニーズは多様化しており、できるだけ要望に応えるために、現状規模を維持します。</td> <td>視聴覚障害者の情報入手環境の向上に向けた支援を行うことで、視覚障害者の生活文化の向上と社会参加の推進を図ります。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	利用者のニーズは多様化しており、できるだけ要望に応えるために、現状規模を維持します。	視聴覚障害者の情報入手環境の向上に向けた支援を行うことで、視覚障害者の生活文化の向上と社会参加の推進を図ります。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
利用者のニーズは多様化しており、できるだけ要望に応えるために、現状規模を維持します。	視聴覚障害者の情報入手環境の向上に向けた支援を行うことで、視覚障害者の生活文化の向上と社会参加の推進を図ります。				

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	障害者のコミュニケーションを確保・支援する事業						施策番号
							-2-(2)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 9,800 千円	平成24年度当初予算額 10,666 千円	人件費の目安	金額 1,063 千円 課長 0.012 人 職員 0.07 人 係長 0.04 人	(備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています	担当局 保健福祉局
							担当課 障害福祉課
							課長名 早崎

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	聴覚障害者の円滑なコミュニケーションの確保を行います。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【成果の状況】
	聴覚障害者の円滑なコミュニケーションの確保・社会参加促進		聴覚障害者の円滑なコミュニケーション確保と社会参加の促進			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	聴覚障害者の円滑なコミュニケーションを確保することにより、聴覚障害者の社会参加の促進を図ります。 (最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	聴覚障害者の円滑なコミュニケーションを確保するため、障害者福祉会館の指定管理業務の一環として、及び聴覚障害者団体への委託事業として、手話通訳や要約筆記者の派遣、並びに手話通訳者(奉仕員)や要約筆記奉仕員養成講座の開催を行うことにより、聴覚障害者の社会参加の促進を図ります。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	手話通訳者、手話奉仕員、要約筆記奉仕員養成講座修了者数		増加	301 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	講座受講者を増やすため、会場の選定や開始時間などを考慮します。	173 人			
手話通訳者・要約筆記奉仕員派遣件数				3,959 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
聴覚障害者のニーズに対し、安定的に派遣が行えるよう、今後も人材育成の推進等に取り組みます。	3,753 件	増加			大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	例:活動状況は、特に手話通訳者、手話奉仕員、要約筆記奉仕員養成講座修了者数は大幅に実績を伸ばしており、それに伴って各派遣件数も伸びています。従って、成果の状況は大変順調と判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	講座の運営は、事業者が委託事業や指定管理業務を行っていますが、事業者だけではなくボランティアの協力を受けながら、経済的かつ効率的な運営(指定管理・委託)に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 今年度も講座、派遣は順調に推移しています。今後は利用者の裾野を広げることも必要であると考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	現状の事業費規模を維持し、より多くの方が参加しやすいよう開催方法や広報を行います。	聴覚障害者の円滑なコミュニケーションを確保することにより、聴覚障害者の社会参加の促進を図ります。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	障害者の移動手段確保を支援する事業						施策番号				
							-2-(2)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額 17,781 千円	平成24年度当初予算額 18,171 千円	人件費 の目安	金額	1,480 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局	保健福祉局		
					課長	0.02 人		職員	0.1 人	担当課	障害福祉課
					係長	0.05 人				課長名	早崎

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 障害者の移動手段を確保することで、障害者の自立や社会参加の促進を図ります。			成果実績	下記の成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】	
	障害者の移動手段の確保			障害者の移動手段の確保 (目標自体が数値化できない)		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	障害者の移動手段を確保することで、障害者の自立や社会参加の促進を図ります。 (最終目標と目標年度)						順調

活動計画	障害者の自立や社会参加の促進を図るため、身体障害者が通勤のため自ら運転する自動車改造すること、及び障害者が通勤のため自動車運転免許を取得することを支援します。また、主に身体障害者を含むグループのレクリエーションや研修活動を支援するため、リフトバスの運行を行います。			活動実績	下記の活動実績のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	自動車改造費及び運転免許取得助成件数				45 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	身体障害者が通勤のため自ら運転する自動車改造助成件数や、障害者が通勤のための自動車運転免許取得助成件数は、障害者の自立や社会参加の促進の指標となります。		41 件	63 件	71.4 %		順調
	リフトバス利用者の運行回数				207 回		
主に身体障害者を含むグループのレクリエーションや研修活動を支援するリフトバスの運行回数は、障害者の自立や社会参加の促進の指標となります。		208 回	増加				

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	リフトバス利用者の運行回数は順調に伸びており、自動車改造費及び運転免許取得助成についても、その助成件数を着実に伸ばしています。よって、成果の状況は順調と判断しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	自動車改造費及び運転免許取得助成事業は、国・県の補助事業(3/4補助)を受けているが、地域生活支援事業としてその事業内容は市が創意工夫して見直すことができます。そのため、運転免許取得助成については、H17年度から自動車学校への委託から個人への助成に変更し、効率的で、かつ障害者が利用しやすい制度へと見直しを図っています。また、リフトバス運行についても委託事業者により経済的・効率的な運行を図るよう指導しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
見直し状況等	課題				
	今後とも障害者の自立や社会参加を促進するためには、リフトバスの運行と自動車改造費及び運転免許取得助成を行う必要があります。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>引き続き、リフトバスの運行、自動車改造費及び運転免許取得助成を行います。</td> <td>リフトバスの運行、自動車改造費及び運転免許取得助成等障害者の移動手段を充実させ、障害者の自立や社会参加の促進を図ります。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	引き続き、リフトバスの運行、自動車改造費及び運転免許取得助成を行います。	リフトバスの運行、自動車改造費及び運転免許取得助成等障害者の移動手段を充実させ、障害者の自立や社会参加の促進を図ります。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
引き続き、リフトバスの運行、自動車改造費及び運転免許取得助成を行います。	リフトバスの運行、自動車改造費及び運転免許取得助成等障害者の移動手段を充実させ、障害者の自立や社会参加の促進を図ります。				

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	障害者の情報収集を支援する事業						施策番号			
							-2-(2)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,480 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局	保健福祉局	
		6,080 千円	6,260 千円		課長	0.02 人	職員	0.1 人	担当課	障害福祉課
					係長	0.05 人		課長名	早崎	

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか ホームページや情報紙による情報提供とあわせ、情報収集や障害者のパソコン操作を支援する人材(パソコンサポーター)を育成することで、障害者やその家族が、多様な情報を収集しやすい環境の整備をします。			成果実績	下記の成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	[成果の状況]		
	障害者の情報収集機会の増加と情報活用による社会参加推進		障害者の情報収集機会の増加と情報活用による社会参加の推進				
	情報連絡体制を整備し、必要な情報をリアルタイムに提供できるよう努めるとともに、利用しやすく見やすいホームページの運営に努め、障害者がより多くの情報に接せられる環境を整備し、障害者の外出その他の多様な社会活動への参加増を目指す。 (最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	(最終目標と目標年度)				順調		

活動計画	様々なハンディのため、情報を得る機会を制限される障害者やその家族が、多様な情報を収集しやすい環境を整備するため、保健福祉に関する制度やお知らせ、イベント情報等を収集し、情報の一元化を図り、ホームページ(北九州市障害福祉情報センター)や情報紙(イベントアラカルト)で提供するとともに、情報収集や障害者のパソコン操作を支援する人材(パソコンサポーター)を育成し、派遣する「障害者パソコンサポーター養成・派遣事業」を実施します。			活動実績	下記の活動指標のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	[活動の状況]		
	パソコンサポーター登録者の派遣件数		増加				
	障害者のパソコン操作を支援する人材の育成を図り、支援体制の整備に努めます。	330 件			518 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	・障害福祉情報センターホームページでは、平成23年3月に発生した東日本大震災の特集を組み、障害者当事者が大災害の際に感じたこと、どのような情報を望んでいるかなどを取り上げ、いち早く障害者の立場に立った切り口での記事作成を行ったことで障害者団体の研修等で配布を希望されるなどの反響がありました。また、イベント情報に関する問合せは一昨年、昨年と着実に増加しており、特に平成23年度は、前年101件であったのに対し、130件と3割近く増えていることなどからも、成果の状況は順調と考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ともに委託で行っていますが、限られた予算の中でボランティアの協力をいただきながら、効果的・経済的なサービスの運用に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	情報収集手段の高度化等、情報技術環境は大きく進歩しています。このような状況に的確に対応し、障害のある人が容易に多くの情報に接することができる環境整備を図ることが課題です。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	現状規模の事業費のなかで、課題に対応するため、パソコンサポーターの募集を継続的に行うとともに、必要な情報をより多く提供できるよう、関係機関との連携に努めます。
	障害のある方がより多様な情報を収集でき、その結果、より多くの社会活動に興味関心がもてる状態を目指します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	障害者社会参加推進センターの運営						施策番号				
							-2-(2)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額 6,266 千円	平成24年度当初予算額 7,133 千円	人件費 の目安	金額	285 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局	保健福祉局		
					課長	0.003 人		職員	0.02 人	担当課	障害福祉課
					係長	0.01 人				課長名	早崎

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害のある方の地域における自立と社会参加を推進するため、多様なニーズへの対応に配慮しながら、発声やオストメイトなどの訓練講座、及び自立生活に役立つ教室などを開催します。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	[成果の状況]
	(最終目標と目標年度)	障害者の社会参加の促進		障害者の社会参加の促進	
多様なニーズへの対応に配慮しながら、様々なプログラムを実施することで、障害者の自立を促進し、能力向上や社会参加の促進を図ります。					
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	障害者のニーズにあった、外出プログラムや各種セミナー、発声やオストメイトなどの訓練講座、自立生活に役立つ教室などの開催に努めます。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	[活動の状況]
	(最終目標と目標年度)	講座の参加者数	2,159 人	増加	2,197 人
障害者のニーズにあった講座・教室となるように工夫します。					
(最終目標と目標年度)	講座の開催回数	114 回	増加	93 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	前年度と概ね同様の実績を上げており、多様なニーズに沿った講座・教室を運営することができ、参加者の生活スキルの向上等に有効であったと考えています。成果の状況は大変順調と判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	事業者だけでなくボランティアの協力を受けながら、経済的かつ効率的な運営(指定管理)に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 今年度も順調に講座を開催しています。参加者のニーズを的確に把握し、内容に反映させることが課題と考えます。
	次年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	現状規模事業費を維持し、より参加者のニーズに合った講座を開催します。 多様なニーズへの対応に配慮しながら、様々なプログラムを実施することで、障害者の自立を促進し、能力向上や社会参加の促進を図ります。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	東部及び西部障害者福祉会館の運営						施策番号
							-2-(2)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 127,122 千円	平成24年度当初予算額 127,122 千円	人件費 の目安	金額 865 千円 課長 0.01 人 職員 0.06 人 係長 0.03 人	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局 保健福祉局
							担当課 障害福祉課
							課長名 早崎

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	障害者相互の親睦及び自主活動の促進を図るとともに、地域社会等との交流の場を提供することにより、障害者の福祉の向上に資することを目的とし、各種の趣味・教養等の講座を開催するほか、幅広く自立活動を支援します。			成果実績	下記の成果指標のとおりです。
代表的な成果指標	指標 <small>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】	
	障害者相互の親睦及び自主活動の促進		障害者相互の親睦及び自主活動の促進		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	障害者のニーズにあった講座・教室の開催や、社会参加に繋がる交流会の開催などにより、障害者相互の親睦及び自主活動の促進します。 (最終目標と目標年度)					
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調	

活動計画	障害者のニーズにあった趣味・教養等の講座・教室の開催や、障害者だけでなく地域との交流会の開催などに努めます。				活動実績	下記の活動指標のとおりです。
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</small>	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	東部・西部障害者福祉会館利用者数		増加	51,340 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害者のニーズにあった趣味・教養等の講座・教室の開催や、社会参加に繋がる交流会の開催などに努めます。	49,124 人				
				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	利用者が前年度と概ね同様の実績を上げており、障害者が目的を持って様々な活動に参加したと考えます。従って、成果の状況は大変順調と判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	常勤の職員だけで、通常業務と各種講座の運営は不可能であり、ボランティアの協力を受けながら、経済的かつ効率的な運営(指定管理)に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	西部障害者福祉会館が平成25年度に、コムシティに移転することに伴い、大幅な利用者増が見込まれます。ソフト面、ハード面ともに、利用者にとって使いやすい施設とすることが必要であると考えます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	より多くの方に利用していただくとともに、満足度を高めるよう施設体制の充実を図ります。
	障害者のニーズにあった講座・教室の開催や、社会参加に繋がる交流会の開催などにより、障害者相互の親睦及び自主活動の促進します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	移動支援事業の拡大						施策番号
							-2-(2)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 268,677 千円	平成24年度当初予算額 257,890 千円	人件費の目安	金額 2,845 千円	(備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています	担当局
				課長 0.03 人 職員 0.2 人 係長 0.1 人			保健福祉局
							障害福祉課 早崎

【Plan】計画

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	障害者(児)が公的機関などの外出及び余暇活動等の社会参加のための外出をする時に、ヘルパーを派遣して移動の支援を行うことで、移動手段を確保し、障害者(児)の自立や社会参加の促進を図ります。				下記の成果指標のとおりです。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)				
	障害者(児)の移動手段の確保	87,236	時間 / 年	94,322	時間 / 年
	障害者(児)が公的機関などの外出及び余暇活動等の社会参加のための外出をする時に、ヘルパーを派遣して移動の支援を行うことで、移動手段を確保します。 (最終目標と目標年度)			157.2 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
					代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 大変順調

活動計画	屋外での移動に困難のある重度障害者(児)が、公的機関などの外出及び余暇活動等の社会参加のための外出をする時に、ヘルパーを派遣して移動の支援を行う。この事業は障害福祉サービス(居宅介護)事業へ委託して実施していますが、事業者の新規参入を促すとともに、市民に対し事業の啓発に努め、障害者(児)の自立や社会参加の促進を図ります。	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
					下記の活動指標のとおりです。

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	障害者の移動支援の年間延べ利用時間	87,236	時間 / 年	94,322	時間 / 年
	移動支援事業の利用者のニーズに応えるため、平成19年度に利用要件を緩和しました。これに伴い要件緩和以降、大幅に利用者数、利用時間が増加しました。今後も障害者が利用しやすいサービスの提供を行っていきます。			157.2 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
					活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
		新規参入事業者もあり、また事業の周知にも努めた結果、その実績は順調に伸びている。そのため、成果の状況は大変順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 移動支援事業は、障害福祉サービス事業所に事業を委託して行っています。また、報酬単価についても、障害福祉サービスの単価に準じて決定しているため、経済性・効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題
	障害者(児)の自立や社会参加を促進するためには、委託事業者の新規参入と市民に対しての事業の啓発により移動支援事業を推進する必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事業費は前年度と同規模としますが、委託事業者の新規参入と市民に対しての事業の啓発による移動支援事業利用者の増加を図ります。
	障害者の移動支援の年間延べ利用時間を増加させることにより、障害者(児)の自立や社会参加の促進を図ります。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	障害者スポーツ振興事業						施策番号				
							-2-(2)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	3,647 千円	(備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています	担当局	保健福祉局		
		49,030 千円	52,659 千円		課長	0.041 人	職員	0.25 人	担当課	障害福祉課	
					係長	0.13 人				課長名	早崎

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 障害者の社会参加推進を目的として、障害者のスポーツ大会やスポーツ教室等を開催するとともに、各種スポーツクラブによる大会の開催や選手の派遣費用に対し助成するなど、自主的なスポーツ活動に対し支援を行います。	成果実績	成果実績は下記のとおりです。
-----------	---	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	(最終目標と目標年度)	スポーツを通じた障害者の社会参加の促進		スポーツを通じた障害者の社会参加の促進	
障害者のスポーツ大会やスポーツ教室等を開催するとともに、自主的なスポーツ活動に対し支援を行うなど、スポーツを通じた障害者の社会参加を促進します。					
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	北九州市障害者スポーツ大会や各種の障害者スポーツ教室を開催するとともに、障害者団体等によるスポーツ大会の開催や参加への支援を行います。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	(最終目標と目標年度)	障害者スポーツ教室等参加者数		増加	2,417 人
教室参加者の特性を十分に考慮し、安全かつ安心して参加できる教室になるように努めます。		2,811 人			
(最終目標と目標年度)	北九州市障害者スポーツ大会参加者数		増加	45 ただし、雨天により 屋内実施可能競技参加者のみ	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	大会参加者が、安全かつ安心して参加できる大会となるように努めます。	542 人			大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	障害者スポーツ教室等の参加者については、障害者スポーツセンターの引越し等に伴い開催回数が増となり、参加者数は前年度を下回りましたが、1回あたりの参加者数は前年度を上回りました。また、障害者スポーツ大会は雨天のため、室内競技しか開催できず、参加者数は前年度実績を下回ったものの、参加登録者数は前年度を上回る560人でした。この他にも、参加者とボランティアとの交流もあり、また、参加者からは、「スポーツ教室を今後も利用したい」などの声も聞かれ、障害者の社会参加が図られており、成果の状況についても大変順調と考えています。
「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	常勤の職員だけで、大会や教室を運営するのは不可能であり、ボランティアの協力を受けながら、経済的かつ効率的な運営(委託及び負担金支出)に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 新障害者スポーツセンターのオープンにより、利用者は大幅に増えています。障害者スポーツセンターを拠点として、ハード、ソフト両面での充実を図り、障害者がスポーツに親しむ機会の増加に努めます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標) スポーツ教室や各種スポーツ大会参加者の増加を目指します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	ひきこもり地域支援センター事業							施策番号			
								-2-(2)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,008 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局	保健福祉局		
		10,500 千円	12,172 千円		課長	0.005 人		職員	0.1 人	担当課	障害福祉課
					係長	0.02 人		課長名	坂元		

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	ひきこもりの問題を抱えた当事者や家族等の電話相談や来所相談、訪問相談、フリースペースなどを特定非営利活動法人へ委託して実施することで、ひきこもり当事者が社会に参加し、いきいきと自分らしく暮らせることを目指します。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	---------------------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	ひきこもり当事者の社会参加の促進	ひきこもりの問題を抱えた当事者や家族等の電話相談や来所相談、訪問相談、フリースペースなどを実施することでひきこもり当事者の社会参加を促進します。 (最終目標と目標年度)		ひきこもり問題を抱えた当事者や家族に対する適切な相談対応	
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	引き続き、来所相談、電話相談、訪問相談、フリースペースを実施し、ひきこもり当事者・家族の支援を続けていきます。また、訪問支援体制の充実のため、支援員の増員を図ります。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	ひきこもりの当事者、家族からの相談延べ件数	来所相談、電話相談、訪問支援を行うことで、ひきこもりの当事者が自分らしく暮らせることにつながります。	891 件	増加	1,133 件
ひきこもりの当事者、家族からの相談実人数	来所相談、電話相談、訪問支援を行うことで、ひきこもりの当事者が自分らしく暮らせることにつながります。	193 人	増加	258 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	自宅から出られない方を支援するため、職員を1名増員し、訪問相談を強化しました。その結果、訪問相談件数は22年の46件から、約2.6倍の120件へと大きく増加し、当事者や家族を支援することができました。また、フリースペース等の居場所づくりを行い、23年度は、延べ1,142人の利用者がいました。利用者が互いに励ましあい、高めあえる場としても効果を発揮しています。また、フリースペースの利用者数が22年度の979人から大きく増えていることから、一定の人が社会参加の端緒についてと推測され、成果の状況は順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ひきこもりの当事者及び家族等への支援を主体とする特定非営利活動法人へ事業委託しているため、法人がこれまで築いてきたひきこもりの当事者及び家族等への支援ネットワークを活用することができ、経済性・効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	平成23年度に職員を1名増員し、訪問相談を強化した結果、訪問相談件数は大幅に増加しました。これらの相談者のうち、比較的高い年齢で、長期間ひきこもっている方については、企業への就職活動等が若年層に比べてより難しいなどの状況があるため、こうした方に対しては、幅広い社会資源の活用が必要です。障害福祉サービスの利用から企業への就職まで、幅広く支援することにより社会復帰が進むよう、様々な専門機関との連携を密にしていきます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事業費:現状維持 比較的高い年齢の方に対し、障害福祉サービスの利用から企業への就職まで、幅広く支援することにより社会復帰が進むよう、様々な専門機関との連携を密にしていきます。	ひきこもり問題を抱えた当事者や家族に対する相談対応について、年齢層にも配慮したより適切なものにしていきます。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	市民センターを拠点とした健康づくり事業						施策番号
							-2-(3)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 10,811 千円	平成24年度当初予算額 15,191 千円	人件費 の目安	金額 7,900 千円 課長 0.1 人 職員 0.5 人 係長 0.3 人	(備考)	担当局 保健福祉局
							担当課 健康推進課
							課長名 島田

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいたいのか	市民が主体となり話し合い、目標の設定・計画づくり・実践・事業評価を一つのサイクルとして、まちづくり協議会、健康づくり推進員の会、食生活改善推進員協議会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、保健師等の連携により健康づくりに取り組む「市民センターを拠点とした健康づくり事業(通称:地域でGO! GO! 健康づくり)」により住民主体の健康づくりを推進します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	-----------------------	--	-------------	-----------------

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
代表的な成果指標	「普段、自分は健康だと思う」、「まあまあ健康だと思う」と答えた19歳以上の市民の割合	-	増加	75.2 %	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	健康づくり実態調査で「普段、自分は健康だと思う」、「まあまあ健康だと思う」19歳以上の市民をモニタリングします。「地域でGO! GO! 健康づくり」により、市民が健康づくりに取り組んだり、地域の活動に参加して交流の機会が増えたりすることで、市民の主観的な健康観が向上すると考えました。 (最終目標と目標年度) 増加(対23年度:75.2%)・平成29年度	-	%	%	
	健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合	80.0	増加	3年に1度の調査のためありません	大変順調 順調
	高齢者実態調査で「健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがある、高齢者をモニタリングします。住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えました。 (最終目標と目標年度) 増加(対平成22年度:80.0%)・平成26年度	-	%	%	やや遅れ 遅れ

活動計画	「地域でGO! GO! 健康づくり」の全市的な展開を推進し、地域担当保健師等による支援及び補助金の交付による支援を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
活動指標	「地域でGO! GO! 健康づくり」の実施まちづくり協議会数	85	対前年度比増加	97 団体	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民が自ら話し合い、地域の健康づくりに取り組んでいく「地域でGO! GO! 健康づくり」を拡充することで、住民主体の健康づくりを推進します。	-	%	%	
		-	%	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 保健師等の働きかけにより「地域でGO! GO! 健康づくり」をさらに12校区で展開できました。また、各区で開催した各地域の活動報告会等が事業のPRにもなり、事業の拡充に効果がありました。事業が拡充できたことにより市民の健康づくり活動が促進され、結果として健康観の向上を促したと考え、成果の状況は順調と判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 「地域でGO! GO! 健康づくり」は、市民自らが地域の状況にあった健康づくりの取り組みを考えるものであり、運営費の一部に補助金を交付し、効果的な活動を推進しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 事業に取り組む団体は、23年度12団体増加し、24年度は11団体増加の予定で事業が進行しており、市内全まちづくり協議会の約8割に活動が広がっています。 次年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(次年度の成果目標) 本事業の全市的展開に向けて取組み団体の増加を目指します。事業費については現状を維持します。 区内の全まちづくり協議会が取組みを開始した区もあり、各団体の活動の中で健康学習を支援するなど、活動の推進に向けた支援を検討していきます。 市民主体の健康づくりの推進のため、取組み団体の増加を目指します。
---------------	--

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	健康マイレージ事業						施策番号	
							-2-(3)-	
コスト	事業費	平成23年度執行額 27,305 千円	平成24年度当初予算額 61,104 千円	人件費 の目安	金額	14,150 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
					課長	0.1 人 職員 0.8 人	担当課	健康推進課
					係長	0.7 人	課長名	大庭

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
-----------------	--------------------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 生涯を通じた健康づくりを推進するため、日ごろの健康づくりや健康教室への参加、健康診査の受診などの取り組みをポイント化し、希望する景品と交換することで、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進することで、健康づくり・介護予防を推進します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	自分の健康状態について「普通」「まあよい」「よい」と考えている高齢者の割合	高齢者実態調査で一般高齢者に対し、自身の健康観についてモニタリングします。「健康マイレージ」により、市民が自主的に健康づくりに取り組むことで、市民の主観的な健康観が向上すると考えました。 (最終目標と目標年度) 80%以上・26年度	77.6 %	増加	3年に1度の調査のためありません - %
健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合	高齢者実態調査で「健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがある」高齢者をモニタリングします。住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えました。 (最終目標と目標年度) 増加・26年度 (対平成22年度: 80.0%)	80.0 %	増加	3年に1度の調査のためありません - %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ 順調

活動計画	生涯を通じた健康づくりを推進するため、介護予防・生活習慣改善等の取り組みや健康診査の受診等をポイント化し、そのポイントを健康グッズなどと交換することで、健康づくりの重要性を広く普及啓発するとともに、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進します。また、さらに身近で参加しやすい事業となるよう、地域が主体となった仕組みを展開します。	活動実績	成果の状況は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	健康マイレージ事業参加者数	健康マイレージ事業参加者数を増加させることで、市民の自主的かつ積極的に健康づくりへの取り組みを促進させます。	7,040 人	増加	9,440 人 %
				% 大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市民センターを中心に、PR・事業展開し、体育協会、レクリエーション協会、スポーツジム、生涯学習の関係者、企業などにPRを強化することで、目標計画数には到達していませんが、参加者数は7,040人から9,440人と対前年比134%増加した一方で、登録事業数は昨年度1,666件から1,753件と105%の増になりました。また、昨年度同様、40歳～64歳の稼働層の参加が少ない状況でした。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	目標を達成するためには、地域で行われる身近な健康づくり活動を健康マイレージ事業の対象として組み込む必要があり、経済性・効率性の向上を図るために、地域レベルの組織を持つ団体に民間委託することについて検討を進めます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 今年度から社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会を中心に、区社協及び校(地)区社協を通じた地域展開を中心に事業を進めた結果、平成23年度応募者数9,440人、登録事業数1,753件から増加傾向にあります。(12月末時点における昨年と今年の比較: 3,692人(+572)、1,648事業(+2,052))一方で、平成24年12月末における40歳～59歳の応募者割合が14.1%と、昨年度の16.5%を下回っており、運動習慣者の割合が低い若年層の応募者をいかに増やすかが課題と考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	地域への一層の浸透を図るとともに、40代・50代の働く世代の応募者増加に向けて、企業への広報を強化するなど事業費の拡充を行います。	自身の主観的な健康観を普通以上と考えている高齢者の割合の増加を目指します。また、あわせて、健康づくりや介護予防のために取り組んでいる高齢者の割合の増加を目指します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	自殺対策事業						施策番号
							-2-(3)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 16,497 千円	平成24年度当初予算額 19,234 千円	人件費の目安	金額 15,850 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
					課長 0.15 人 職員 0.95 人	担当課	精神保健福祉センター
					係長 0.7 人	課長名	三井

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民が自殺について正しい知識を持ち、自殺の危険を示す人や自殺に傾いた人を適切な機関・窓口等へつなぐことができる状態を目指します。	成果実績	平成22年の自殺死亡率: 24.82
-----------	---------------------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
		自殺死亡率(人口動態調査による)			23.5 人
	内閣府が定める「自殺対策大綱」に基づき、平成28年までに平成17年の人口10万人当たりの自殺者数(24.6)を20%削減します。 (最終目標と目標年度) 平成28年 19.7人	23.6 人	対前年比減		
	(最終目標と目標年度)				やや遅れ

活動計画	自殺対策講演会、支援者向け研修、自殺予防こころの相談電話及び自死遺族支援等従来の事業を継続実施します。そのほか、地域自殺対策緊急強化基金を活用し、啓発・広報の強化、人材育成の強化を行うほか、ハイリスク者(自殺未遂者等)に関する実態調査を行い、実態の把握を行います。	活動実績	自殺対策出前講座の実施 自殺対策支援者研修の実施 「自殺予防こころの相談電話」 自死遺族支援(相談、わかち合いの会) ホームページ等による啓発
-------------	--	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
		養成したゲートキーパーの人数			1,613 人
	うつ状態にある人の早期発見・早期治療や自殺の危険性が高い人の早期発見・早期対応など、より早く自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応をとることができるよう、その中心的役割を果たす人材(ゲートキーパー)を養成します。	2002 人	1,000 人	161.3 %	
	市民・関係機関等への広報・啓発活動実施回数			69 回	大変順調 やや遅れ 遅れ
	広く市民に対し自殺について正しい知識を普及・啓発すると同時に、自殺の危険を示す人や自殺に傾いた人を適切な機関・窓口等へつなぐことができるよう、関係機関との連携のもと、様々な機会や媒体を活用し、広報・啓発活動を行います。 平成21年度～23年度は「地域自殺対策緊急強化基金」により広報・啓発を強化します。	100 回	50 回	138.0 %	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	23年度の活動は予定どおり実施できましたが、自殺死亡率の低下には結びついていません。これは、自殺の原因が様々な社会的問題と関係しているためと思われる、23年度は国の分析では、震災や芸能人の自殺による影響が現れているといわれています。自殺対策として行う事業が即効的に自殺減につながるとは限りませんが、一人でも多く追い込まれた死を防ぐために、各領域における自殺対策、市民及び各関係機関の意識向上及び連携強化が必要不可欠と考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	この事業は、国や民間の連携を進める必要があります。行政主導を進める必要があります。財源は内閣府の基金を活用して実施していますが、その額は今後遞減していく見込みですので、国や民間部門を含む各関係機関との連携を強化しながら、より効率的な事業運営の方法を検討していきたいと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 自殺問題は、経済情勢、雇用問題等様々な社会的要因が関係しています。そのため、引き続き行政、民間、地域団体等との連携を強化し、総合的な対策の施策を推進する必要がありますと考えます。 また、国の補助等を受け、引き続き人材育成や広報啓発を強化する一方で、今後はハイリスク者への対応が必要であると考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	前年度に引き続き、人材育成、普及啓発、相談対応、関係機関連携を進める一方で、ハイリスク者対策として、25年度は、新たに(仮)いのちこころの支援センターを設置し、専門的な支援を行うため、事業費を拡充します。	ハイリスク者支援等を行うことで、自殺死亡率の対前年比減に努めます。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	健康診査・受診促進						施策番号			
							-2-(3)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	11,650 千円	(備考)	担当局	保健福祉局	
		503,260 千円	611,968 千円		課長	0.1 人		職員	1 人	担当課
					係長	0.3 人		課長名	大庭	

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市民が健やかに心豊かに生活できるよう、がんをはじめとする生活習慣病の予防に取り組みます。そのため、がん検診など各種検診を実施し、これらの疾患の早期発見、早期治療につなげます。	成果実績	成果の状況は下記の通りです。
-----------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
		75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少 各種がん検診等の実施により、市民のがんによる死亡率減少を目指します。 (10万人対年齢調整死亡率) (注)数値は健康推進課調べ(1年遅れ) (最終目標と目標年度)	96.9 人	減少	92.6 人
	(最終目標と目標年度)			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	北九州市医師会への委託により、がん検診や若者健診、骨粗しょう症検診など各種の検診を1,000円以下で実施します。 また、一定の年齢の方が無料で子宮頸がん・乳がん・大腸がん検診を受診できる「がん検診無料クーポン券」の配布や、休日に複数の検診をまとめて受診できる「がん検診フェア」、企業やNPO団体との連携による「がん検診受診促進活動」等を実施し、検診の普及啓発・受診者の増加に取り組みます。	活動実績	各種がん検診者数の増加に向け、様々な受診促進事業を実施したほか、23年度は新たに働く世代への大腸がん検診推進事業(無料クーポン券配布)を実施しました。
-------------	---	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
		がん検診受診者の増加 職域の受診率を把握する仕組みがないため、市が実施する5大がん(胃がん・大腸がん・肺がん・子宮頸がん・乳がん)の検診受診者数の増加を目標にします。	78,932 人	85,000 人	85,268 人 100.3 %
				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	5つのがん検診のうち、受診者数が伸び悩んでいる検診もありますが、新たに実施した大腸がん検診無料クーポンの配布と、対象者(未受診者)に対する受診勧奨はがきの送付により、大腸がん検診の受診者数が1.6倍に増加するなど、がん検診全体の受診者数が順調に増加しているため「順調」と判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	大腸がん検診の無料クーポン未利用者へのはがき送付では、配布時に使用した対象者データを使用したため、効率よく低いコストで受診勧奨を実施することができました。また、企業等との連携により、低コストで「がん検診」の普及活動を行うことができました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	がん検診受診者数は、検診の普及啓発活動等により順調に増えてきていますが、職域を除く住民検診受診率は21~22.9%でまだ低い状況にあります。より一層受診者を増やすため、受診率の低い若年・壮年者層を中心とした受診者の掘り起こしや、継続受診の働きかけも行う必要があると考えています。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	企業・ボランティア等との連携により継続的に検診の普及啓発活動を行い、がん検診受診者の増加を図ります。予算は現状維持とします。	市民のがんによる死亡率(10万人対年齢調整死亡率)92.6人未満を目指します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	特定健診・特定保健指導							施策番号			
								-2-(3)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	42,300 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		594,978 千円	763,520 千円		課長	0.2 人		職員	4 人	担当課	健康推進課
					係長	1 人				課長名	大庭

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
----------	------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 40歳～74歳の北九州市国民健康保険被保険者を対象に内臓脂肪型肥満に着目した特定健診を実施します。また、健診の結果、特定保健指導やその他の保健指導等適切な事後フォローを実施します。 多くの対象者が早期に受診することによって、生活習慣病予防を推進し、誰もが元気で安心して地域で生活できるまちづくりをめざします。				成果実績	成果の状況は下記のとおりです			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	【成果の状況】			
	高血圧症該当者(重度)の減少 北九州市国民健康保険の特定健診受診者における高血圧症該当者(収縮期血圧180mmHg以上又は拡張期血圧110mmHg以上)の割合が減少することを旨とします (最終目標と目標年度)	1.08 %	割合の減少	1.01 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	血糖コントロール不良者(重度)の減少 北九州市国民健康保険の特定健診受診者における血糖コントロール不良者(HbA1c8.0%以上)の割合が減少することを旨とします (最終目標と目標年度)	1.40 %	割合の減少	1.33 %		大変順調			
				達成					

活動計画	特定健診受診率の向上に向けて各種の受診勧奨事業を継続して実施するとともに、受診後の適切なフォロー体制を充実させることで受診促進を図ります。 その一環として、健診後の特定保健指導の実施に代わって、特定保健指導対象外の方にも保健指導を行います。さらに、健診結果により、CKD(慢性腎臓病)予防に向けた、かかりつけ医・腎専門医との予防連携システムを開始します。				活動実績	下記活動指標のとおりです			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	【活動の状況】			
	北九州市国民健康保険における特定健診の受診率の上昇 特定健診受診率について、前年度実績から2ポイント以上上昇することを旨とします。	28.6 %	30.6 (2P上昇) %	31.1 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	北九州市国民健康保険における特定保健指導の実施率 実施に半年以上を要する特定保健指導は年度の区切りがあいまいなため、各年度の実施率はおおその目安となります。実施率目標値は、国の「特定健康診査等基本指針」で示された平成24年度の目標値45%としています。	34.6 %	45 %	28 %		大変順調			
				62.2 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	北九州市では平成20年度の受診率22.0%(政令市12位)から平成23年度の受診率31.1%(政令市5位)と、確実に上昇しています。これは各種受診勧奨の取り組みが、一定の効果をあげているものと思われます。また、特定保健指導実施率は、常に政令市の上位に位置しています。これに加えて特定保健指導対象外の方で生活習慣病予防・重症化予防が必要な方への保健指導を実施する等、健診受診後のフォローを充実させています。この結果、生活習慣病予防・重症化予防が着実に推進されています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	国の指針・基準をもとに、科学的根拠に基づいて、人工透析患者の多い北九州市の現状に応じてHbA1c・血清クレアチニン・尿潜血・血清尿酸等の検査項目を追加設定するとともに、市医師会への委託による効率的な健診・保健指導の実施運営を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 特定健診の受診率は順調に上昇していますが、まだ低い水準です。未受診者のなかには、生活習慣病予備群・生活習慣病有病者で、適切な医療受診や保健指導につながっていない方も多く考えられます。また健診後、特定保健指導の対象とならなかった方の中にも、血圧・血糖・脂質異常のコントロール不良の方や、必要な治療を受けていない方が多い状況です。生活習慣病予防及び重症化予防の推進には、特定健診受診率のさらなる向上と、健診後の事後フォローの充実が必要であると考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	受診率の向上に向けて、未受診者に対するハガキによる受診案内の送付等、各種の受診勧奨事業を継続して実施するとともに、受診後の適切なフォロー体制をさらに充実させることで受診促進と生活習慣病予防及び重症化予防の推進を図ります。(受診者増による予算拡充)	高血圧症有病者、血糖コントロール不良者、脂質異常症有病者のなかで、重度の方の割合の減少を目指します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	介護予防事業 (通所型・訪問型)						施策番号			
							-2-(3)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	10,950 千円	(備考)	担当局	保健福祉局	
		94,926 千円	214,365 千円		課長	0.3 人		職員	0.6 人	担当課
			係長		0.3 人	課長名		島田		

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
-----------------	--------------------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	二次予防事業対象者(要介護状態となるおそれの高い高齢者)に対する、運動機能向上、口腔機能の向上、栄養改善の教室(通所型介護予防事業)の提供と、保健師、看護師等による生活機能に関する問題の相談や支援のための訪問(訪問等による介護予防支援事業)により、介護予防を推進します。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	[成果の状況]		
	健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合	80.0 %	増加	3年に1度の調査のためありません			
	高齢者等実態調査で、健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがある高齢者をモニタリングします。二次予防事業の実施で介護予防が推進できれば、この割合が増加すると考えました。 (最終目標と目標年度) 増加 (対平成22年度 80.0%)・平成26年度				-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	二次予防事業に参加した後の生活機能評価で、維持・改善した人の割合	94.7 %	92.6 %	94.2 %			
二次予防事業(要介護状態となるおそれの高い高齢者のための教室等)に参加した対象者の生活機能の維持・改善率を指標とすることで、事業の有効性を評価できると考えました。 (最終目標と目標年度) 94.7% ・平成26年度				101.7 %	順調		

活動計画	より多くの二次予防事業対象者が要介護状態になることを予防できるように、通所型介護予防事業の開催場所、開催回数を増やします。また、関係職員の研修実施等を行い、二次予防事業の質を保ち、介護予防の推進に努めます。 通所型介護予防事業は民間委託による実施を予定しています。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	[活動の状況]
	通所型介護予防事業の参加者数	791 人	1,100 人	706 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	要介護状態となるおそれの高い高齢者に提供する、通所型介護予防事業(運動機能向上、口腔機能向上、栄養改善の教室)に参加する二次予防事業対象者の数を増加させ介護予防を推進します。			64.2 %	
					%

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	二次予防事業に参加した後の生活機能の評価で、94.2%の参加者が「維持・改善」しており、参加者に提供される、教室のプログラム内容等が介護予防に有効であったと考えます。しかし、通所型介護予防事業の参加人数は計画を下回っており、対象者への働きかけや介護予防の意義の啓発等、参加者の増加に向けた更なる検討が必要と考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	通所型介護予防事業のプログラム実施は、専門的な知識、資格、設備機器等を要するものであり、民間の事業者等に委託して、経済的、効果的な運営を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	平成23年度は通所型介護予防事業の参加者数が目標を下回りましたが、平成24年度から二次予防事業対象者の決定方法を変更したことで、二次予防事業対象者数が増加しており、通所型介護予防事業への参加者も増加傾向です。今後、二次予防事業を、どのように対象者に提供していくのか検討が必要です。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	予算は現状維持とし、通所型介護予防事業で開催する教室の提供のみでなく、訪問等による支援の充実を図り、介護予防のための支援を行う二次予防事業対象者の増加を目指します。	二次予防事業(通所型や訪問型などの事業)に参加した者の数の増加を図り、参加した後の生活機能評価で、維持・改善した人の割合が94.7%以上になることを目指します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	百万人の介護予防事業						施策番号				
							-2-(3)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	7,750 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		20,115 千円	24,500 千円		課長	0 人		職員	0.5 人	担当課	健康推進課
					係長	0.4 人				課長名	大庭

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民が身近な地域の中で自ら健康づくり及び介護予防に取り組むためのきっかけづくり、また、そのためのツールとして独自に開発した「きたきゅう体操(介護予防体操)」及び「ひまわりタイチー(介護予防太極拳)」を活用して、地域における健康づくりや介護予防の普及・啓発を行います。また、普及員の養成などを通じて介護予防の自主化・継続化の一層の促進を行い、より地域に根ざした介護予防の実施やいきがづくりを推進します。			成果実績	成果の状況は下記の通りです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【成果の状況】	
	健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合	80 %	増加	3年に1度の調査のためありません		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	高齢者等実態調査で「健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがある」高齢者をモニタリングします。住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えました。 (最終目標と目標年度) 増加・26年度(対平成22年度 80.0%)			%	大変順調		
(最終目標と目標年度)			%	順調 やや遅れ 遅れ	順調		

活動計画	介護予防の一層の普及・啓発を図るため、引き続き「ひまわりタイチー」・「きたきゅう体操」の教室や体験会等を開催します。また、更なる普及と介護予防の自主化・継続化のため、普及員の養成及び普及員による自主グループの形成を促します。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	普及教室の参加者数 (実数)	301 人	290 人	294 人	101.4 %	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	ひまわりタイチー及びきたきゅう体操を市民に普及させることを目的として、それぞれについて教室を開催します。						
普及員の登録者数 (累計)	103 人	200 人	234 人	117.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ		
地域で活動するリーダーとなる普及員を養成し、普及活動を行ってもらうことにより、介護予防の自主化・継続化を目指します。併せて、自主グループの育成を側面的に支援します。							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動の状況は順調で、普及員の養成及び普及員による自主グループ形成も増加傾向にあり、介護予防の自主化、継続化の促進が図れていると判断していますので、成果の状況としては、順調と考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで、 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	普及員の養成や自主グループの形成を推進することにより、市民主導で、介護予防の自主化、継続化を図ることができます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
見直し状況等	課題				
	普及教室については、毎回、定員以上の参加希望があり、体験会の申込みも増えていることから、知名度や活用頻度は上がっているものと考えます。普及員の養成や自主グループ形成も増加傾向にありますが、教室参加者数に比べて普及員養成講座の参加者が少なく、普及員数の伸び悩みが課題です。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>従来、普及員養成講座は、普及教室の参加者を対象としていましたが、平成24年度から、介護予防に関する地域活動従事者に拡大して募集することにしました。このことについての事業費の増減はありません。</td> <td>健康づくりや介護予防に主体的に取り組む高齢者の増加を目指します。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	従来、普及員養成講座は、普及教室の参加者を対象としていましたが、平成24年度から、介護予防に関する地域活動従事者に拡大して募集することにしました。このことについての事業費の増減はありません。	健康づくりや介護予防に主体的に取り組む高齢者の増加を目指します。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
従来、普及員養成講座は、普及教室の参加者を対象としていましたが、平成24年度から、介護予防に関する地域活動従事者に拡大して募集することにしました。このことについての事業費の増減はありません。	健康づくりや介護予防に主体的に取り組む高齢者の増加を目指します。				

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	高齢者のための筋力向上トレーニング啓発事業							施策番号		
								-2-(3)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	6,250 千円	(備考)	担当局	保健福祉局	
		29,669 千円	30,506 千円		課長	0 人		職員	0.3 人	担当課
			係長		0.4 人			課長名	大庭	

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
----------	------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	高齢者を対象とした筋力向上トレーニング教室の開催を通じて、体力の向上を図るとともに、介護予防や運動習慣、いきがいつくりの重要性についての啓発を図ります。	成果実績	成果の状況は下記の通りです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合	80 %	増加	3年に1度の調査のためありません	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	高齢者等実態調査で「健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがある」高齢者をモニタリングします。住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えました。 (最終目標と目標年度) 増加・26年度(対平成22年度 80.0%)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

活動計画	運動する機会の提供を行う啓発教室を引き続き開催します。			活動実績	コースの増設と安全面に配慮した受け入れ人数の増加により、より多くの高齢者へ運動する機会の提供が行えました。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	高齢者のための筋力向上トレーニング啓発教室参加者数 (実数)	680 人	840 人	904 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	運動することの重要性及び日常でできる正しい運動方法の啓発を目的とした教室を開催し、運動のきっかけづくりを行い、介護予防を推進します。			107.6 %		
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	目標数を上回る高齢者に対して、運動する機会を提供することで、健康づくりのきっかけを作ることができたと判断しており、成果の状況は順調と考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	教室の開催にあたっては、健康運動指導士等の専門スタッフを確保するなど、参加者の安全性に配慮した上で運営の殆どを外部委託し、効率化に努めています。また、運動プログラムのマニュアル(手引き)の配布など、教室終了後の運動の継続化・自主化を図る取組みやより多くの方へ健康づくりのきっかけを提供することができるような事業の実施方法について今後検討を進めます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 啓発教室については、毎回、定員以上の申込みがあり、教室参加者の満足度も高いことから運動のきっかけづくりになっていると考えますが、教室終了後の運動習慣までにはなかなか至らないため、運動の自主化・継続化につながるような事業の実施方法について検討しています。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 健康づくりや介護予防に主体的に取り組む高齢者の増加を目指します。
	次年度の活動計画(見直し内容) 運動の自主化・継続化を促す具体的方策として、教室参加者へ運動プログラムのマニュアル(手引き)の配布を行います。また、教室参加者の運動の自主化・継続化の状況を把握するため、アンケート方式による実態調査を行います。これらのことについての事業費の増減はありません。	

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	高齢者食生活改善事業						施策番号				
							-2-(3)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	4,575 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		5,421 千円	9,586 千円		課長	0.05 人		職員	0.4 人	担当課	健康推進課
					係長	0.1 人				課長名	大庭

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 介護保険法に基づく地域支援事業における「栄養改善」を目的とした一次予防事業として食生活に関する個別相談及び集団指導(講義や実技指導)を実施し、高齢者の低栄養状態の予防の重要性や正しい知識と技術の普及・啓発を図ることで介護予防を推進します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合	80 %	増加	3年に1度の調査のためありません	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	健康づくりや介護予防のための取り組みの中でも「栄養バランスのとれた食事をとること」は大変重要であり、食に関する正しい知識や技術を普及・啓発することで、すべての高齢者が介護予防に向けた取組みを主体的に実施できることを目指し、これを指標に設定しました。			%	
	(最終目標と目標年度)増加・26年度(対平成22年度 80.0%)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	介護予防に向けて、高齢者の「栄養改善」事業を継続的に実施するとともに、積極的な広報活動や関係団体との連携強化により、参加者の増加に努めていきたいと考えます。特に低栄養状態の高齢者や無関心層に対し、積極的な事業の周知に努めます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
-------------	---	-------------	----------------	--	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	各種教室の参加者数	8,372 人	8,200 人	8,488 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「食べる」ことを通じた介護予防を進めていくには、高齢者の事業参加を促し、そこで習得した食生活上の知識を日常生活で実践してもらうことが重要です。そのため、より多くの高齢者が参加するよう対象に応じた様々な事業を展開し、地域や関係団体を通じた積極的な広報活動を行うとともに、効果的な事業実施のために関係団体との連携強化に努めます。			103.5 %	
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	各種教室の参加者は確実に増加しています。また教室アンケート結果より、講座内容については教室参加者のほとんどが良かったと回答し、今後に役立つと答えた者も99%と満足度は大変高いと考えられます。さらに調理を伴う教室では、教室参加後、家庭で料理を作るようになった者が増え、日常生活での実践、行動の変容がみられました。成果の状況は順調と判断しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	栄養改善に関する専門知識や経験が豊富な「福岡県栄養士会」や地域に根ざした健康づくり活動を担う「北九州市食生活改善推進員協議会」に事業の一部を委託することで、効率的な事業運営に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題			
		各種教室の参加者は増加しており、好評を得ています。特に平成24年度は年度途中からですが、二次予防事業非該当者のうち「健康いきいきチェック」の栄養項目該当者(低栄養のおそれがある者)への教室参加勧奨を開始し、栄養改善が必要な対象者へのアプローチを行っています。今後はさらに低栄養予防が必要な高齢者へいかに働きかけていくかが課題であると考えます。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	参加勧奨を行う対象者の範囲を広げ、教室参加者数の増加を目指します。また、低栄養予防が必要な高齢者や無関心層が興味をもち、参加しやすい教室内容を検討するとともに、低栄養状態の予防の重要性に関する普及啓発を進めます。事務の見直しなどの努力を行い、予算を縮小します。	より多くの市民へ働きかけ、第三次高齢者支援計画に基づき、各種教室の参加者数8,500人を目指します。その結果、健康づくりや介護予防に取り組む高齢者の割合の増加を目指します。		

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	お口の元気度アップ事業						施策番号		
							-2-(3)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,725 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
		7,103 千円	8,826 千円		課長	0.15 人 職員 0.2 人		担当課	健康推進課
					係長	0.05 人		課長名	島田

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	高齢期において口腔機能(嚙む、飲み込む、話す等)を維持・改善することは、健康寿命の延伸や自分らしい生活の確立と自己実現を図るために重要な要素です。そこで、高齢者を対象とした口腔機能向上のための事業を行い、市民の介護予防の推進を図ります。				成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【成果の状況】		
	健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合	80 %	増加	3年に1度の調査のためありません	%	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	すべての高齢者を対象として介護予防に向けた取り組みが主体的に実施されるような地域社会の構築を目指しており、これを指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)増加・平成26年度 (対平成22年度 80.0%)			%				
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ		順調	

活動計画	第二次北九州市高齢者支援計画(第4期介護保険事業計画)に基づき、市民センターにおける高齢者向けの健康関連事業や、市が行う健康づくりイベント、地域で開催される健康まつり等の機会をとらえ、歯科医師による「健口相談」や「出前講演」、歯科衛生士による「おいしく食べる健口塾」や「健口ストレッチ講座」を開催します。さらに、普及啓発に関するパンフレット等の指導媒体を作成します。				活動実績	下記の活動指標のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	お口の元気度アップ事業の参加者数	8,587 人	8,500 人	8,004 人	%	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	高齢者の日常生活において、支援や介護が必要な状態となることを予防し、健康長寿を実現するために、生活機能の維持・向上を目指す介護予防の意義や重要性、方法等についての正しい知識・技術の普及啓発が重要です。本事業について市民センターや住民組織を通じたPRに努め、参加者数の拡大に努めます。			94.2 %			
	(最終目標と目標年度)			%			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	高齢期における口腔機能の向上を図ることで、美味しく食べることや家族や友人との会話を楽しむことが継続できるだけでなく、高齢者の体調悪化や死亡をもたらす誤嚥性肺炎の予防や食品による窒息の防止効果が期待できます。さらに、口腔機能の維持・向上は低栄養改善や運動機能向上にもつながるので、本事業は介護予防の推進のために有効性が高いと考えます。成果の状況は順調と判断しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業の多くはすでに民間(歯科保健に関する専門職団体)に委託して実施しており、効率的な運営を行っていると考えます。また、地域の在宅歯科衛生士を活用して、参加者の要望に合わせた事業日程に柔軟かつ効率的に対応できるように努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
見直し状況等	課題				
	平成23年度はお口の元気度アップ事業の参加者数は目標を下回りましたが、各種講座への参加者からは好評を得ています。今後、参加者増加のために、市民への事業案内の方法などの工夫が必要です。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>「食べる・話すことの維持」「疾病・誤嚥の予防」など口腔機能の向上は、QOL(生活の質)の向上にとっても有効であり、介護予防の推進を行っていくうえで重要な事業と考えています。予算は現状維持とし、今後も第三次高齢者支援計画に基づいて事業展開を行います。</td> <td>より多くの市民へ働きかけ、第三次高齢者支援計画に基づき、各種講座等の参加者数8,700人を目指します。その結果、健康づくりや介護予防に取り組む高齢者の割合の増加を目指します。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	「食べる・話すことの維持」「疾病・誤嚥の予防」など口腔機能の向上は、QOL(生活の質)の向上にとっても有効であり、介護予防の推進を行っていくうえで重要な事業と考えています。予算は現状維持とし、今後も第三次高齢者支援計画に基づいて事業展開を行います。	より多くの市民へ働きかけ、第三次高齢者支援計画に基づき、各種講座等の参加者数8,700人を目指します。その結果、健康づくりや介護予防に取り組む高齢者の割合の増加を目指します。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
「食べる・話すことの維持」「疾病・誤嚥の予防」など口腔機能の向上は、QOL(生活の質)の向上にとっても有効であり、介護予防の推進を行っていくうえで重要な事業と考えています。予算は現状維持とし、今後も第三次高齢者支援計画に基づいて事業展開を行います。	より多くの市民へ働きかけ、第三次高齢者支援計画に基づき、各種講座等の参加者数8,700人を目指します。その結果、健康づくりや介護予防に取り組む高齢者の割合の増加を目指します。				

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	介護予防のための生活機能評価実施事業						施策番号				
							-2-(3)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	5,200 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		111,837 千円	50,645 千円		課長	0.05 人		職員	0.35 人	担当課	健康推進課
					係長	0.2 人				課長名	島田

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	要介護状態になる恐れの高い高齢者(二次予防事業対象者)を把握し、支援部門へ引き継ぐことにより高齢者の介護予防の推進を図ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合	80 %	増加	3年に1度の調査のためありません	人 %
(最終目標と目標年度)増加・平成26年度(対平成22年度 80.0%)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
(最終目標と目標年度)					順調

活動計画	平成22年度に引き続き、基本チェックリストを全対象者へ送付し、二次予防事業対象者の効果的な把握に努めます。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	二次予防事業対象者決定数	9399 人	7,481 人	9,342 人	124.9 %
基本チェックリストを全対象者へ送付、速やかな健診票交付等により、要介護状態になる恐れの高い二次予防事業対象者を適時・的確に把握するよう努めます。					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
					順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	この事業は、二次予防事業対象者を的確に把握し早期支援につなげるのが重要であるので、基本チェックリストを全対象者に送付することによって、要介護状態になる恐れの高い高齢者を、適時把握することに努めています。目標を上回る前年度とほぼ同程度の対象者数を把握できましたので成果の状況は順調と考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	送付印刷物のコンパクト化等により、コスト削減を図っています。また、健診票を交付する際に各種教室の案内を同封するなど、より高い効果を得られるよう努めています。基本チェックリストの送付および二次予防事業対象者の決定については、過去3年間実施し、一定の方法が確立できたため、委託化等を検討し、効率性を高める必要があります。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 対象者の把握を効果的に進めるために、平成24年度から把握方法の見直しを行ったため、より効果的な把握が出来たかどうか検証していく必要があります。また、基本チェックリストの送付だけでなく、関係機関との連携により様々なルートから、二次予防事業の対象者の把握に努める必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	予算は現状維持とし、第三次高齢者支援計画に基づき、今後も二次予防事業対象者を適時・的確に把握することを目指します。	健康づくりや介護予防のために取り組んでいる高齢者の割合が増加することを目指します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	健康マイレージ事業							施策番号			
								-2-(3)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	14,150 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		27,305 千円	61,104 千円		課長	0.1 人		職員	0.8 人	担当課	健康推進課
					係長	0.7 人				課長名	大庭

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 生涯を通じた健康づくりを推進するため、日ごろの健康づくりや健康教室への参加、健康診査の受診などの取り組みをポイント化し、希望する景品と交換することで、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進することで、健康づくり・介護予防を推進します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	高年齢者	自分の健康状態について「普通」「まあよい」「よい」と考えている高齢者の割合 高年齢者実態調査で一般高齢者に対し、自身の健康観についてモニタリングします。「健康マイレージ」により、市民が自主的に健康づくりに取り組むことで、市民の主観的な健康観が向上すると考えました。 (最終目標と目標年度)80%以上・26年度	77.6 %	増加	3年に1度の調査のためありません -
健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合 高年齢者実態調査で「健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがある」高齢者をモニタリングします。 住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えました。 (最終目標と目標年度)増加・26年度(対平成22年度:80.0%)		80.0 %	増加	3年に1度の調査のためありません %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

活動計画	生涯を通じた健康づくりを推進するため、介護予防・生活習慣改善等の取り組みや健康診査の受診等をポイント化し、そのポイントを健康グッズなどと交換することで、健康づくりの重要性を広く普及啓発するとともに、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進します。 また、さらに身近で参加しやすい事業となるよう、地域が主体となった仕組みを展開します。	活動実績	成果の状況は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	-----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	健康マイレージ事業参加者数	健康マイレージ事業参加者数 健康マイレージ事業参加者数を増加させることで、市民の自主的かつ積極的に健康づくりへの取り組みを促進させます。	7,040 人	増加 人	9,440 人 %
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 市民センターを中心に、PR・事業展開し、体育協会、レクリエーション協会、スポーツジム、生涯学習の関係者、企業などにPRを強化することで、目標計画数には到達していませんが、参加者数は7,040人から9,440人と対前年比134%増加した一方で、登録事業数は昨年度1,666件から1,753件と105%の増になりました。また、昨年度同様、40歳～64歳の稼働層の参加が少ない状況でした。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 目標を達成するためには、地域で行われる身近な健康づくり活動を健康マイレージ事業の対象として組み込む必要があり、経済性・効率性の向上を図るために、地域レベルの組織を持つ団体に民間委託することについて検討を進めます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 今年度から社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会を中心に、区社協及び校(地)区社協を通じた地域展開を中心に事業を進めた結果、平成23年度応募者数9,440人、登録事業数1,753件から増加傾向にあります。(12月末時点における昨年と今年の比較: 3,692人(+572)、1,648事業(+2,052))一方で、平成24年12月末における40歳～59歳の応募者割合が14.1%と、昨年度の16.5%を下回っており、運動習慣者の割合が低い若年層の応募者をいかに増やすかが課題と考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	地域への一層の浸透を図るとともに、40代・50代の働く世代の応募者増加に向けて、企業への広報を強化するなど事業費の拡充を行います。	自身の主観的な健康観を普通以上と考えている高齢者の割合の増加を目指します。また、あわせて、健康づくりや介護予防のために取り組んでいる高齢者の割合の増加を目指します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	歯科保健事業						施策番号				
							-2-(3)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	5,650 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		58,838 千円	69,608 千円		課長	0.1 人		職員	0.4 人	担当課	健康推進課
					係長	0.15 人				課長名	島田

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	歯と口の健康は市民の健康寿命を延ばすことに役立つだけでなく、美味しい食事や家族や仲間との会話を楽しむ等による市民の生きる力をはぐくみ、生活の質の向上を図るための重要な要素です。生涯を通じた歯と口の健康づくりの一環として、乳幼児期のむし歯予防により歯と口の健康づくりの推進を図ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】	
	毎日の食事をおいしいと思う人の割合	64.7 %	増加	64.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	食事をおいしく感じることは、食生活はもちろん、口腔機能を始めた身体機能の状況や毎日の生活の満足度の目安となるものであり、QOLの向上や健康寿命の延伸にもつながると考え、指標として設定しました。参考:毎日の食事がおいしいと思う人の割合 壮年期:64.7%(平成23 北九州市健康づくり実態調査結果) (最終目標と目標年度)			%		
	3歳児のむし歯のある者の割合	31.5 %	減少	30.3 %		順調
3歳児は乳歯が生えそい咬み合わせも完成する時期であり、この節目年齢をとらえたむし歯の有病者率は乳幼児期の歯科保健の代表的な指標の一つであるため、本市においてもこれを設定した。 (最終目標と目標年度)20%(平成24年度)	%					

活動計画	1歳6か月児歯科健康診査、3歳児歯科健康診査、4歳児・5歳児歯科検診、親子歯科検診を実施します。また、1歳6か月児歯科健康診査と合わせてフッ化物の塗布を実施、歯の衛生週間に「デンタルフェア2012」を開催し、口腔保健の普及啓発を図ります。また、市民センター等でライフステージに応じた歯科保健指導を開催します。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	1歳6か月児・3歳児歯科健康診査を受診した者の割合	59.8 %	増加	60.8 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	乳幼児期における歯や口腔の異常や歯科疾患のリスクを早期発見し、適切な指導を行うために1歳6か月児・3歳児を対象に歯科健康診査を実施します。また歯科医師会等の関係団体の協力を得ながらPR方法を具体的に検討し受診者率の向上に努めます。			%		
		%	%	順調		
	%					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	歯と口の発育時期である幼児期の適切な時期に歯科健康診査を行うことは、むし歯の早期発見・早期対応をはじめとした歯と口の健康づくりに効果的です。特に、歯が生えてきた早期から乳歯にフッ化物塗布を行うことが有効です。また、健康診査の結果に基づき、歯みがき方法やおやつとの与え方等に関する日常生活に必要な歯科保健に関する保健指導を行うことで歯や口の発育するスタート時期からの歯科保健対策を進めることになり、有効性は高いと考えますので、成果の状況は順調と判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業はすでに民間(歯科保健に関する専門職団体)に委託して実施しており、効率的な運営を行っていると考えます。歯科保健指導や歯科保健についての普及啓発活動については、経済的、効率的に実施するように努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 3歳児のむし歯のある者の割合は、徐々に減少しているものの、他都市と比較しても高いのが現状です。幼児に対する予防対策や施策実現の基盤ともなる歯科保健に関する指導や普及啓発等のさらなる推進が必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	乳幼児期における歯や口腔の異常や歯科疾患のリスクを早期発見し、歯と口の健康づくりを行っていくため市民へのPRを推進し、歯科健康診査受診率の向上に努めます。今後も目標の達成に向けて着実に取組みを進めるため、事業費は現状を維持し引き続き事業を行います。	3歳児のむし歯がある者の割合が減少することを目指します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	歯ッピー・ヘルシー北九州事業							施策番号			
								-2-(3)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,200 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		19,519 千円	24,220 千円		課長	0.05 人		職員	0.15 人	担当課	健康推進課
					係長	0.05 人				課長名	島田

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	歯と口の健康は市民の健康寿命を延ばすことに役立つだけでなく、美味しい食事や家族や仲間との会話を楽しむ等による市民の生きる力をはぐくみ、生活の質の向上を図るための重要な要素です。生涯を通じた歯と口の健康づくりの推進を図ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【成果の状況】
	毎日の食事をおいしいと思う人の割合	64.7 %	増加	64.7 %	%	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	食事をおいしく感じることは、食生活はもちろん、口腔機能を始めた身体機能の状況や毎日の生活の満足度の目安となるものであり、QOLの向上や健康寿命の延伸にもつながると考え、指標として設定しました。参考:毎日の食事をおいしいと思う人の割合 壮年期:64.7%(平成23 北九州市健康づくり実態調査結果) (最終目標と目標年度)					
	80歳(75~84歳)で20本以上の自分の歯を有する人の割合	29.8 % (平成20年度)	増加	%	37.8 %	%
健康寿命の延伸やQOLの向上のために歯の喪失防止は重要です。80歳以上で20本以上の歯を有する人は平成20年度に比べて減少傾向にあり、これを設定しました。 (最終目標と目標年度)35%以上(平成24年度)						

活動計画	妊産婦歯科検診、および歯周疾患検診を実施します。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。		
-------------	--------------------------	-------------	----------------	--	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【活動の状況】
	歯周疾患検診の受診率	3.9 %	対前年度比増加	4.5 %	%	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	成人期における歯の喪失の主要原因である歯周疾患を早期に発見し、適切な対応を行って重症化の予防を図るとともに、自分自身の歯みがきや食生活等の生活習慣を見直すことが重要です。歯科医師会等の関係団体の協力を得ながらPR方法等を具体的に検討し受診率の向上に努めます。					
	(最終目標と目標年度)				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	妊産婦歯科検診、歯周疾患検診を歯科医療機関で実施することにより、より適切な歯科保健指導を実施することが出来ました。また、身近な歯科医療機関で検診を行うことで、かかりつけ歯科医師の普及にもつながりました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業はすでに民間(歯科保健に関する専門職団体に)委託して実施しており、効率的な運営を行っていると考えます。また、検診の対象者を妊産婦や節目年齢(40歳、50歳、60歳、70歳)に限定して実施する等、ターゲットを絞って事業をより効果的なものとするように努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	歯科保健の推進はまずは、本人、家族が主体となって取り組むことが重要ですが、妊産婦歯科検診、歯周疾患検診受診率ともに受診率が低いのが現状です。また、歯・口腔の健康が全身の健康に影響を及ぼすことから、歯の早期喪失の防止対策や歯周病等の歯科疾患の予防、重症化予防をさらに推進する必要があります。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	本事業は、歯と口の健康づくりを行っていくうえで重要な事業であります。今後も目標の達成に向けて着実に取組みを進めていくことが不可欠であり、引き続き事業を推進しますが、事務の見直しなどの努力を行い予算は縮小します。さらに歯周病予防に関するPRに努めていきます。	健康寿命の延伸やQOLの向上のために歯の喪失防止を目指します。		

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	人権教育・人権啓発の推進						施策番号				
							-3-(1)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	0 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		174,966 千円	171,511 千円		課長	0 人		職員	0 人	担当課	人権文化推進課
					係長	0 人				課長名	伊藤

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民一人ひとりが人権尊重の精神を正しく身に付け、人権を尊重することが日常生活の中で当たり前行動として自然に現すことができる社会をつくるため、人権教育・人権啓発を推進していくことを目指します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	---------------------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	すべての市民の人権が尊重される社会の実現			すべての市民の人権が尊重される社会の実現	%
	人権講演会や人権研修などへの参加を促進し、人権尊重の理念を高めていきます。 (最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調
	(最終目標と目標年度)			%	やや遅れ 遅れ

活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への広報活動(TVCM制作放送、マルチビジョンCM放送等) ・人権週間に伴う人権啓発行事(記念講演会、ふれあいフェスタ、人権週間標語募集、街頭啓発等) ・福岡県同和問題啓発強調月間行事(映学会講演会、啓発映画テレビ放送、ポスター制作送付) ・人権問題視聴覚教材の整備(人権啓発映画制作、「明日への伝言板」制作) 	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	講演・研修等参加人数			48,000 人	44,324 人
	人権尊重の理念は、人権講演会や人権研修などに参加することにより高められると考えています。これらの事業を継続して実施することが、人権問題に対する正しい理解を深め、人権を自分自身の課題としてとらえられる市民が増えることにつながるものと認識しています。	42,973 人		92.3 %	大変順調 順調
				%	やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>「経済性」 「効率性」 の分析</p>	<p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p> <p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>人権講演・研修会等参加者数については当初計画より下回っていますが、目標数の9割以上となっているので概ねよい状況であると認識しており、成果の状況は順調と判断しました。参加者数が当初計画に達しなかったことの一つの要因としては、ふれあいフェスタの中で著名人による人権講演会に関して、参加者の年代層に偏りが見られ(若者層が少ない)参加者数が予想よりも伸びなかったことが挙げられます。</p> <p>人権啓発事業については、これまでのノウハウをもつ民間業者を活用し、工夫を重ねながら、経済性、効率性が高められるよう努めています。</p>
------------------	---	--	--

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	<p>課題</p> <p>人権教育・人権啓発事業は、予定通り、着実に実施していますが、効果や成果が見えにくく、評価指標が少ないことが課題です。現在、評価指標としている人権講演・研修会等は、ほぼ目標を達成しています。</p> <p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>事業費自体は縮小し対応するものの、様々な人権啓発事業を着実に実施して、市民が啓発事業に触れる機会を増やすこと、また、事業の認知度の向上を目指します。あわせて、一部事業(「明日への伝言板」等)の見直しを実施し、経済性、効率性が高められるように努めます。</p>	<p>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p> <p>人権講演・研修会等の参加促進をはかり(目標48,000人)、様々な啓発事業を実施することで、市民の人権問題に対する正しい理解を深め、すべての市民の人権が尊重される社会の実現を目指します。</p>
---------------	---	---

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	人権の約束事運動の推進						施策番号				
							-3-(1)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	0 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		8,146 千円	10,270 千円		課長	0 人		職員	0 人	担当課	人権文化推進課
					係長	0 人				課長名	伊藤

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	「人権文化のまちづくり」を推進するための市民運動として、人権に関する身近なテーマを「約束事」として掲げ、その「約束事」を家庭や地域、職場など団体の中で守っていくことで人権尊重の機運を盛り上げる			成果実績	成果は、数値化できず、また、啓発事業であるため効果に即効性を求めることはできないものの、当該事業への認知度や理解度は高まってきており、今後の拡大に向けて十分な素地はできた
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】	
	「人権文化のまちづくり」の実現		「人権文化のまちづくり」の実現	%	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民一人ひとりが人権尊重の精神を正しく身に付け、人権を尊重することが市民の日常生活の中で当たり前の行動として自然に現すことができる社会をつくること (最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
				%		
				%		
				%		

活動計画	・人権の約束事運動推進活動支援事業 ・人権の約束事運動を実践する団体に補助金交付 ・市民への広報活動 ・ Mascotキャラクター「モモマルくん」の着ぐるみを活用したPR			活動実績	下記の活動指標のとおりであり、活動計画記載の事業により、人権関係団体をはじめ、小中学校や市民センターなどへのPR活動を開始した
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	人権の約束事運動参加登録団体数			208 団体	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	人権の約束事運動推進協議会の会員団体をはじめ、人権課題の当事者団体や支援団体、人権課題に関わる施設や事業所の連絡協議会等で事業の説明とともに、参加登録の呼びかけを行なっている	118 団体	180 団体	115.6 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
				%	
				%	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	補助事業の対象を会員団体から参加登録団体に拡大し、これにより約束事運動への関心が高まりました。またMascotキャラクター「モモマルくん」の着ぐるみ活用等のPRにより広報事業の活動を図りました。成果の状況としては、順調と考えています。
		市民運動とはいえ、市全体で進めている事業であるので、参加者ではなく事務局として関与する負担感、動機づけの困難を配慮し、市以外の実施主体は考えられません。なお、推進活動支援事業(補助金)の採択に際しては、評価検討委員会に民間の有識者等に委嘱し、人権の約束事運動推進にむけ、より効率の高い事業を選定していただいています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題 市民運動としての参加登録団体の数は重要であるため、H24は参加登録の呼びかけを重視し、過去3年間の登録団体の倍以上の団体(全市民センター含む)より参加登録いただきました。しかし、教育機関や企業の登録は充分とは言えず、市全域での市民運動としていくため、さらなる呼びかけが必要となります。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事業費自体は縮小し対応するものの、増加した登録団体に対し、補助金活用を積極的に呼びかけ、更なる参加登録団体増と約束事運動の実践につなげていきます。
	市民センターなどを中心とした各地域への人権の約束事運動を活用した人権啓発の取組みが実施されることを目指しています。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	認知症啓発・対策推進事業						施策番号
							-3-(1)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 15,340 千円	平成24年度当初予算額 24,987 千円	人件費 の目安	金額 2,575 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
					課長 0.05 人 職員 0.2 人	担当課	高齢者支援課
					係長 0.05 人	課長名	野 瀬

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」の実現のため、広く市民を対象として、認知症に関する正しい理解と啓発のための街頭啓発の実施や講演会を実施します。また、徘徊高齢者等SOSネットワークシステムに関する広報を積極的にを行い、登録者の増加に努め、徘徊行動により所在不明となった高齢者を協力機関と連携し、早期の発見・保護に努めます。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】	
	認知症の人の地域生活の推進		「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現します。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	保健、医療、福祉、地域社会が連携・協働しながら、「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現します。 (最終目標と目標年度)					
				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

活動計画	認知症予防の話と脳の健康度テストについては、引き続き市民の参加機会の確保に努めます。また、認知症啓発月間街頭啓発活動については、認知症についての啓発をすすめるために、今まで参加していなかった団体に参加していただけるよう、参加を働きかけます。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	認知症予防の話と脳の健康度テスト参加者数	162 人	増加	209 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	できるだけたくさんの人に参加してもらえよう、市民広報・参加機会の確保を図ります。					
街頭啓発活動参加団体数	11 団体	増加	11 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	
地域社会での取組みを推進するため、街頭啓発活動に今まで参加していなかった団体に参加を働きかけます。						

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		認知症予防の話と脳の健康度テストは順調に実施できています。また、引き続き街頭啓発活動を実施し、参加団体数の増加を図っていきます。このような取組みの結果から、成果の状況は「順調」としています。
		認知症予防の話と脳の健康度テストについては、受講者からの評判が良く、受講希望者も多い事業です。引き続き限られた予算内で実施していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題 認知症予防の話と脳の健康度テスト参加者数と、街頭啓発活動参加団体数(平成24年度12団体参加)は順調ですが、引き続き利用者(団体)の増加に向けて取り組むことが必要です。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成25年度事業費は、認知症の実態調査の経費がないこと等から予算は減額となっていますが、認知症予防の話と脳の健康度テストについて、実施方法を工夫して利用者の増加を図るなどにより、より多くの方に事業に参加していただけるよう検討していきます。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	高齢者の虐待防止事業(地域支援事業)						施策番号				
							-3-(1)-				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,075 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		16,209 千円	23,669 千円		課長	0.05 人		職員	0.2 人	担当課	高齢者支援課
					係長	0.1 人				課長名	野瀬

【Plan】計画	【Do】実施	【Check】評価
----------	--------	-----------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 判断能力が不十分な高齢者等に、日常的な金銭管理や福祉サービス利用手続きの援助(相談)、また、成年後見制度の利用援助(相談)を行うことにより、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援を行います。また、高齢者虐待に対する社会的支援の必要性が高まる中で、相談窓口である地域包括支援センター職員を対象とした研修を毎年実施するなど、高齢者がその人らしく安心して暮らしていくための虐待予防・早期発見・援助に必要な支援を行います。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	高年齢者の虐待防止と権利擁護の推進	地域や関係機関及び介護サービス事業者との連携により、早期発見から迅速かつ適切な対応・継続した見守りまでの一貫した虐待防止の仕組みを強化します。また、高齢者の権利や財産を守るため、権利擁護の取り組みや成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)		すべての高齢者の権利が尊重され、その人らしく安心して生活できるまちを目指します。	
	(最終目標と目標年度)			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	権利擁護研修の実施、高齢者虐待防止システムの効果的な運営、高齢者の権利擁護実現のために成年後見制度利用支援事業のPR、必要に応じて老人福祉法に基づく市長申立てを行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	成年後見制度相談件数	一般社団法人北九州成年後見センター(みと)に委託し、成年後見制度の利用支援(相談)を行い、判断能力が乏しい高齢者等の権利擁護に努めました。	615 件	増加	532 件
権利擁護に関する研修会実施回数	地域包括支援センター職員を対象に権利擁護に関する研修を実施することで、各職員のスキルアップを行い高齢者虐待防止や権利擁護に努めました。	8 回	維持	8 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	毎年寄せられる100件近い通報毎に訪問調査などを実施し、それぞれのケースに合った介護サービスや制度、見守りなどが受けられるように支援しています。これにより、高齢者虐待の早期解決に一定の効果をおげることができたと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	高齢者虐待防止・権利擁護に関する取り組みは他に例がなく、また現在の事業運営よりも低コストで同程度の効果を得られるとは考えられません。また、本事業のうち、高齢者虐待防止は「高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する支援等に関する法律」に基づくものが多く、同法上の実施主体は市町村となっているため市の関与をなくすことはできません。さらに、権利擁護のうち成年後見制度の市長申立ても市町村長にその責務があるため、市の関与はなくせません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 判断能力の衰えた高齢者等が成年後見制度を利用し、適切に介護サービスや施設入所、財産管理などを行い、高齢者がその人らしく安心して暮らしていけるまちをつくるために、高齢者虐待や成年後見制度などで困ったときは、地域包括支援センターに相談すればいいということをさらに多くの市民に周知していくことが課題であると考えます。また、平成24年10月から障害者虐待防止法が施行したように、高齢者に関連する法令は施行や改正が多く、さらに既存の法令にも精通しておく必要があるため、地域包括支援センター職員など高齢者虐待対応関連職員に、今後とも時宜を得た研修を行い、知識の習得を図っていくことが課題であると考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	高齢者虐待や成年後見制度など高齢者の権利擁護関連の相談は地域包括支援センターであることを周知したチラシを配布するなど市民周知を図っていきます。また、高齢者虐待対応関連職員からアンケートを実施し、職員が必要と考える法令等についての研修会を実施します。事業費は現状維持です。	高齢者虐待の早期発見・早期対応を目指します。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	権利擁護・市民後見促進事業						施策番号
							-3-(1)-
コスト	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,075 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
	5,948 千円	12,608 千円		課長	0.05 人 職員 0.2 人	担当課	高齢者支援課
				係長	0.1 人	課長名	野 瀬

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	法人後見受任件数 (年度末現在)	31 件	増加	42 件	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが困難なため、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	
(最終目標と目標年度)					

活動計画	第4期の市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	市民後見人養成数 (累計)	59 人	増加	69 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行っていくことで、成年後見制度の担い手や理解者を増やしているため。			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	
(最終目標と目標年度)					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	予定どおり、第4期市民後見人養成研修を実施しました。修了者10名のうち、3名が北九州市社会福祉協議会権利擁護・市民後見センターでの活動を希望し、成年後見制度の担い手として活躍することになりました。また、市民後見人個人での受任については家庭裁判所と協議を行いました。進展がなく、今後も協議を続けていきます。成果実績や活動状況については、養成数及び法人後見受任件数は前年度よりも増加していることから順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	平成23年度に老人福祉法が改正され、市民後見人の養成は市町村の責務となりました。そのため、市の施策として実施する必要があり、さらに養成研修終了後、活動する場である北九州市社会福祉協議会(権利擁護・市民後見センター)に研修業務を委託することは効率的であると考えています。また、現時点では、市民後見人の受け皿としては同センターが適当であり、補助金の交付先としては適当であるとともに、後見報酬としての収入分は削除するなど経済的な補助金の運用を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 家庭裁判所においては、現在のところ市が養成した市民後見人を個人で後見人に選任するという判断に至っていません。弁護士会等の専門団体と協力しながら対応を検討する必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	補助交付団体の決算額の精査等により事業費は縮小するものの、今までの取り組みに加え、市が養成した市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの構築に向けた検討会を開催するなど、積極的な事業運営を行っています。なお、平成25年度予算からは事業費を障害福祉課と按分します。	市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの方向性を形付けます。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	認知症高齢者地域ケア推進事業						施策番号
							-3-(1)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 10,247 千円	平成24年度当初予算額 12,014 千円	人件費 の目安	金額 4,325 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
					課長 0.05 人 職員 0.3 人	担当課	高齢者支援課
					係長 0.15 人	課長名	野 瀬

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 北九州市を「認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」にするために、認知症を理解して、認知症の方を地域で温かく見守り、支える「認知症サポーター」の養成に取り組むとともに、介護にあたっている家族の精神的・身体的な負担の軽減を図るためささえあい相談会の実施、認知症の本人や家族が抱える不安や悩みなどを気軽に相談できる認知症コールセンターを設置します。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】		
	認知症コールセンター相談件数	419 件	維持	482 件			
	認知症に関する正しい理解と啓発を図り、認知症に関する相談をしやすい環境を整備します。 (最終目標と目標年度) 平成26年度 420件			(最終目標と目標年度)	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

活動計画	大人だけでなく、中学生や高校生などの若い世代への普及・促進に力を入れて取り組むこととしています。さらに、ささえあい相談会や認知症コールセンターなどの業務を通じ、実際に認知症になった人や認知症患者と暮らす家族が安心して暮らしていけるまちの実現に努めていきます。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	26,522 人	増加	31,189 人			
	認知症コールセンター相談員研修実施回数			2 回	維持	2 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	認知症サポーター養成講座受講者数は、受講団体等の新規開拓や小・中学校での講座開催などにより、数多くの方に受講していただきました。また、認知症コールセンターの相談件数も増加しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	認知症サポーター養成講座は委託して実施しており、委託内容は継続して見直しています。認知症コールセンターは、事業内容が特殊ですが、予算の範囲内で効率的な運営ができています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	認知症についての更なる啓発のため、認知症サポーター養成講座受講者(累計)の更なる増加が必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	事業の効率化等により事業費は減額となっていますが、様々な機会、認知症サポーター養成講座の開催を図り、受講者数の増加に取り組みます。認知症コールセンターについては、相談者への継続的な情報提供に取り組みます。	認知症サポーターの養成者数が増加することによって、地域の認知症理解者が増加します。認知症コールセンターは、継続的な情報提供の強化によりフォローアップの充実を図ります。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	障害者地域啓発事業							施策番号	
								-3-(1)-	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,480 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
		65 千円	110 千円		課長	0.02 人 職員 0.1 人		担当課	精神保健福祉センター
					係長	0.05 人		課長名	三井

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市民に対する障害理解のための啓発活動を通じて、あらゆる障害者が地域で安心して暮らすことができることが当たり前の社会を実現することを目指します。				成果実績	下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】			
	障害者が地域で安心して暮らすことができることが当たり前の社会の実現		障害者が地域で安心して暮らすことができることが当たり前の社会の実現		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	市民に対する啓発活動を通じて、障害者が地域で安心して暮らすことができることが当たり前の社会の実現を目指します。 (最終目標と目標年度)							
	(最終目標と目標年度)				順調			

活動計画	平成23年度からは新たに戸畑で事業を実施することから、地域や施設の特性に応じた事業運営を図ります。				活動実績	戸畑障害者地域活動センターの「戸活まつり」に協力する形で啓発活動を実施しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】				
	障害者地域活動センターでのイベント参加者数		200 人	233 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
	3障害を対象とする施設として設置されている市内の地域活動支援センターを会場に、地域の人に参加する啓発事業(イベント)を実施します。 (1センターあたり年1回、3年間)	680 人		116.5 %					
	(最終目標と目標年度)				順調				

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	23年度は戸畑障害者地域活動センターのイベントに協力しました。障害者地域活動センターを拠点とすることで、地域の協力を得ながらの事業実施が可能となっており、地域を巻き込んだ取り組みとしては有効と考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	障害者への理解を深め、地域における自主活動を促すという役割を果たすという意味で、1箇所につき3年という期限付きで事業を実施するという手法は、よいきっかけづくりになっていると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	地域による自主運営を目指し、地域や施設の特性を生かした事業運営を図る必要があると考えます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度も、引き続き戸畑障害者地域活動センターのイベントに協力し、障害者に対する啓発活動に努めます。 なお、事業費は事務の見直しなどにより前年度より縮小しますが、より効率的な啓発ができるよう内容の見直しを検討します。
	前年度と同程度(約200人)の参加者に、精神障害に対する啓発を行い、理解を深められるよう努めます。

P D C Aチェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	「障害のある人の人権啓発冊子」の作成						施策番号
							-3-(1)-
コスト	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	483 千円 (備考)	担当局	保健福祉局
	2,159 千円	263 千円		課長	0.005 人 職員 0.03 人	担当課	障害福祉課
				係長	0.02 人	課長名	坂元

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	障害や障害のある方に対する、市民、企業、行政機関における正しい理解や知識を深めるため、障害の種別や特性などの説明、障害によって生じる日常生活上の不便な事などを分かりやすく説明するとともに、「何が障害のある人の差別にあたるのか、何が権利の侵害にあたるのか」などについて具体的な事例を紹介した小冊子を作成し、啓発を図ります。			成果実績	下記の成果指標のとおりです。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】	
	市民等における障害のある人の人権に対する理解と認識を深めます		障害者の人権に対する理解と認識の向上		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民等における障害のある人の人権に対する理解と認識が深まっていることを数値で表すことは、現在は困難です。今後代替指標を含め、成果を検証できる客観的指標を検討します。 (最終目標と目標年度) -					
	(最終目標と目標年度)				順調	

活動計画	幅広い分野の構成員から成る冊子作成作業グループの意見を参考にしながら、冊子の作成に向けた研究・検討を進めます。				活動実績	下記の活動指標のとおりです。
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	障害のある人の人権尊重について啓発の推進		冊子の作成	冊子の完成	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害のある人の人権尊重について、より多くの市民、企業等が正しく理解し、実践を促すきっかけとなるよう、人権啓発冊子を作成し、様々な機会を活用して、効果的な啓発活動を行います。	-				
	(最終目標と目標年度)				順調	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」 「効率性」 の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 既に組織されている本市の障害者自立支援協議会を活用して内容を検討することで、効率的でコストがかからないよう遂行しました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題 平成23年度は、障害のある人に対する正しい理解と認識を深め、差別に関する考えを新たにさせていただく人権啓発冊子を作成しました。今後は、この冊子を使った具体的な啓発活動の実施が必要と考えています。 次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 啓発冊子の作成(増刷)は現状維持としますが、障害のある人自身が進行するワークショップなど、市民にとってわかりやすく、興味をもっていただけるような啓発イベントを、障害者団体との協働により、各地域において数多く実施するよう図ります。 障害者の人権に対する理解と認識の向上が一層進むことを目指します。

PDCAチェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	権利擁護・市民後見促進事業							施策番号			
								-3-(1)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	3,075 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		5,948 千円	12,608 千円		課長	0.05 人		職員	0.2 人	担当課	高齢者支援課
					係長	0.1 人				課長名	野瀬

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
----------	------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】
	法人後見受任件数(年度末現在)	31 件	増加	42 件	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが困難なため、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)				
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

活動計画	第4期の市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	市民後見人養成数(累計)	59 人	増加	69 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行っていくことで、成年後見制度の担い手や理解者を増やしているため。				
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」 「効率性」 の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 予定どおり、第4期市民後見人養成研修を実施しました。修了者10名のうち、3名が北九州市社会福祉協議会権利擁護・市民後見センターでの活動を希望し、成年後見制度の担い手として活躍することになりました。また、市民後見人個人での受任については家庭裁判所と協議を行いました。進展がなく、今後も協議を続けていきます。成果実績や活動状況については、養成数及び法人後見受任件数は前年度よりも増加していることから順調と判断しました。 平成23年度に老人福祉法が改正され、市民後見人の養成は市町村の責務となりました。そのため、市の施策として実施する必要があり、さらに養成研修終了後、活動する場である北九州市社会福祉協議会(権利擁護・市民後見センター)に研修業務を委託することは効率的であると考えています。また、現時点では、市民後見人の受け皿としては同センターが適当であり、補助金の交付先としては適当であるとともに、後見報酬としての収入分は削除するなど経済的な補助金の運用を行っています。
------------------	--	--

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 家庭裁判所においては、現在のところ市が養成した市民後見人を個人で後見人に選任するという判断に至っていません。弁護士会等の専門団体と協力しながら対応を検討する必要があります。 次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの方向性を形付けます。
	補助交付団体の決算額の精査等により事業費は縮小するものの、今までの取り組みに加え、市が養成した市民後見人が個人で後見人に選任される仕組みの構築に向けた検討会を開催するなど、積極的な事業運営を行っていきます。なお、平成25年度予算からは事業費を障害福祉課と分担します。	

P D C Aチェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	戦没者等慰霊事業						施策番号		
							-3-(4)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,075 千円 (備考)	担当局	保健福祉局	
		6,392 千円	8,542 千円		課長	0.05 人	職員	0.2 人	担当課
			係長		0.1 人			課長名	倉知

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にした たいのか 先の大戦で亡くなられた方々や遺族の方々等に対して、市主催の戦没者追悼式や原爆犠牲者平和祈念式典等の慰霊・援護を継続して実施します。			成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、慰霊・援護業務を継続して実施していくことを目指します。		
代表的な成果指標	指標 <small>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】 代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	すべての市民が戦没者や原爆の犠牲者に対する追悼の心を持ち、また援護していく必要性を感じ、併せて平和の尊さを理解し、共有すること。		市民の戦争に関する記憶が風化することなく、また慰霊の心や、援護に対する理解を持つ。				
	先の大戦によって亡くなられた方々、ご遺族の方々などに対する慰霊や援護事業を、継続して実施していくことが求められています。 (最終目標と目標年度)継続した取組みを行うことが必要です。				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	
	(最終目標と目標年度)						

活動計画	平成23年度は戦没者追悼式を市内5ヶ所で開催し、また、8月9日には、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典を行います。他、海外における福岡県出身戦没者の慰霊巡拝に職員を派遣します。			活動実績	下記の実施の他、戦没者追悼式に併せて、市内2箇所で戦時資料パネルの展示会を行い、計画以上の活動を行いました。		
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</small>	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	戦没者追悼式や原爆犠牲者慰霊平和祈念式典の実施		継続的に実施する。				
	先の大戦において亡くなられた方々を追悼し、平和を祈念するため、戦没者追悼式を市内5箇所で主催する他、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典での慰霊等を行い、多くの方の参列を受け入れます。				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	戦没者追悼式や原爆犠牲者慰霊平和祈念式典は、戦争体験者等にとってかけがえのない事業となっており、本市の慰霊・援護事業はなくてはならないものとなっています。
「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで、 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	各種式典等は、先の大戦において亡くなられた方々を追悼するためのものであり、区役所や遺族会、原爆犠牲者の会等の協力で効率的に運営されており、コスト等を削減する余地はあまりありません。	

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	先の大戦によって亡くなられた方々、ご遺族の方々などに対する援護・慰霊等、関係団体との連携を踏まえて、今後も継続して事業を実施していくことが課題であると考えます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	戦没者等の慰霊に対する遺族の想いは大きく、また、次世代へ継承するため、事業の継続した取組みが求められています。事業の質及び予算の規模について現状を維持します。
	援護・慰霊業務等について、従来どおり質・規模を維持します。

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	障害者スポーツ振興事業						施策番号			
							-2-(3)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,647 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局	保健福祉局	
		49,030 千円	52,659 千円		課長	0.041 人	職員	0.25 人	担当課	障害福祉課
					係長	0.13 人		課長名	早崎	

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害のある人でも気軽にスポーツに親しめる環境づくりを目的として、障害者のスポーツ大会やスポーツ教室等を開催するとともに、各種スポーツクラブによる大会の開催や選手の派遣費用に対し助成するなど、自主的なスポーツ活動に対し支援を行います。				成果実績	下記の成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 <small>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績(達成率)	[成果の状況]			
	障害者がスポーツに親しめる環境の向上		障害者がスポーツに親しめる環境の向上					
	障害者のスポーツ大会やスポーツ教室等を開催するとともに、自主的なスポーツ活動に対し支援を行うなど、障害者がスポーツに親しめる環境の向上を目指します。 (最終目標と目標年度)							
				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調			

活動計画	北九州市障害者スポーツ大会や各種の障害者スポーツ教室を開催するとともに、障害者団体等によるスポーツ大会の開催や参加への支援を行います。				活動実績	下記の活動指標のとおりです。		
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</small>	前年度実績	目標	実績(達成率)	[活動の状況]			
	障害者スポーツ教室等参加者数		増加	2,417 人				
	教室参加者の特性を十分に考慮し、安全かつ安心して参加できる教室になるように努めます。	2,811 人						
	北九州市障害者スポーツ大会参加者数		増加	45 人 <small>ただし、雨天により 屋内実施可能 競技参加者のみ</small>	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			
	大会参加者が、安全かつ安心して参加できる大会となるように努めます。	542 人						順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	障害者スポーツ教室等の参加者については、障害者スポーツセンターの引越し等に伴い開催回数が減となり、参加者数は前年度を下回りましたが、1回あたりの参加者数は前年度を上回りました。また、障害者スポーツ大会は雨天のため、室内競技しか開催できず、参加者数は前年度実績を下回ったものの、参加登録者数は前年度を上回る560人であり、活動の状況としては、順調と考えています。 参加登録者数にも表れているとおり、障害者のスポーツに親しめる環境は向上していることが感じられるため、成果の状況についても順調と考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	常勤の職員だけで、大会や教室を運営するのは不可能であり、ボランティアの協力を受けながら、経済的かつ効率的な運営(委託及び負担金支出)に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入									
見直し状況等	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新障害者スポーツセンターのオープンにより、利用者は大幅に増えています。障害者スポーツセンターを拠点として、ハード、ソフト両面での充実を図り、障害者がスポーツに親しむ機会の増加に努めます。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>市制50周年事業に予算計上した、国際車椅子バスケットボール大会、小学生ふうせんバレーボール大会を除く事業費は現状維持します。その上で、利用者のニーズに合ったスポーツ教室などを開催していきます。</td> <td>スポーツ教室や各種スポーツ大会参加者の増加を目指します。</td> </tr> </table>	課題		新障害者スポーツセンターのオープンにより、利用者は大幅に増えています。障害者スポーツセンターを拠点として、ハード、ソフト両面での充実を図り、障害者がスポーツに親しむ機会の増加に努めます。		次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	市制50周年事業に予算計上した、国際車椅子バスケットボール大会、小学生ふうせんバレーボール大会を除く事業費は現状維持します。その上で、利用者のニーズに合ったスポーツ教室などを開催していきます。	スポーツ教室や各種スポーツ大会参加者の増加を目指します。
課題									
新障害者スポーツセンターのオープンにより、利用者は大幅に増えています。障害者スポーツセンターを拠点として、ハード、ソフト両面での充実を図り、障害者がスポーツに親しむ機会の増加に努めます。									
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)								
市制50周年事業に予算計上した、国際車椅子バスケットボール大会、小学生ふうせんバレーボール大会を除く事業費は現状維持します。その上で、利用者のニーズに合ったスポーツ教室などを開催していきます。	スポーツ教室や各種スポーツ大会参加者の増加を目指します。								

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	障害者スポーツセンター整備事業						施策番号		
							-2-(3)-		
コスト	事業費	平成23年度執行額 518,071 千円	平成24年度当初予算額 0 千円	人件費 の目安	金額	2,880 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局	保健福祉局
					課長	0.033 人 職員 0.2 人		担当課	障害福祉課
					係長	0.1 人		課長名	早崎

【Plan】計画	【Do】実施 【Check】評価
----------	------------------

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	本市では、障害者スポーツ振興の拠点として障害者スポーツセンターを設置し、障害者の個人やグループ、スポーツクラブなどにスポーツ活動の場を提供するとともに、スポーツに親しむ各種スポーツ教室の開催や、障害者スポーツ指導員等のボランティア育成の拠点として運営しています。 この障害者スポーツセンターについては、建築から30年以上経過して老朽化しているうえに、屋内プールやトレーニング室がなく、障害者の多様なスポーツニーズに対応できていない状況であるため、再整備を行います。	成果実績	下記の成果指標のとおりです。
-----------	--------------------	---	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】
	障害者スポーツセンター改修工事	改修工事進捗率	0 %	100 %	100 %
	(最終目標と目標年度)			100.0 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
					大変順調

活動計画	障害者スポーツセンターの改修工事を行います。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	------------------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】
	障害者スポーツセンター改修工事	改修工事進捗率	0 %	100 %	100 %
				100.0 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
					大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	予定どおり終了しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	平成22年度に実施した実施設計や、当事者及び障害者団体などとの意見交換を踏まえ、限られた予算の中で、障害者スポーツセンターの改修工事が終了しました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	新たな障害者スポーツセンターを整備し、予定通りオープンしました。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	本事業は、平成22年度に実施した実施設計や、当事者及び障害者団体などとの意見交換を踏まえ、限られた予算の中で、障害者スポーツセンターの改修工事が完成したため、目標達成として事業を終了します。	-

P D C A チェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	介護人材の確保							施策番号			
								-3-(1)-			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	2,960 千円	(備考)	担当局	保健福祉局		
		22,993 千円	32,732 千円		課長	0 人		職員	0.2 人	担当課	介護保険課
					係長	0.1 人				課長名	横山

【Plan】計画 【Do】実施 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	介護の人材不足に対応するため、介護福祉士やホームヘルパー等の資格を有しながら介護職に就労していない潜在的有資格者を対象に、再び介護サービスに従事してもらえるよう再就労のための研修や施設見学など必要な支援を行うとともに、介護施設への就労に向けたマッチング機会を創出するため、市内の介護施設へ正規雇用を前提に派遣を行うなど介護人材の確保を図ります。				成果実績	成果の状況は、下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【成果の状況】				
	参加者の就職率	35 %	30 %	37 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	潜在的有資格者就労支援事業と介護人材就労サポート事業において、参加者のうち就職に結びついた人の割合を、ハローワークにおける一般職業紹介における新規求人に対する就職率約30%程度と設定しました。(平成23年度29.7%) (最終目標と目標年度)就職率30% 平成26年度			123.3 %					
	平成22年度 参加者数108人 就職者数38人(35%) 平成23年度 参加者数93人 就職者数35人(37%) (最終目標と目標年度)					順調			

活動計画	研修事業の実施時期を年間2回(9月・2月)行われている「福祉の職場求人・求職面談会」の前後に開催することにより、より多くの求職者の再就労が図れるよう実施します。また、派遣事業も40人の派遣実施及び正規雇用に向けた就労支援を進めます。				活動実績	研修事業を年2回実施するとともに、3ヶ月の派遣事業を実施するため、受入れ希望事業者103施設と派遣希望労働者146人のマッチングを支援しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】				
	潜在的有資格者就労支援セミナー参加者数	70 人	80 人	67 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	資格を有しながら就労していない潜在的有資格者の掘り起こしを行うため、再就労のためのセミナーへの参加者数を活動指標としています。			83.8 %					
	介護人材就労サポート派遣労働者数	38 人	40 人	26 人		順調			
資格を有しながら就労していない潜在的有資格者を介護保険施設へ3ヶ月派遣することで、派遣期間満了後の正規雇用を支援する指標として、派遣労働者数を指標としました。	65.0 %								

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	介護人材の就労支援における就職率については、ハローワークにおける一般職業紹介の就職率を上回ることができました。また、研修事業においては、申込者のキャンセルなどにより受講定員が目標に達していないため、今後は各種の求人求職面談会や就職説明会などの様々な機会を通じ、研修への積極的な参加について働きかけをしていきます。	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	研修事業を委託している社会福祉協議会は当該事業との連携が必要不可欠な北九州市福祉人材バンク業務も受託しており、コスト面で効率的です。
------------------	---	---	--	-------------------------------------	---	--

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 研修事業においては、参加者の就職率は目標を達成しているが、参加者数は申込者のキャンセルなどにより目標の定員に達していません。また、介護の仕事のイメージアップなど、長期的な視点での支援策も必要と考えます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	各種の求人求職面談会や就職説明会などの様々な機会を通じ、研修への積極的な参加について働きかけをしていきます。また、多額の経費が必要な労働者派遣事業である就労サポート事業の定員を実績をもとに見直し、より労働者が気軽に参加できる研修事業の充実を図ります。 事業費:減額
	介護の仕事のイメージアップや多くの未就労者が研修を受講することで、介護サービス事業所への就職者数が増加します。	

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	介護サービス従事者等への研修の実施						施策番号	
							-3-(1)-	
コスト	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,480 千円	(備考)	担当局	保健福祉局
	13,647 千円	16,323 千円		課長	0 人 職員 0.1 人		担当課	介護保険課
				係長	0.1 人		課長名	横山

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 介護サービス従事者を対象に、ホームヘルパーやケアマネジャー等の職種別専門研修や全てのサービス事業者に必要な知識・技能を取得するための基礎的研修事業など多様なテーマの研修を実施し、介護サービスの質の向上とスキルアップを図ります。			成果実績	成果の状況は、下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【成果の状況】		
	介護サービス従事者研修受講者数	3,692 人	4,000 人	3,289 人			
	介護サービスの質の向上のために、介護サービス従事者に職種別に応じて様々な研修を行い、できるだけ多くの介護事業者を受講してもらうことが必要であるため、参加者数を指標としました。 (最終目標と目標年度) 4000人 平成26年度			82.2 %			
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調		

活動計画	介護職員向けの医学講座、権利擁護等の研修を実施し介護の質の向上を目指します。また、介護職員の定着率を高めるため、初任者、中堅者、指導者、管理者、経営者の階層別にスキルアップ、メンタルタフネスについての研修を行います。			活動実績	介護や医療に関する知識や技術、職員育成のノウハウなど様々なテーマで年63回の研修を実施しました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	研修会の回数	61 回	単年度目標なし	63 回			
	介護サービス事業者では、事業所の規模や経験などから人材育成のための教育・研修の時間が十分に取れない事業者が比較的多い。このため、研修への参加意欲を促すため、様々なテーマの研修を企画実施した回数を指標としました。 (平成22年度介護労働実態調査より・介護サービスを運営する上での問題点) 教育・研修の時間が十分に取れない。 28.5% 良質な人材の確保が難しい 48.5%			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度は、申込者数は22年度と同程度でしたが、業務の都合による当日キャンセルなどにより申込者数に対する受講率が減少しています。今後は、申込者の受講率の改善を目的に、事業主や管理者に対して、従事者の質の向上のため、研修参加に協力していただくよう働きかけていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	委託先の社会福祉法人北九州市福祉事業団は、市民福祉の向上と増進を図っている事業団であるため、幅広い研修の実施ノウハウを有しており、経済的かつ効率的な事業実施が図られています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	研修への申込者数は大きく変化していませんが、業務の都合による当日キャンセルなどで申込者数に対し、受講率が低下しています。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	申込者数の受講率の改善を目的に、事業主や管理者に対して、従事者の質の向上やスキルアップのため、研修への参加について配慮するように働きかけていきます。 事業費: 現状維持
	多くの介護従事者が研修を受講し、スキルアップを行うことで、介護サービスの質の向上を図ります。

P D C Aチェックシート(平成23年度実績評価)

事業名	障害者に対する就業支援事業						施策番号
							-3-(2)-
コスト	事業費	平成23年度執行額 23,030 千円	平成24年度当初予算額 31,032 千円	人件費 の目安	金額 2,845 千円 課長 0.03 人 職員 0.2 人 係長 0.1 人	(備考) 直接関わる職員以外 に、多くの職員も関 わっています	担当局 保健福祉局 担当課 障害福祉課 課長名 早崎

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	障害者しごとサポートセンターを拠点に、障害者本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓や企業の意識啓発および就労移行支援事業所等が実施する就労支援に対する効果的な支援への取組みを通じて、障害者の雇用促進を目指します。			成果実績	下記の成果指標のとおりです。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	[成果の状況]	
	障害者しごとサポートセンター利用者の就職件数			79 件		
	支援対象障害者が、職業準備訓練や職場実習あっせん、職場定着支援などの障害者しごとサポートセンター提供のサービス利用を通じて、実際に企業に就職した件数。 (最終目標と目標年度)平成29年度 90人	81 件	増加			
	福祉施設から一般就労への移行件数 障害者の就労を目指す就労移行支援事業所等の利用者が、実際に企業へ就職した件数。 (最終目標と目標年度)平成26年度 48人	33 件	増加	34 件		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

活動計画	障害者が地域でいきいきと自立した生活を送れるよう、「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に運営委託している障害者しごとサポートセンターを拠点として、就職を希望する障害者に対し、指導や助言、職業訓練や職場実習の調整・あっせん、能力や適性に応じた職業紹介の調整などの支援を行うとともに、就職後の職場定着支援や新たな職場の開拓を行うほか、企業の障害者雇用に対する理解の進展を図ります。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	[活動の状況]
	新規登録者数			89 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「企業で就職したい」「働いているが悩みがある」などの障害者(障害者手帳を持っていない方も含む)でしごとサポートセンターのサービス利用を希望し、その年度、新たに利用登録する方的人数。	108 人	増加		
	職業準備訓練および職場実習のあっせん件数			42 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
継続および新規でしごとサポートセンターに登録している障害者に、職業準備訓練や職場実習をあっせんした件数。	45 件	増加			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	相談件数のうち、特に発達障害者の総相談件数は562件と、昨年度の171件を大きく上回り、特性に応じたきめ細やかな対応ができました。また、平成23年3月11日の東日本大震災以降、求人関係の動きが鈍い時期があったが、職場開拓・職場定着に重点を置いた結果、昨年度とほぼ同じ79件の就労を実現しました。成果の状況は順調と考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	センターの運営は、同様の機関である「北九州障害者就業・生活支援センター」を国・県から受託している「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に委託しており、2つのセンターが合同で活動することで高い効率性を得ています。また、関係機関(労働局・ハローワーク)と密に連携を図り、効果的・経済的な取組みに努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
見直し状況等	課題				
	今年度も順調に成果をあげています。今後もより多くの障害者が自らの能力を活かし、社会の一員として活躍できるよう、障害者しごとサポートセンターを拠点とした、就業支援事業を継続していきます。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>現状規模の事業費の中で、これまでの取り組みをさらに発展させるため、事業所の新規訪問、定着支援や、関係機関との連携を強化していきます。</td> <td>関係機関との連携によって、より効果的な就労支援を図り、さらなる障害者雇用の促進を目指します。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	現状規模の事業費の中で、これまでの取り組みをさらに発展させるため、事業所の新規訪問、定着支援や、関係機関との連携を強化していきます。	関係機関との連携によって、より効果的な就労支援を図り、さらなる障害者雇用の促進を目指します。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
現状規模の事業費の中で、これまでの取り組みをさらに発展させるため、事業所の新規訪問、定着支援や、関係機関との連携を強化していきます。	関係機関との連携によって、より効果的な就労支援を図り、さらなる障害者雇用の促進を目指します。				